

勝本浦地区美しいまちづくり基本計画

～港と歴史を楽しむ居心地のよい勝本浦～

平成18年1月
長崎県壱岐市



原田酒店



勝本港



旧松本薬局



まちなみの検討(ワークショップ)



まち歩きの様子(ワークショップ)



まちづくりの提案(ワークショップ)



旧つたや旅館



かつもと朝市



石橋酒店・吉田酒店

はじめに

勝本浦には、土肥家鯨組、朝鮮通信使寄港地、蒙古襲来、対馬屋敷跡の塚、勝本押役所跡地、神功皇后の神馬足跡（馬蹄石）、勝本朝市、聖母宮に祀られた神功皇后、文禄・慶長の役の出城であった勝本城跡、幕府巡検使の宿所、酒造家等数多くの歴史遺産が残っています。

これは、勝本浦が、中国大陸や朝鮮半島への中継基地として重要な役割を担ったこと、また経済・文化・技術の拠点であったことを物語っていると同時に、勝本浦の貴重な資産として保存・活用していくことが、今後のまちづくりの基盤として、もっとも重要であります。

また、勝本浦がどのような歴史的背景によって生まれ、どのような経過で築き上げられてきたのかを市民の方々はもちろん、島外の人々に対しても、この現状を正確に把握し、正確に伝え、理解して頂くとともに、全国屈指の漁港基地としての漁村集落、市街地の勝本らしい商家や町家などを、地域の活きた資産として活用し、新たな視点からの「勝本浦らしさ」の再発見によって、「元気なまち・勝本浦」に安らぎと賑わいを取り戻し、活性化を図ることを目的とした、「勝本浦地区美しいまちづくり基本計画」を策定致しました。

これからは、この基本計画に基づいて、勝本浦の環境整備を進めて参りたいと考えておりますので、地域皆様方の尚一層のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成18年 1月



壱岐市長 長 田 徹

はじめに	1
基本計画の概要	4
基本計画の対象地区	6
第1章 計画の位置づけ	8
1. 背景と目的	
2. 対象地区	
3. 手順と構成	
第2章 吉崎市と勝本浦の現況	11
1. 位置	
2. 歴史・文化	
3. 自然	
4. 人口	
5. 産業	
6. 漁業	
7. 商工業・商店街	
8. 観光	
9. 土地利用	
10. 都市施設	
第3章 まちづくりの資源と課題	29
1. 歴史	
2. 文化	
3. 産業	
4. 自然	
5. ワークショップによる資源と課題の掘り起こし	
6. まちなみ調査にみる建物の特色	
第4章 計画の基本方針	50
第5章 まちづくり基本計画	51
1. まちの骨格計画	
2. 街路整備計画	
3. 小広場・駐車場整備計画	
4. 町屋(住宅・店舗等)整備計画	
5. 拠点施設整備計画	
6. 史跡・文化財等周辺整備計画	
7. おもてなし計画	
8. 住民発意の計画とその推進	

第6章 計画の推進	66
1. 計画の事業化とスケジュール	
2. 事業の推進体制	
資料	69
1. 吉岐勝本浦まちづくり推進委員会 委員名簿	
2. 勝本浦地区美しいまちづくり推進事業におけるワークショップ 開催実績表	
3. 勝本浦地区美しいまちづくり推進事業における第1回ワークショップ かわら版	
4. 勝本浦地区美しいまちづくり推進事業における第2回ワークショップ かわら版	
5. 勝本浦地区美しいまちづくり推進事業における第3回ワークショップ かわら版	
6. 勝本浦地区美しいまちづくり推進事業における第4回ワークショップ かわら版	
7. 勝本浦地区美しいまちづくり推進事業におけるワークショップ 取組み方の提案	

基本計画の概要 - 1



第4章 計画の基本方針

第4章 計画の基本方針

基本構想におけるまちづくり資源の「キー・ワード」

- ・典型的な漁港集落の骨格と表情を残す「町並み」
- ・神功皇后に由来し、加藤清正も表門を造営寄進した「聖母宮」
- ・豊臣秀吉の命を受け構築された「勝本城跡」
- ・日本と朝鮮・アジアを結んだ「朝鮮通信使」
- ・異国警護の要となった「勝本押役所」
- ・三井・鴻池と並ぶ日本三大富豪の鯨王・勝本の「土肥鯨組」
- ・松尾芭蕉の高弟「河合曾良」終焉の地
- ・友好都市・諏訪市からの贈り物「吉崎御柱」
- ・生業に打ち込む人々の姿を今に伝える、西日本を代表する船競漕「船ぐる」
- ・「イカ釣漁船」保留数日本一
- ・国際的な原産地保護認定の「吉崎焼酎」
- ・江戸時代から続く伝統ある「かつもと朝市」
- ・国指定天然記念物(海浜植物)混生地、国定公園・特別保護地区の「辰の島」
- ・「イカ」と「マグロ」が回遊する豊かな海

ワークショップで上げられた、より具体的なまちづくり資源の「キー・ワード」

- 「湾曲した本通り」、「町屋の軒の連なり」
- 「奥まで続く路地」、「まちなみの背景となる緑」
- 「坂道から見下ろす港の眺め」
- 「歴史的建造物」、「昔の家の造り」
- 「石・木・土等の自然素材」
- 「腕木・持ち送り」、「2階の手すり」
- 「格子」、「ばんこ」、「レンガ」
- 「酒屋・酒蔵」、「未活用の建物」
- 「史跡・文化財」、「神社・寺院」
- 「ほこら・井戸・石造物」、「石垣・石塀」
- 「伝統ある朝市」、「玄関先の花や植木」
- 「未収集・未公開の歴史的資料」

ワークショップを通じて示された住民の意向

「古くからのまちのつくりやそれらを伝える人の努力を大切に、港町・勝本らしさが感じられるような、住民にも観光客にも居心地のよいまちをめざしたい」

計画の理念と基本方針

港と歴史を楽しむ居心地のよい勝本浦づくり

- 1.空間構成や地区特性に合わせたゾーンとルートを設定する……………まちの骨格計画
- 2.まちなみに調和した落ち着きと港町らしさをあらわす……………街路整備計画
- 3.小広場等を適所へ配置し、利便性と潤いを付加する……………小広場・駐車場整備計画
- 4.改修・新築時には伝統的町屋にならう……………町屋(住宅・店舗等)整備計画
- 5.既存の建物を活用し勝本らしさを演出する……………拠点施設整備計画
- 6.地域の歴史や文化に親しみやすくする……………史跡・文化財等周辺整備計画
- 7.観光客がまちの魅力を満喫できるようにする……………おもてなし計画
- 8.住民の意思と意欲を尊重し柔軟に対応する……………住民発意の計画とその推進

第5章 まちづくり基本計画

1. まちの骨格計画

- (1) まちの空間構成を尊重した整備
 - ・勝本らしい空間構成を尊重し、その特徴をより際立たせるように整備
- (2) 5つのゾーン設定
 - ・歴史的・空間的なつながりや建物の主要用途等の特徴により、5つのゾーンに区分し、特性を踏まえて整備
- (3) まち歩きルートの設定
 - ・魅力的なポイントをもった「まち歩きルート」を設定
 - ・本通りと海岸道路を主とした「メインルート」と、小路の魅力も楽しめるサブルートを設定

2. 街路整備計画

- (1) まちなみに合わせた舗装の整備
 - ・それぞれの空間に調和する材料・色等を選定
 - ・自然素材の採用を検討
 - ・それぞれの地区特性を考慮
- (2) まちを演出する街路灯・サイン等の整備
 - ・設置場所を再検討
 - ・景観になじむ質感を備えるよう検討
 - ・まちを演出する小道具としてデザイン
- (3) 景観を損なう電線の地下埋設・移設の推進
 - ・本通りは地中埋設化を推進
 - ・海岸道路や小路等でも移設を推進
- (4) 海や緑を楽しむ遊歩道の整備
 - ・海岸道路は海を感じる憩いの空間として整備
 - ・山手側への小路は緑に親しむ散策路として整備

3. 小広場・駐車場整備計画

- (1) まちなみにめりほりをつける小広場の整備
 - ・未整備・未利用の空地为ポケットパークとして整備
- (2) 既存の公園や身近な空地の見直しと再整備
 - ・既存の公園等を再整備
 - ・ワークショップ方式での見直しを検討
 - ・小広場整備を積極的に推進
- (3) 利用しやすくまちなみに調和した公衆トイレの整備
 - ・まち歩きで利用しやすい位置に整備
 - ・外観はまちなみに調和させる
 - ・商店街の各店舗のトイレ整備を誘導
- (4) わかりやすく利用しやすい駐車場の整備
 - ・海岸道路沿いでまち歩きルートに近接する位置に観光客用駐車場を整備
 - ・空地为駐車場用地として借り上げる等により、整備を推進
 - ・駐車場が殺風景にならないよう工夫
- (5) まちなみ景観を損なわない駐車場の整備
 - ・自然素材を用いた塀や樹木等により、まちなみ景観を損なわないよう工夫

4. 町屋(住宅・店舗等)整備計画

- (1) 伝統的町屋等の価値の周知
 - ・建築時期・特徴等が確認された町屋等に、それらを記したプレートを設置
 - ・登録文化財制度やまちづくり景観資産登録制度への登録を推進
- (2) 改修・新築時の参考となる手引き書の作成
 - ・まちなみに調和した建物づくりのわかりやすい手引き書を作成し、誘導
- (3) 建物外観についての協定づくり
 - ・まちなみ整備の方針と整備基準をワークショップ形式で検討し、建物外観についての協定を作成
 - ・協定にもとづき、街なみ環境整備事業や美しいまちづくり住民協定制度を活用した整備
- (4) 広告物についての基準づくり
 - ・まちなみに調和する広告物についてワークショップ形式で検討し、デザイン基準を作成
 - ・基準にもとづき、広告景観モデル地区制度を活用した整備

5. 拠点施設整備計画

- (1) 魅力的な拠点施設の整備
 - ・歴史的に価値の高い酒屋・酒蔵等の建物や、十分に整備・活用されていない建物を、拠点施設と位置づけて整備
- (2) 空家の調査と活用
 - ・空家状況を調査・吟味し、休憩所・案内所や改修のモデルとなる店舗へ転用

6. 史跡・文化財等周辺整備計画

- (1) 史跡・文化財等の価値の周知
 - ・名称や歴史等を調査し、説明板を設置
 - ・わかりやすい読本やミニ写真集、パンフレットの作成等を検討・実施
- (2) 日常的に触れ合う環境の整備
 - ・老朽化した史跡・文化財等を修復整備
 - ・ベンチ・植栽等を併設して環境整備
- (3) 登録文化財制度等の活用
 - ・登録文化財制度やまちづくり景観資産登録制度へ登録して保全・修復整備

7. おもてなし計画

- (1) わかりやすい「まち歩きマップ」の作成
 - ・わかりやすいマップやガイド本を作成
 - ・まちなみの写真やイラストを絵はがきにして紹介・販売
- (2) 「まち歩きガイド」の育成
 - ・「まち歩きガイド」の勉強会を実施し、地元の人々がガイドする観光ツアーを企画
- (3) おもてなしにつながる継続的な日常活動の実践
 - ・海やまちを清掃する、沿道を花で飾る等の活動を継続
 - ・勉強会やシンポジウム等を開催し、「おもてなしの心」を醸成
- (4) 地域の食材・食文化の活用
 - ・まちを歩きながら食べられる製品を開発
 - ・地元のお祭り料理を提供する場を整備

8. 住民発意の計画とその推進

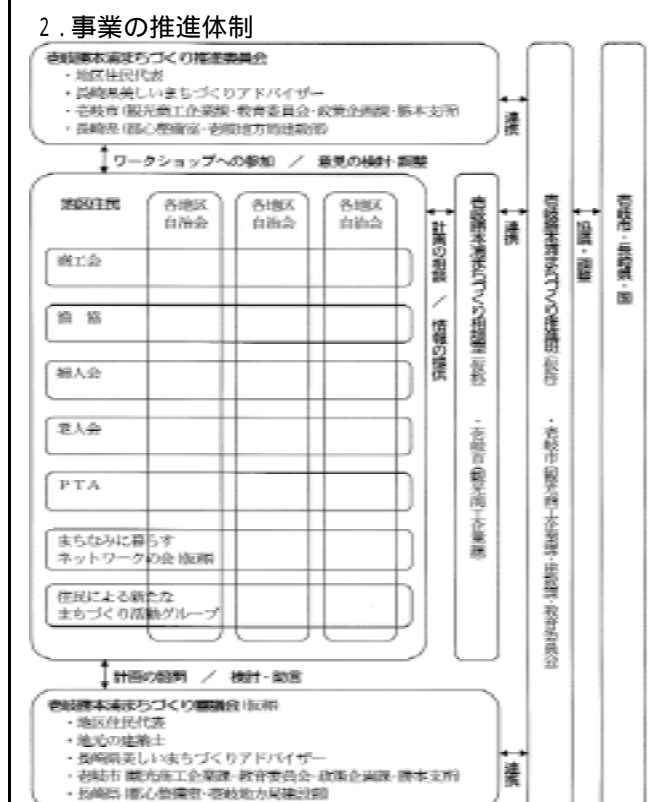
- ・本計画は住民参加によるワークショップでの意見にもとづいた構成
- ・今後も多くの住民が参加できるワークショップ等の参加方式を活用し、住民の意思を反映した計画づくりと事業の実施

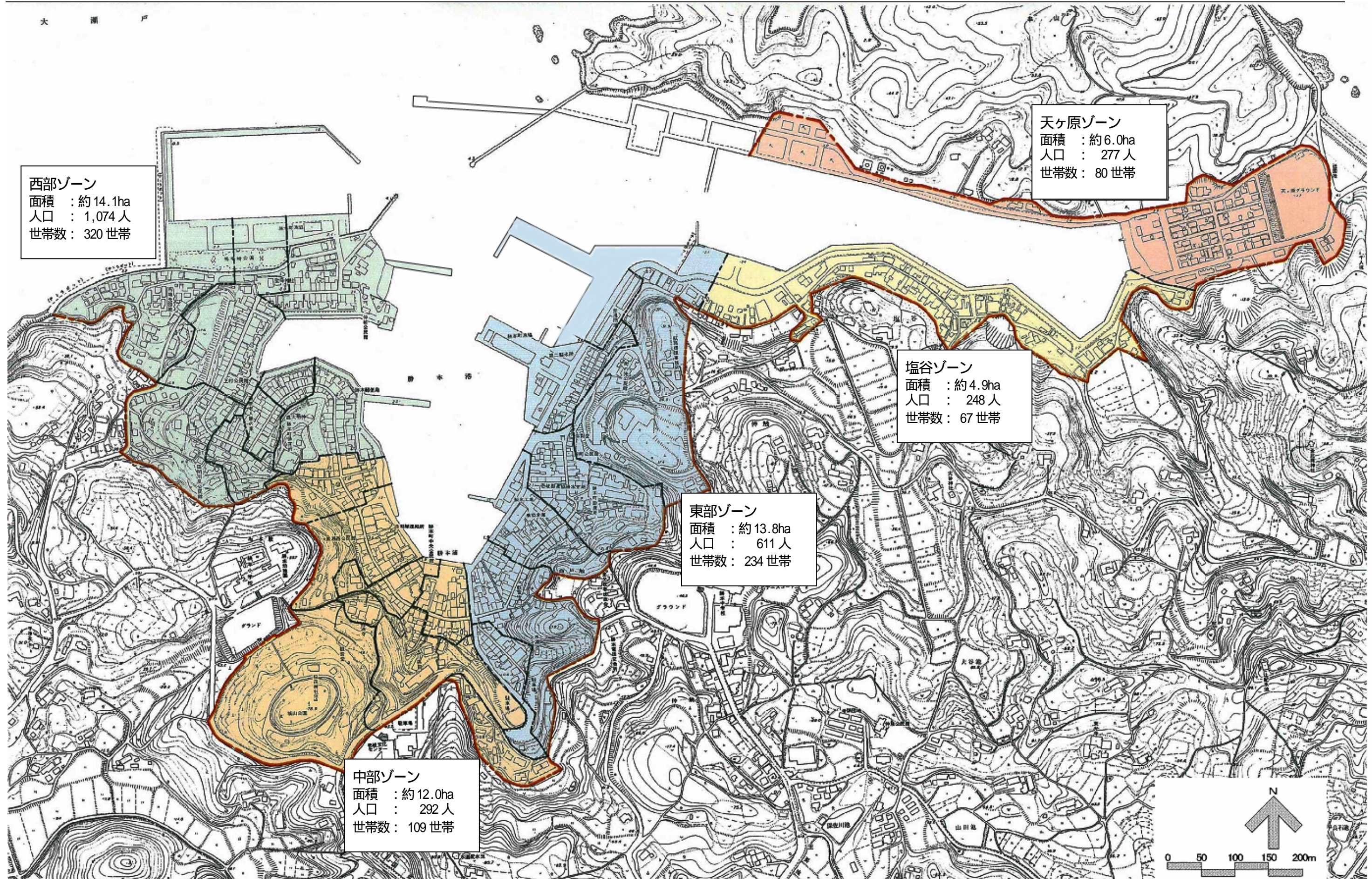


第6章 計画の推進

1. 計画の事業化とスケジュール

整備内容	事業主体	実施時期	実施区域
		短期(1期)	長期(2期)
1. まちの骨格計画			
○ まちの空間構成を尊重した整備	住民・行政	○	○
○ 5つのゾーンの特性を踏まえた整備	住民・行政	○	○
2. 街路整備計画			
○ まちなみに合わせた舗装の整備	行政	○	○
○ まちを演出する街路灯・サイン等の整備	行政	○	○
○ 景観を損なう電線・電柱の地下埋設・移設の推進	行政	○	○
○ 海や緑を楽しむ遊歩道の整備	行政	○	○
3. 小広場・駐車場整備計画			
○ まちなみにめりほりをつける小広場の整備	行政	○	○
○ 既存の公園や身近な空地の見直しと再整備	住民・行政	○	○
○ 利用しやすくまちなみに調和した公衆トイレの整備	行政	○	○
○ わかりやすく利用しやすい駐車場の整備	行政	○	○
○ まちなみ景観を損なわない駐車場の整備	住民	○	○
4. 町屋(住宅・店舗等)整備計画			
○ 伝統的町屋等の価値の周知	住民・行政	○	○
○ 改修・新築時の参考となる手引き書の作成	行政	○	○
○ 建物外観についての協定づくり	住民・行政	○	○
○ 広告物についての基準づくり	住民・行政	○	○
○ 協定にもとづき建物外観の改修	住民・行政	○	○
○ 基準にもとづき広告物の改修	住民・行政	○	○
5. 拠点施設整備計画			
○ 魅力的な拠点施設の整備	住民・行政	○	○
○ 空家の調査と活用	住民・行政	○	○
6. 史跡・文化財等周辺整備計画			
○ 史跡・文化財等の価値の周知	行政	○	○
○ 日常的に触れ合う環境の整備	行政	○	○
○ 登録文化財制度等の活用	住民・行政	○	○
7. おもてなし計画			
○ わかりやすい「まち歩きマップ」の作成	行政	○	○
○ 「まち歩きガイド」の育成	住民	○	○
○ おもてなしにつながる継続的な日常活動の実践	住民	○	○
○ 地域の食材・食文化の活用	住民	○	○
8. 住民発意の計画とその推進			
○ 住民参加ワークショップの推進	住民・行政	○	○





第1章 計画の位置づけ

1. 背景と目的

勝本浦は、漁業が盛んな吉岐市の中でもとりわけ、古くからもっとも大きな規模で漁業が行われてきたところである。江戸期には捕鯨で隆盛をきわめた。しかし、近年は漁業従事者数の減少が続く、魚価の低廉と相俟って、地域経済の沈滞傾向が慢性化している。

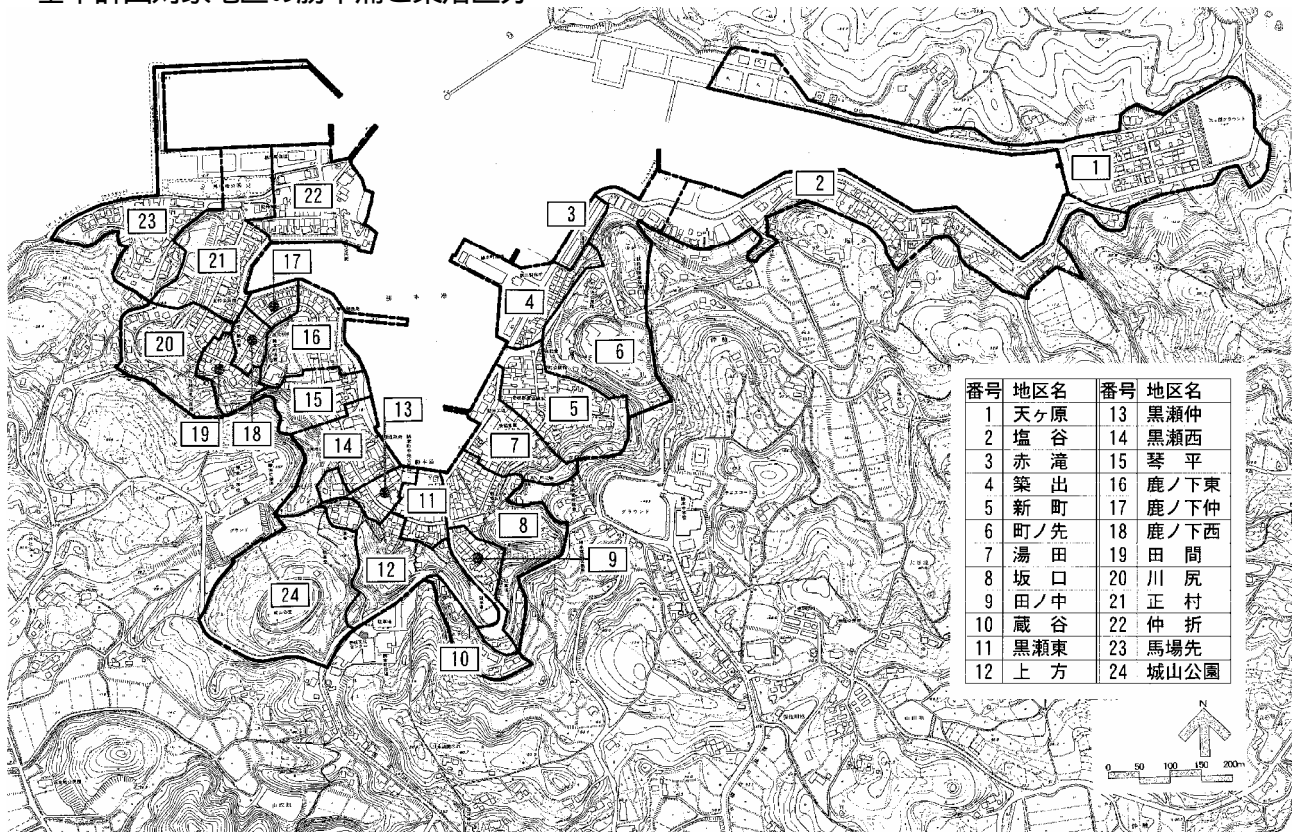
そこで、平成17年1月より、長崎県の美しいまちづくり推進施策の支援を受けて、魅力あるまちなみの保全・整備を進め、地域の活性化に資することを目的とした「勝本浦地区美しいまちづくり推進事業」への取組みが始められた。最初に、地区の住民代表の方々、長崎県の美しいまちづくりアドバイザー、関係行政職員による「吉岐勝本浦まちづくり推進委員会」が設立され、これからのまちづくりの方向性や進め方等について、委員会での議論や先進地視察を重ねて、「吉岐勝本浦まちづくり基本構想」がまとめられた。

本計画は、こうした背景を踏まえて、勝本浦の魅力と課題を把握し、いまある資源を活かした魅力あるまちづくりを進めるための方針と実現方策を定めることで、住民が誇りと愛着を持って気持ちよく住み続けられるような、また、来訪者に何度でも訪れてみたいと思われるような美しいまちづくりの実践につなげることを目的とする。

2. 対象地区

基本計画の対象地区としては、歴史的・文化的・産業的に密接な関係があり、現在の行政区分の1単位でもある吉岐市勝本浦の23地区に、後背地である城山公園を含めた範囲(東西約1.9km、南北約1.0km、面積約50.7ha)とする。

基本計画対象地区の勝本浦と集落区分



3. 手順と構成

「第2章 彦根市と勝本浦の現況」は、昨年度の「彦根勝本浦まちづくり基本構想」に基づき、また「第3章 まちづくりの資源と課題」から「第6章 計画の推進」までは、それに加えて、地区住民および彦根勝本浦まちづくり推進委員会メンバーの参加によるワークショップ形式での検討に基づいてまとめている。

なお、4回にわたって行われたワークショップでの検討内容は、毎回「速報版(かわら版)」としてまとめ、地区内約780世帯に配布した。

また、第3回ワークショップでは、本計画の検討作業と同時期に行われた、神奈川大学・西教授のグループによる「まちなみ(歴史的建造物群)の実態調査」の中間報告会も行われた。

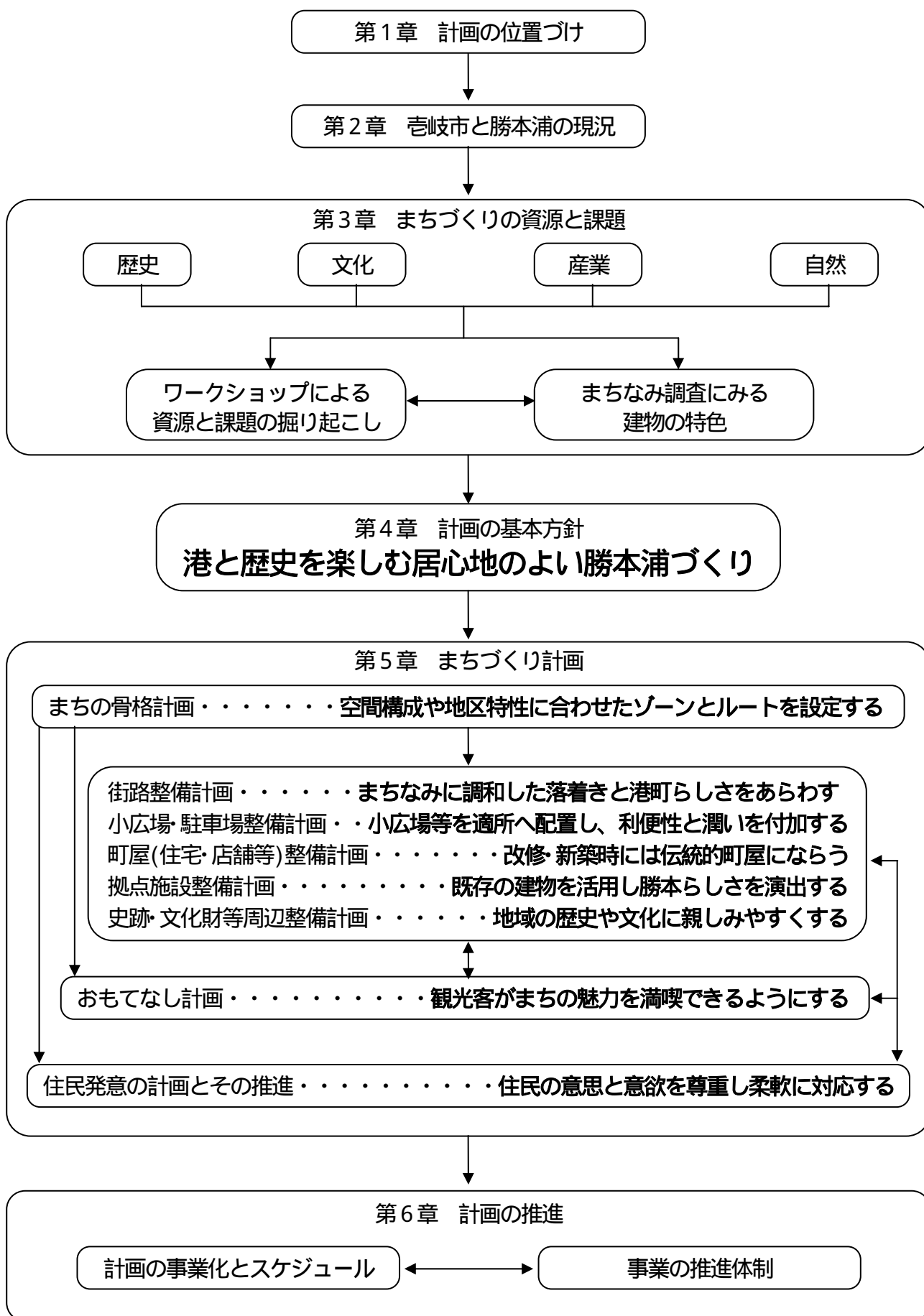
ワークショップの内容

回	開催日	テーマ・内容
第1回	6月19日(日)	《まち歩きでまちづくりの資源と課題を掘り起こそう!》 ・3つに分けた地区を6グループに分かれて歩き回り、まちの資源と課題を探し出す ・資源と課題について意見交換する
第2回	7月12日(火)	《魅力と課題からめざすまちの姿を考えよう!》 ・魅力と課題を整理する ・緊急度が高いものへの取組み方や内容を考える
第3回	9月14日(水)	《くらしの中の宝物を探し、活かし方や整え方を考えよう!》 ・主に公共空間で取組むべき場所や取組み方・整備内容を考える ・西教授のグループによる調査中間報告 ・小学生による「勝本浦の景色と生活」絵画作品の展示
第4回	10月24日(月)	《まちなみの整え方を考えよう!》 ・スライドを見ながら、まちなみ景観の見方や捉え方を考える ・主に建物外観の良いところと変えたいところを考える

ワークショップの様子



計画の構成



第2章 壱岐市と勝本浦の現況

1. 位置

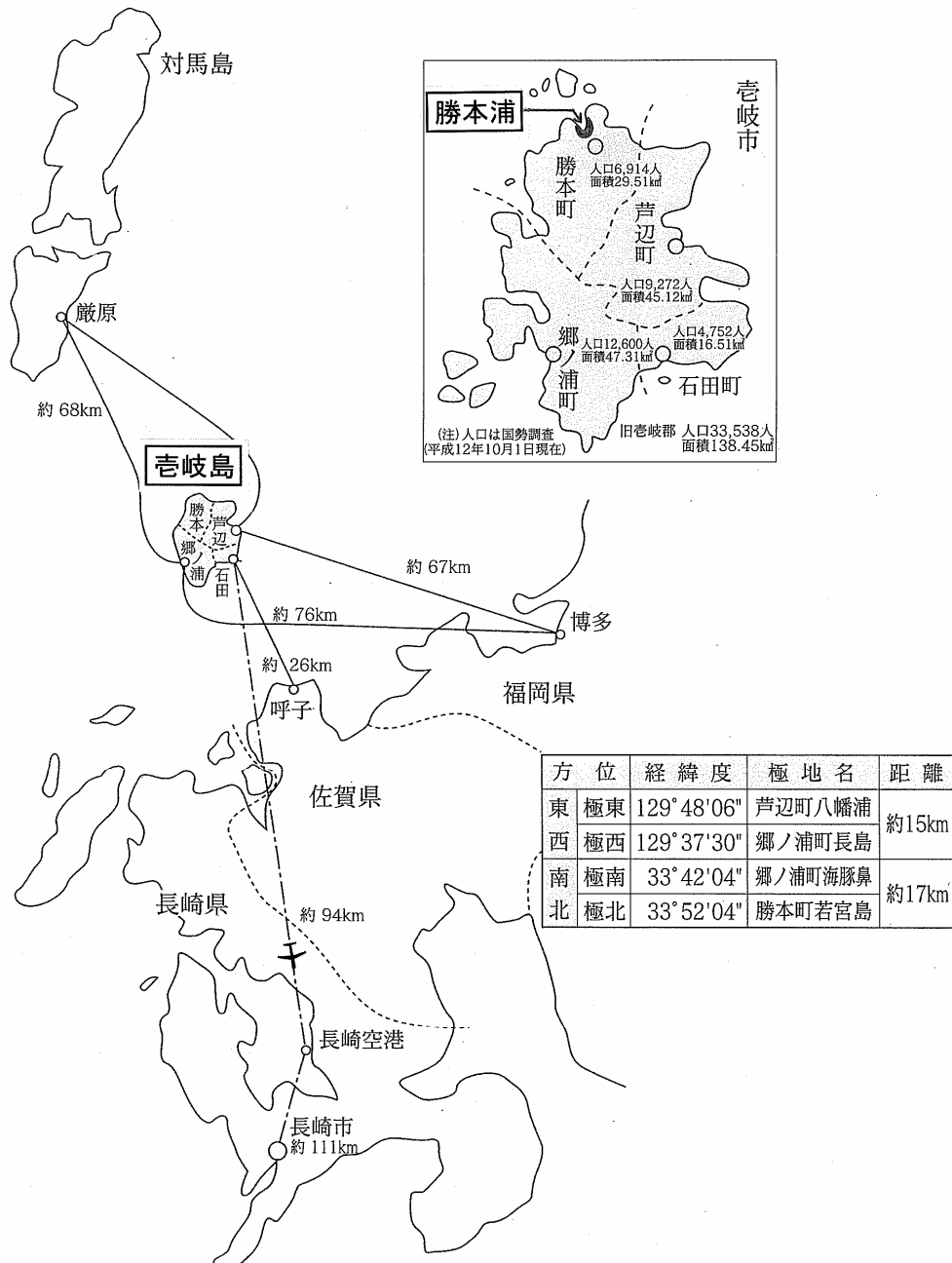
壱岐は、長崎県北部の日本海に位置し、面積は約138km²、幅は東西に約15km、南北に約17km、延長約191km(属島を含む)の海岸線をもつ島である。

2004(平成16)年3月1日、郷ノ浦町、勝本町、芦辺町、石田町が合併して島全体が一つの壱岐市となった。

計画地の勝本浦は、島の北端に位置し、更に北には対馬島、朝鮮半島を望む。

壱岐市勝本浦の位置

資料：壱岐島勢要覧（2004—2005）



2. 歴史・文化

(1) 元寇 (文永の役1274・弘安の役1281)

鎌倉時代中期の1274(文永11)年と1281(弘安4)年の2回にわたり、壱岐は元軍の襲撃に見舞われ、甚大な被害を受けた。文永の役では、約4万の大軍が勝本方面に上陸している。

(2) 平戸の松浦氏 (1571~1870)

室町時代末期、それまで100年近く壱岐を領有していた波多氏から壱岐の主権を奪った日高氏は、翌1571(元亀2)年、波多氏の依頼に応じて勝本町の浦海(うろみ)海岸に上陸してきた対馬・宗氏を、平戸・松浦氏の援軍を受けて撃退する。これより日高氏は松浦氏に隷属し、壱岐国は平戸・松浦氏の領有となる。

1591(天正19)年、豊臣秀吉は朝鮮出兵(文禄・慶長の役)に当り、勝本城の構築を平戸・松浦氏に命じた。

幕藩体制下、平戸藩の壱岐統治として、島を24村の在(ざい・農村)と8浦(うら・漁村)に分け、在の者は農業、浦の者は漁業・回船・商業等によって生計を立てさせた。政治機構としては、城代とその下の2人の郡代は平戸藩が派遣し、在については4人の代官、各村に庄屋を置き、その下に触(ふれ)毎の初頭(さすがしら・百姓頭)を置いた。浦については浦役を置き、各浦に浜使(はまづかい)を置いた。

(3) 朝鮮通信使 (1607~1811)

朝鮮通信使とは、朝鮮王国が江戸幕府に派遣した外交使節団であり、日本側の将軍が交代した折の祝賀を目的として、江戸時代初期の1607(慶長12)年から1811(文化8)年までの約200年間にわたり12回来日している。その内、勝本港には往路11回、帰路8回入港し宿泊している。通信使の一行は平均450名という多人数であり、この使節団を案内する対馬藩からも毎回約800名が同行している。宿舎は平戸藩により、正村の地に約2500坪の大館舎が造られた。現在はその基礎石3個だけが残り、神皇寺本堂跡に阿弥陀堂が建てられている。

勝本城跡



朝鮮通信使迎撃所跡の阿弥陀堂



(4) 鯨組 (1493～1897)

壱岐での捕鯨は、室町時代中期の1493(明応2)年に始まり、江戸時代中期が最盛期であったが、以降徐々に衰退し、1897(明治30)年をもって終わる。

勝本・田ノ浦の土肥鯨組は、江戸時代中期以後の盛漁期には操業船56隻・従業者858名を有しており、「鯨一頭しとめれば七浦うるおう」といわれた当時、年間平均27頭を捕獲していた。当時の土肥家は日本の鯨王といわれ、三井・鴻池と共に日本の三大富豪ともいわれていた。

捕鯨業で財を成した4代目土肥市兵衛は1716(明和4)年、御茶屋屋敷に大邸宅を構えた。その南側には、「アホウ堀」と呼ばれる、高さ7.08m、長さ90mの石堀が今も残っている。

(5) ^{かわいそら}河合曾良

徳川幕府の巡見使とは、諸国を回って地方政治の良否を視察して復命する役で、将軍の代替わり毎に派遣されている。松尾芭蕉に師事し「おくのほそ道」の旅にも随行した河合曾良は、その巡見使に同行したが、1710(宝永7)年、壱岐国内の巡見の折、勝本浦で客死している。能満寺にある曾良の墓は今も地元の人々に守られており、終焉の地である中藤家の庭先には碑が建てられ、城山公園の一角には句碑も建立されている。

(6) 幕末から明治へ

幕末期の壱岐は、勝本浦に設けられた押役所(おさえやくしょ)を中心に異国船の警固に追われたが、攻撃を受けることもなく明治時代を迎え、1871(明治4)年の廃藩置県により平戸県となるが、同年11月には新しく成立した長崎県に所属した。

土肥家鯨組の「アホウ堀」



河合曾良終焉の地にたつ碑



(7) 文化財

勝本浦周辺の国指定文化財としては、民俗文化財である「沓岐神楽」、「沓岐の船競漕行事（船ぐる）」、史跡として「勝本城跡」、天然記念物として「辰の島海浜植物群落」がある。

また、「聖母宮本殿・西門・南門（建造物）」、「聖母宮茶壺（工芸品）」等4点が県指定文化財となっている。

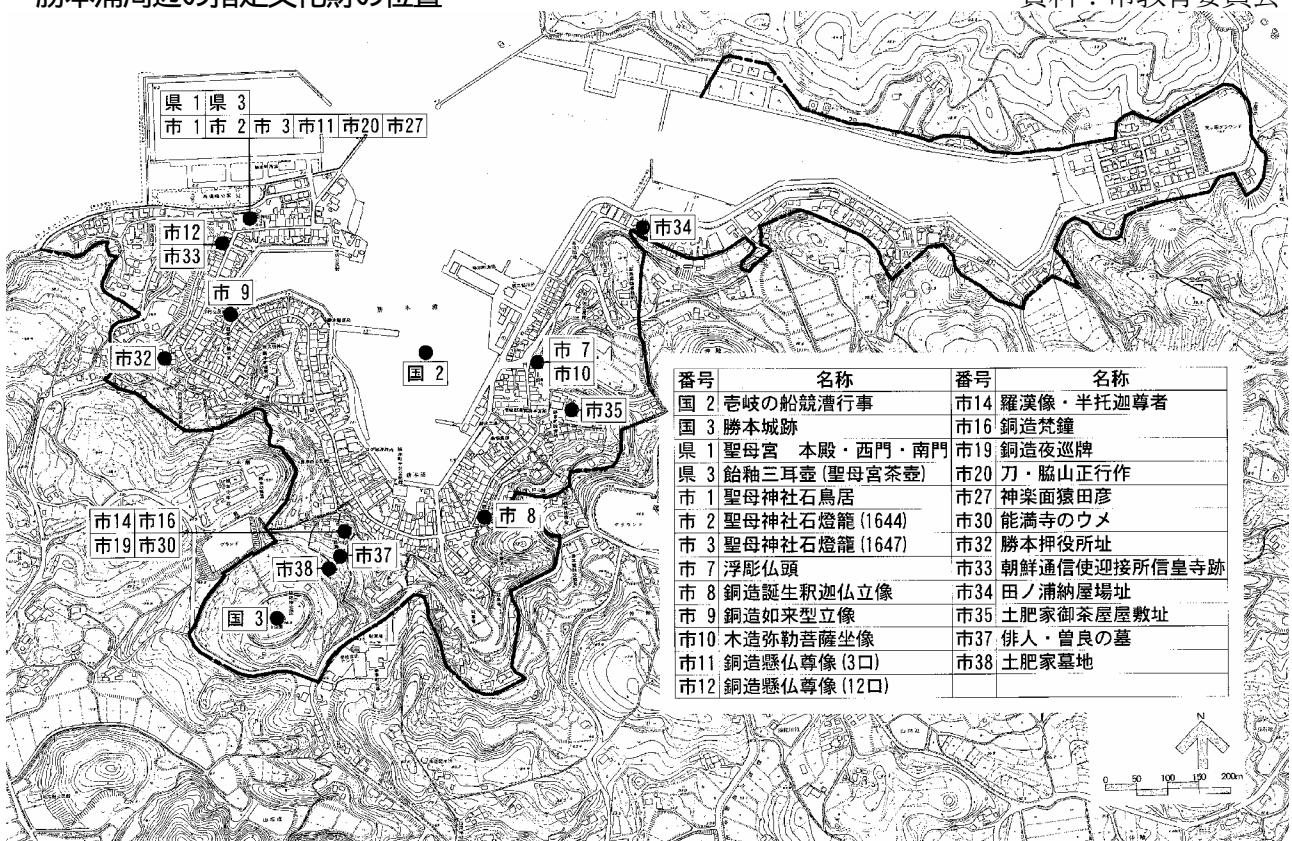
市指定文化財としては、神社・役所跡・社寺・納屋場跡・屋敷跡・絵画・彫刻・工芸品等、有形文化財25、有形民俗文化財3、無形民俗文化財1、記念物9がある。

(8) 沓岐御柱^{おんぼしら}

1994(平成6)年、沓岐市(旧勝本町)は、河合曾良生誕の地である長野県諏訪市と友好都市の提携を結び、1998(平成10)年、諏訪大社で7年に一度行われる長野県無形民俗文化財「御柱祭り」で使われた御柱の寄贈を受けた。現在、御柱の本体は「沓岐御柱」として城山公園に建立されており、また、先端部分は「子柱」としてまちなかに祀られている。

勝本浦周辺の指定文化財の位置

資料：市教育委員会



	番号	種別	名称	所在地
国指定	国1	民俗文化財 民俗	壱岐神楽	壱岐市
	国2	民俗文化財 民俗	壱岐の船競漕行事	壱岐市
	国3	史跡 城跡	勝本城跡	勝本町坂本触
	国4	記念物 植物	辰の島海浜植物群落	勝本町東触 辰の島全域
県指定	県1	有形文化財 建造物	聖母宮 本殿・西門・南門	勝本町勝本浦
	県2	有形文化財 絵画	絹本着色高野四社明神像	芦辺町住吉東触
	県3	有形文化財 工芸品	飴釉三耳壺(聖母宮茶壺)	勝本町坂本触
	県4	史跡 戦場	文永の役新城古戦場	勝本町新城東触
市指定	市1	有形文化財 神社	聖母神社石鳥居	勝本町勝本浦
	市2	有形文化財 神社	聖母神社石燈籠(1644)	勝本町勝本浦
	市3	有形文化財 神社	聖母神社石燈籠(1647)	勝本町勝本浦
	市4	有形文化財 絵画	原田一峰筆 牡丹図	勝本町坂本触
	市5	有形文化財 絵画	松浦静山筆 松竹梅図	勝本町勝本浦
	市6	有形文化財 絵画	凌雲筆 鯨図	勝本町勝本浦
	市7	有形文化財 彫刻	浮彫仏頭	勝本町勝本浦
	市8	有形文化財 彫刻	銅造誕生釈迦仏立像	勝本町勝本浦
	市9	有形文化財 彫刻	銅造如来型立像	勝本町坂本触
	市10	有形文化財 彫刻	木造弥勒菩薩坐像	勝本町勝本浦
	市11	有形文化財 彫刻	銅造懸仏尊像(3口)	勝本町勝本浦
	市12	有形文化財 彫刻	銅造懸仏尊像(12口)	勝本町坂本触
	市13	有形文化財 (装飾)彫刻	墓股	勝本町勝本浦
	市14	有形文化財 工芸品(陶磁)	羅漢像・半托迦尊者	勝本町坂本触
	市15	有形文化財 工芸品(陶磁)	呉須染付大壺	勝本町仲触
	市16	有形文化財 工芸品(梵鐘)	銅造梵鐘	勝本町坂本触
	市17	有形文化財 工芸品(梵鐘)	銅造梵鐘	勝本町仲触
	市18	有形文化財 工芸品(銅版)	銅造鰐口	勝本町東触
	市19	有形文化財 工芸品(銅碑)	銅造夜巡牌	勝本町坂本触
	市20	有形文化財 工芸品(刀剣)	刀・勝山正行作	勝本町勝本浦
	市21	有形文化財 古文書	土肥家文書	勝本町勝本浦
	市22	有形文化財 古文書	吉野家文書	勝本町坂本触
	市23	有形文化財 考古資料	斜行櫛歯文帯内行花文鏡	勝本町仲触
	市24	有形文化財 考古資料	中広銅鉾	勝本町勝本浦
	市25	有形文化財 考古資料	四乳輻状帯鏡	勝本町勝本浦
	市26	有形民俗文化財 漁労用具	鯨切り包丁	勝本町仲触
	市27	有形民俗文化財 神楽面	神楽面猿田彦	勝本町勝本浦
	市28	有形民俗文化財 位牌	土肥家位牌	勝本町仲触
	市29	有形民俗文化財 年中行事	風本祭り囃子	勝本町勝本浦
	市30	記念物 植物	能満寺のウメ	勝本町坂本触
	市31	記念物 城跡	高津城址	勝本町仲触
	市32	記念物 役所跡	勝本押役所址	勝本町坂本触
	市33	記念物 社寺	朝鮮通信使迎所信皇寺跡	勝本町坂本触
	市34	記念物 納屋場跡	田ノ浦納屋場址	勝本町仲触
	市35	記念物 屋敷跡	土肥家御茶屋屋敷址	勝本町仲触
	市36	記念物 墓地	義人・源三の墓	勝本町東触
	市37	記念物 墓地	俳人・曾良の墓	勝本町坂本触
	市38	記念物 墓地	土肥家墓地	勝本町坂本触

3. 自然

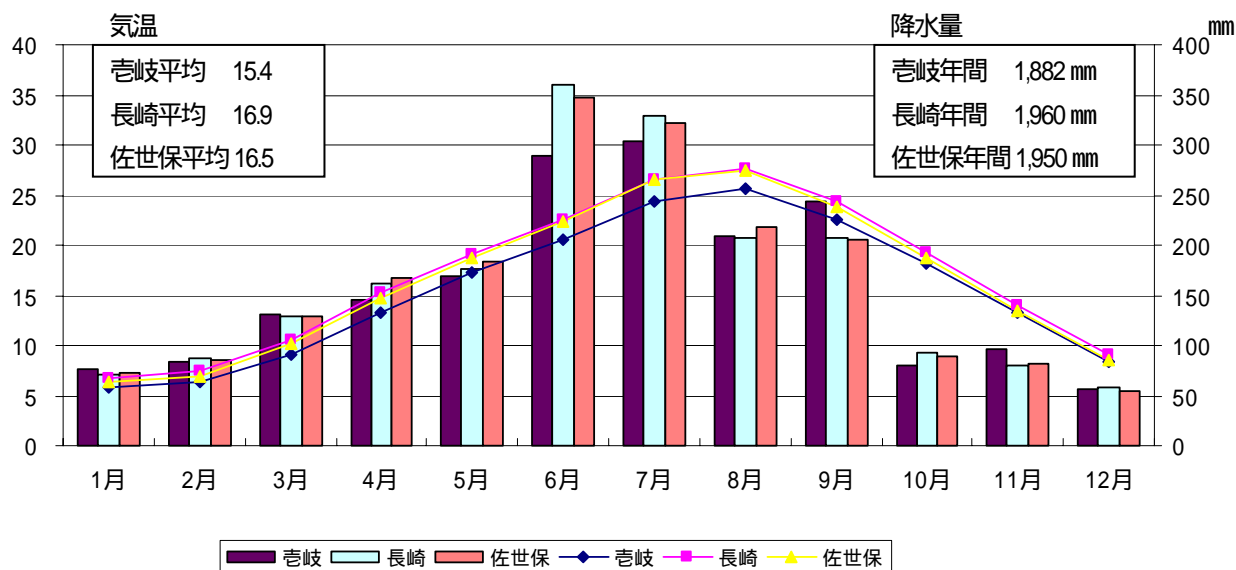
勝本浦は、南側に深く湾入した勝本港沿岸の平地部(延長約1.3km、奥行約100m、標高約1.8～3.0m)にあり、東・南・西の三方を標高約50～80mの丘陵地に囲まれている。

勝本港の北側には、1968(昭和43)年に指定を受けた壱岐対馬国定公園の特別保護地区である辰の島や、第1・2種特別地域である若宮島、名烏島、串山半島がある。また、1978(昭和53)年には辰の島が海中公園地区にも指定される等、自然景観に恵まれている。

壱岐の気温は、県本土の長崎市や佐世保市等と比べると、年間を通して低い。しかし氷点下になることは少なく、降雪もまれである。降水量は6～7月の梅雨期と9月の台風・秋雨期に多い。年間降水量は、県本土と比べるとやや少ない。

壱岐の気温と降水量(昭和46～平成12年の平均)

資料：気象庁ホームページ 電子閲覧室



壱岐勝本浦



4.人口

壱岐市の人口は、1955(昭和30)年の51,765人をピークに年々減少を続けており、2000(平成12)年は33,538人と、最多時の約65%まで減少している。世帯数は1980(昭和55)年以降、約10,600世帯前後で横ばい状態が続いている。

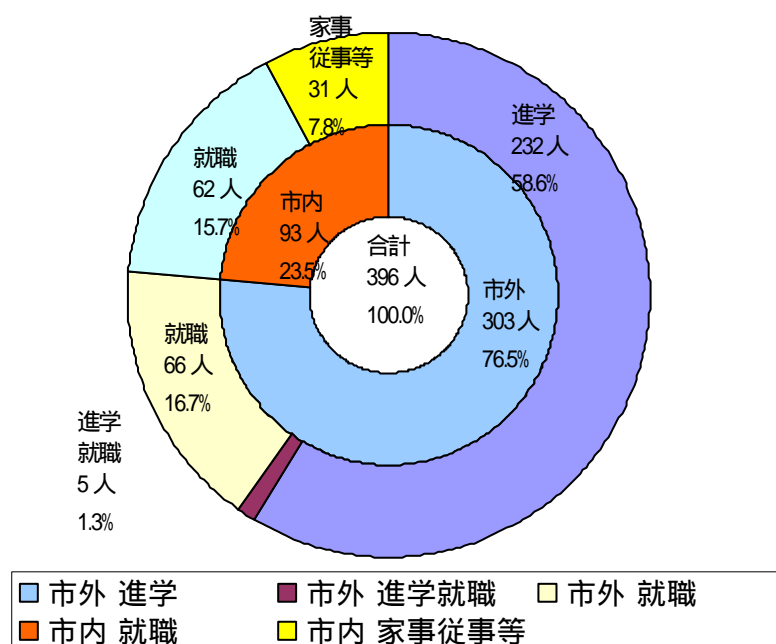
2000(平成12)年の壱岐市全体の高齢人口の比率は27.1%で、県平均の20.9%を大きく上回っている。2003(平成15)年度の高卒卒業生396人中、303人(約77%)が転出しており、若い年齢層の島外流出が原因といえる。

勝本町の人口は、2000(平成12)年で6,914人であり、市全体と同様、1955(昭和30)年の10,960人の約63%まで減少している。6,914人の内訳は、年少人口が1,035人(15.0%)、生産年齢人口が3,772人(54.6%)、老年人口は2,107人(30.5%)となっている。1985(昭和60)年～2000(平成12)年の15年間の年齢3階級別の推移を平均してみると、年少人口は約56人、生産年齢人口は約80人が毎年減少し、老年人口は毎年約43人増加していることになる。世帯数は2000(平成12)年で2,148世帯であり、1985(昭和60)年の2,206世帯より若干減少している。

勝本浦の人口は、2006(平成18)年で2,502人であり、1996(平成8)年の2,840人と比べ、10年間で338人・約12%が減少している。世帯数は、1996(平成8)年の833世帯に対し、2006(平成18)年で810世帯と、若干減少している。

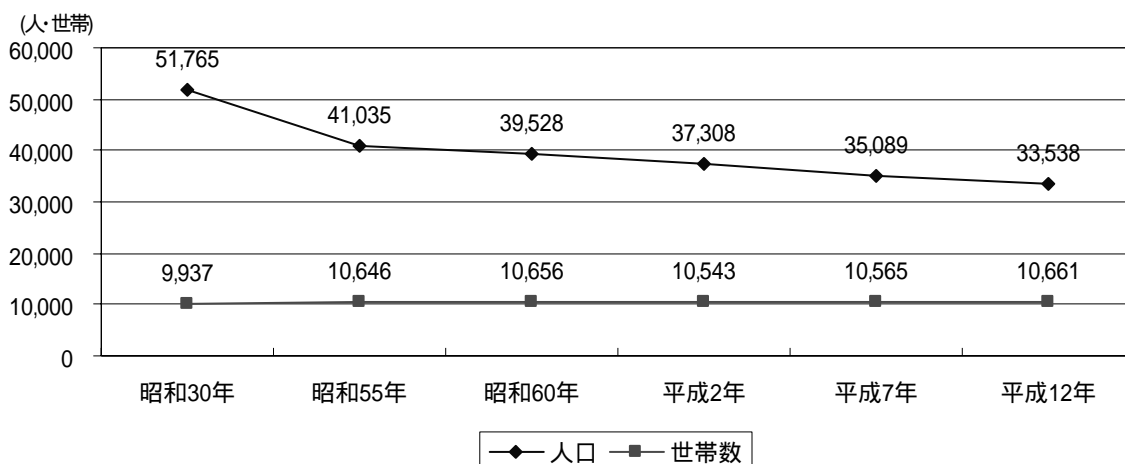
壱岐市の高校卒業生の状況(平成16年)

資料：壱岐教育事務所



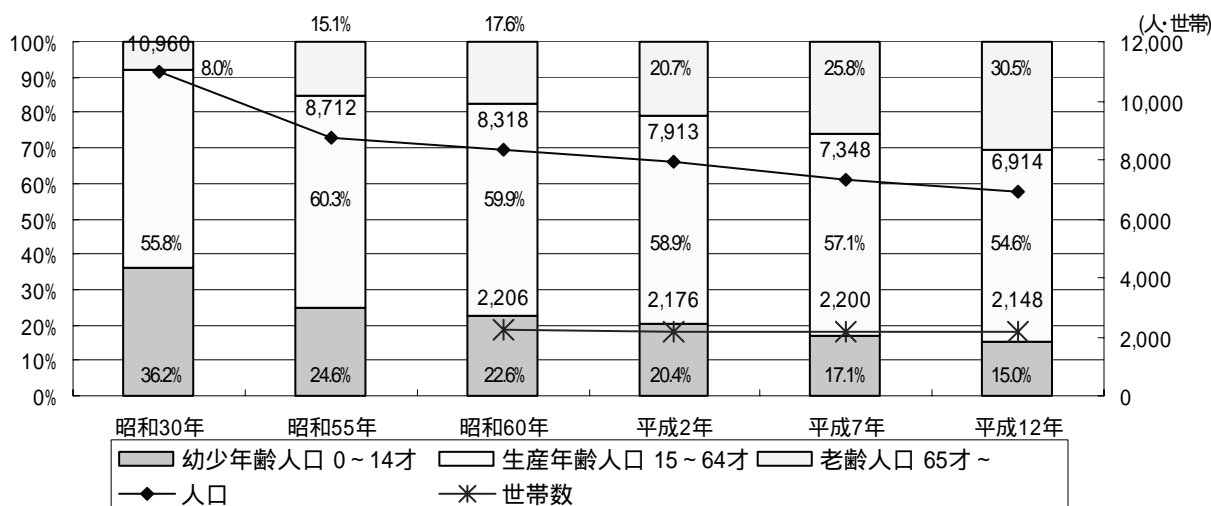
吉岐市の総人口と世帯数の推移

資料：国勢調査



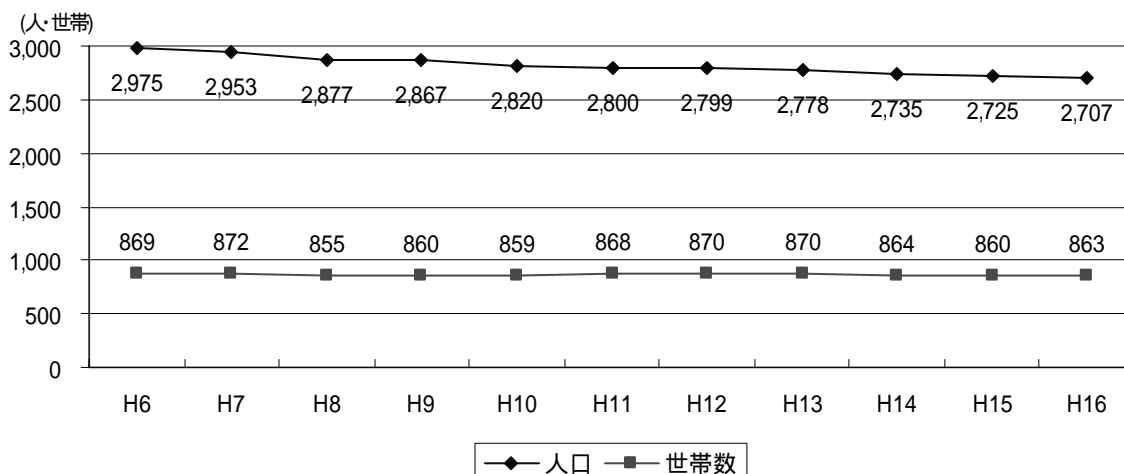
勝本町の総人口・年齢3階級別人口比率・世帯数の推移

資料：国勢調査



勝本浦の総人口・世帯数の推移

資料：住民基本台帳



5. 産業

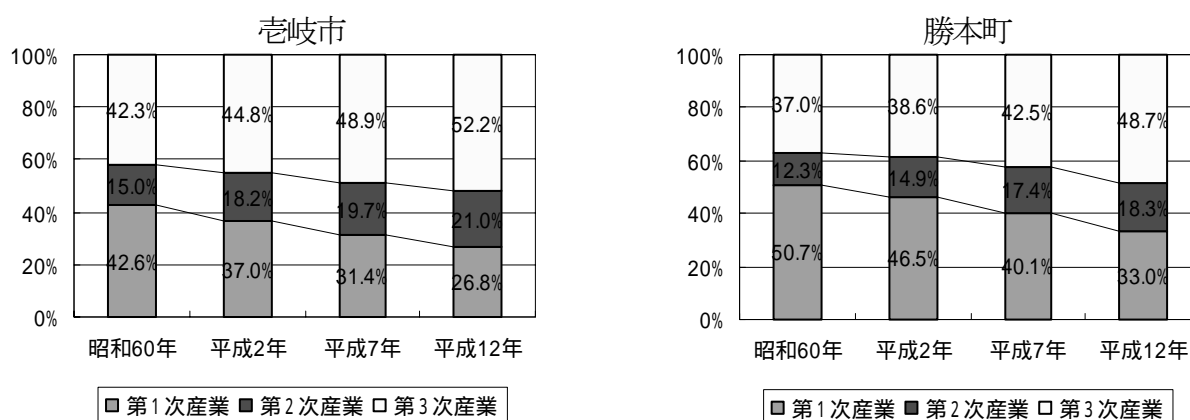
壱岐市の産業別人口は、第1次産業が年々減少し、第2次・第3次産業が増加する傾向にある。第1次産業は2000(平成12)年で26.8%であるが、県平均の9.6%と比べると依然として高い状況にある。

勝本町の産業別人口は、2000(平成12)年で第1次産業1,106人(33.0%)、第2次産業615人(18.3%)、第3次産業1,634人(48.7%)である。第1次産業は1985(昭和60)年の1,867人(50.7%)からは減少しているものの、比率としては市平均より高くなっている。

勝本町の農業就業者数は、1995(平成7)年で940人であり、ここ10年間で394人が減少している。年代別比率をみると、15~39才が7%、40~59才が23%、60才以上が70%であり、高齢化が急激に進んでいる。

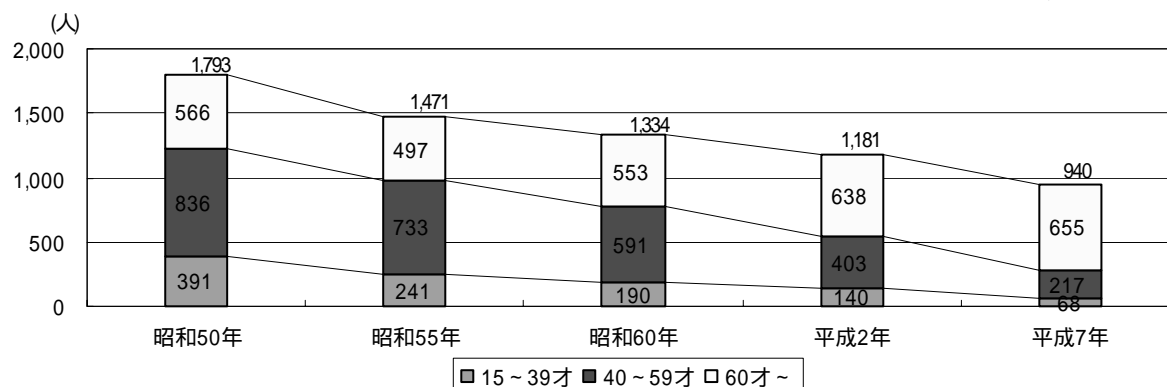
壱岐市と勝本町の産業別人口比率の推移

資料：国勢調査



勝本町の農業就業者数の推移

資料：農業センサス



6. 漁業

壱岐市の漁業生産量・生産額は、1990(平成2)年をピークに減少傾向にある。2002(平成14)年の漁業生産は約9,600トン、約75億円であり、県下全体(指定漁業を除く)の各5.6%、8.4%を占めている。

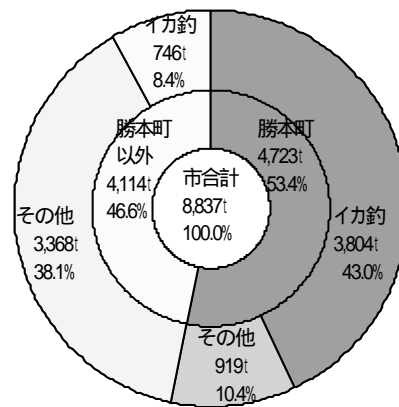
勝本町の漁業生産量は壱岐市全体(養殖業を除く)の約53%を占めているが、とりわけイカ釣の生産量は多く、勝本町の約80%、市全体の約43%を占めている。

勝本町の漁業就業者数は、1998(平成10)年で573人であり、ここ10年間で193人が減少している。年代別比率をみると、15~39才が25%、40~59才が41%、60才以上が34%であり、60才以上の割合は増加傾向にある。

勝本町漁協組合員の所有する漁船隻数は、2004(平成16)年で629隻であり、うちイカー本釣漁船が131隻と約21%を占めている。

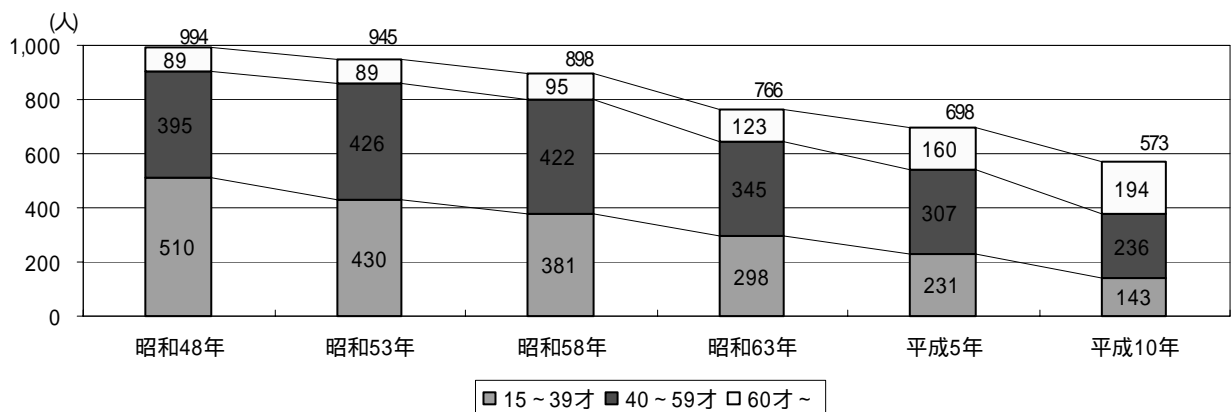
壱岐市の漁業生産量に占める勝本町の比率(平成14年)

資料：第50次長崎農林水産統計年報



勝本町の漁業就業者数の推移

資料：漁業センサス



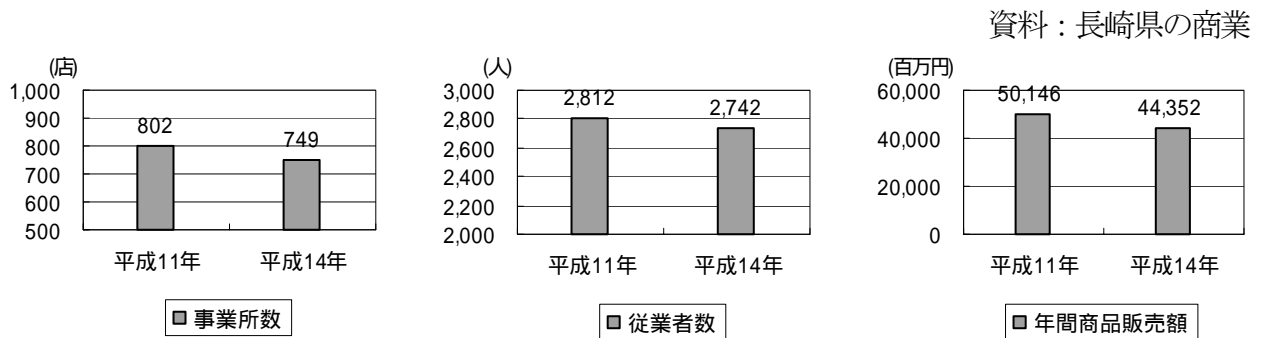
7. 商工業・商店街

壱岐市の卸売・小売業の状況をみると、1999(平成11)年に比べ2002(平成14)年は事業所数で53(6.6%)、従業者数で70(2.5%)、年間商品販売額で約57億9千万円(11.6%)それぞれ減少している。

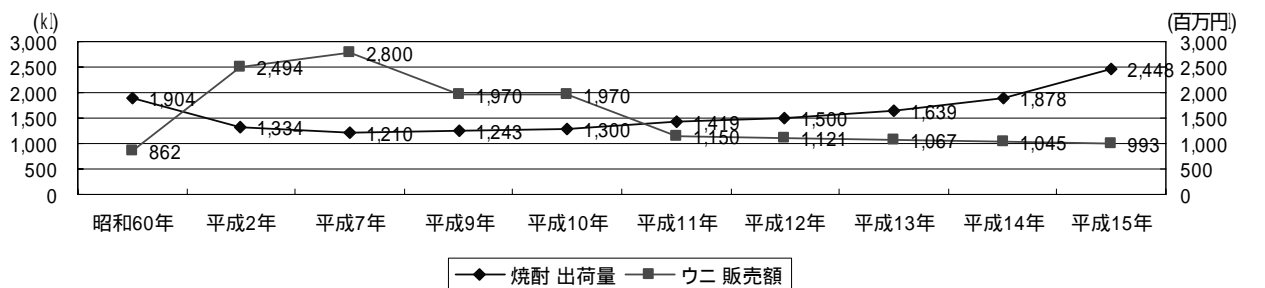
地場産業である壱岐焼酎の出荷量は、1998(平成10)年度以降堅調に増加している。一方、ウニの販売額は、1992(平成4)年度をピークとして減少傾向が続いている。

勝本町の商店の状況としては、2002(平成14)年で商店数は159店、年間商品販売額は約59億5千万円である。

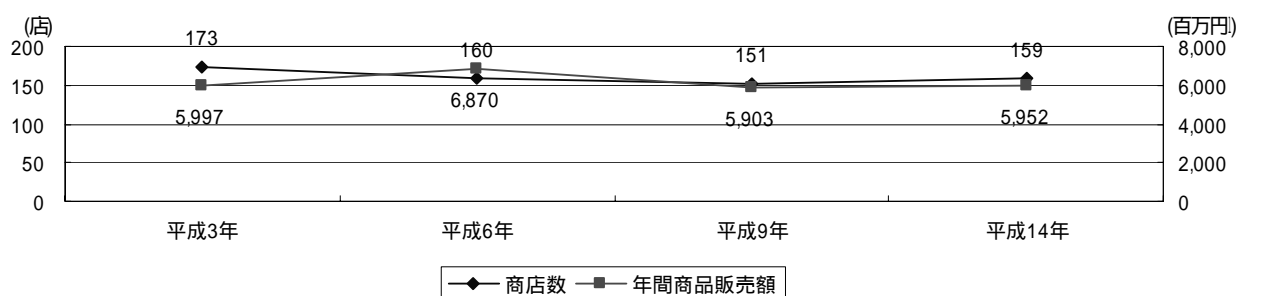
壱岐市の卸売・小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



壱岐市の焼酎出荷量とウニ販売額の推移



勝本町の商店数・年間商品販売額の推移



江戸時代から始まったとされる「勝本朝市」は、自然発生的な地産地消の始まりであり、在部と浦部の相互交流で成り立っている。農家は野菜・果物・花木・穀物等、漁家は魚介類・塩干物を持ち寄り、黒瀬商店街の軒先に並べて、路傍で市が開かれる。陽が高く昇る頃には朝市出店者は店をたたみ、商店街の各商店で必要な生活用品を購入して家路に向かう。

最盛期には約90店の出店者数があったが、現在は約30店で推移している。

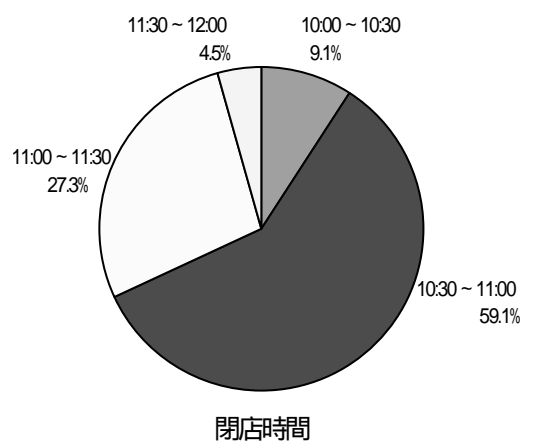
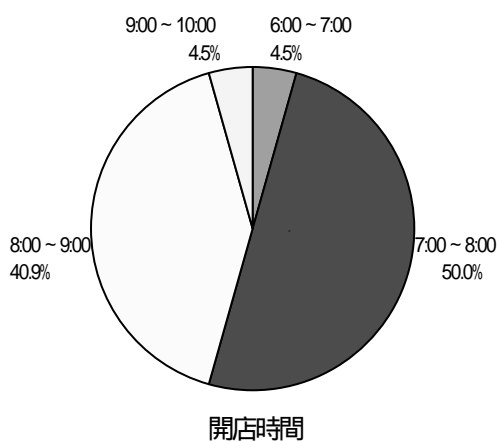
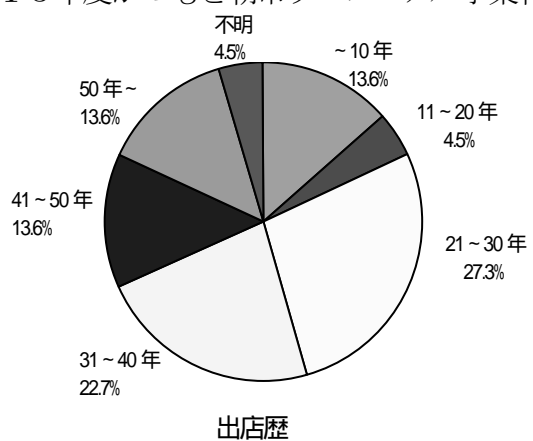
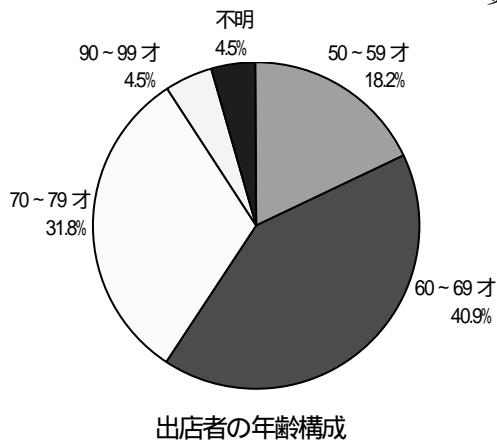
2004(平成16)年に行われた朝市出店者へのアンケート調査(回答者総数22人・総出店者の約7割)によると、

- ・60～70才代の出店者が73%
- ・出店歴20年以上が77%
- ・1人での出店が86%
- ・各曜日とも16～22店が出店、うち毎日出店が10店
- ・ほとんどが7時～9時に開店し、11時までには閉店する店が68%
- ・ほとんどの店が自家製野菜を販売、その他、花・果物・惣菜・漬物・穀物類・しめ縄類・海藻類等

等が特徴としてあげられる。

朝市出店者へのアンケート結果

資料：平成15年度かつもと朝市リニューアル事業報告書



8. 観光

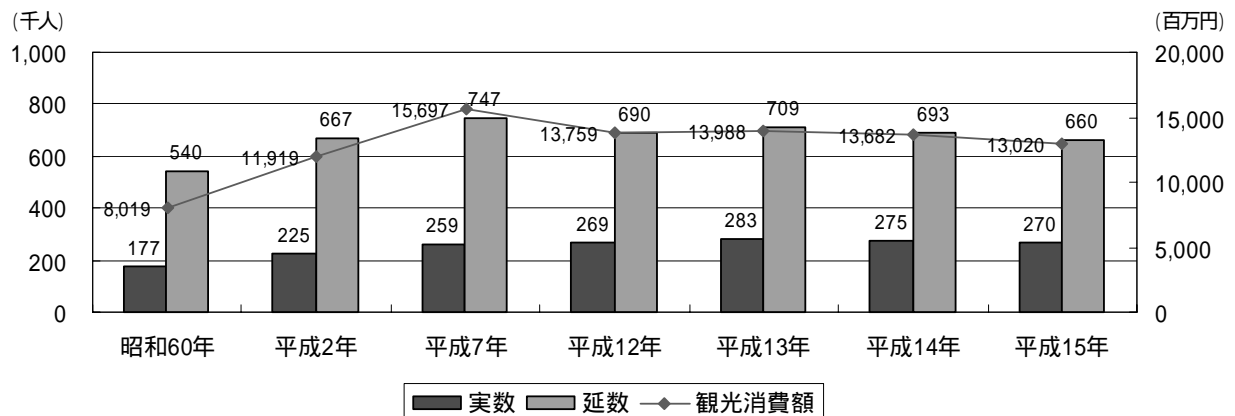
壱岐市の観光客数・観光消費額はここ数年減少傾向にあり、2003(平成15)年で延べ約66万人(前年比4.9%減)、約130億円(同4.8%減)となっている。

2003(平成15)年の観光客実数の構成をみると、地元客が約2万9千人(約11%)、県内客が約1万8千人(約7%)、県外客が約22万4千人(約82%)とあり、県外客が多い。

2003(平成15)年の観光客数・観光消費額を、日帰り・宿泊客別にみると、日帰り客が約7万9千人(約12%)、宿泊客が58万人(約88%)であり、宿泊客が大多数を占めている。観光消費額については、日帰り客が約14億円(約11%・17,700円/人)、宿泊客が約116億円(約89%・約20,000円/人)である。

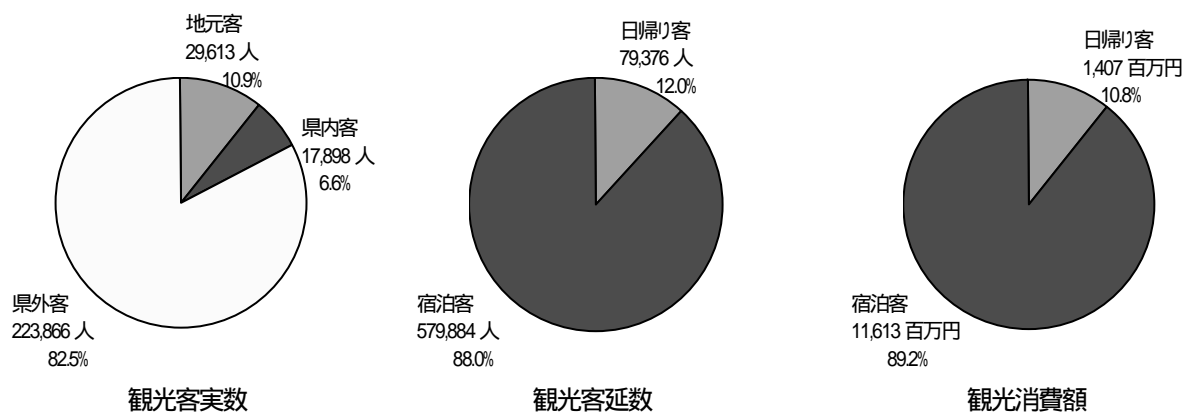
壱岐市の観光客実数・延数と観光消費額の推移

資料：長崎県観光統計



壱岐市の観光客実数・延数・観光消費額の内訳(平成15年)

資料：長崎県観光統計

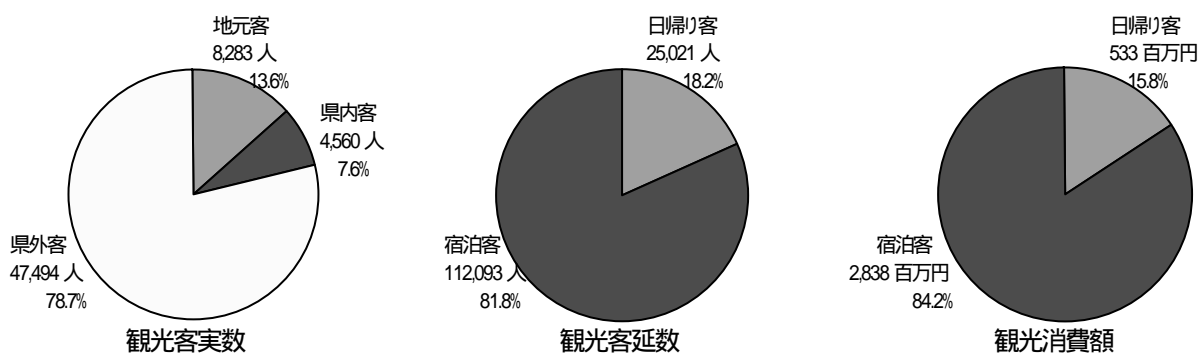


勝本町についても同様の傾向にあり、2003(平成15)年の観光客延数・観光消費額は、日帰り客が約2万5千人(約18%)・約5億3千万円(約16%・21,300円/人)、宿泊客が約1万2千人(約82%)・約2億8千万円(約84%約25,300円/人)であり、また、県外客が約4万7千人(約79%)を占めている。

主要観光地の年間利用者数は、「壱岐・原の辻展示館」と「イルカパーク」が突出している。近年の推移をみると、「辰の島」は比較的堅調なもの、その他の施設は総じて減少傾向にある。

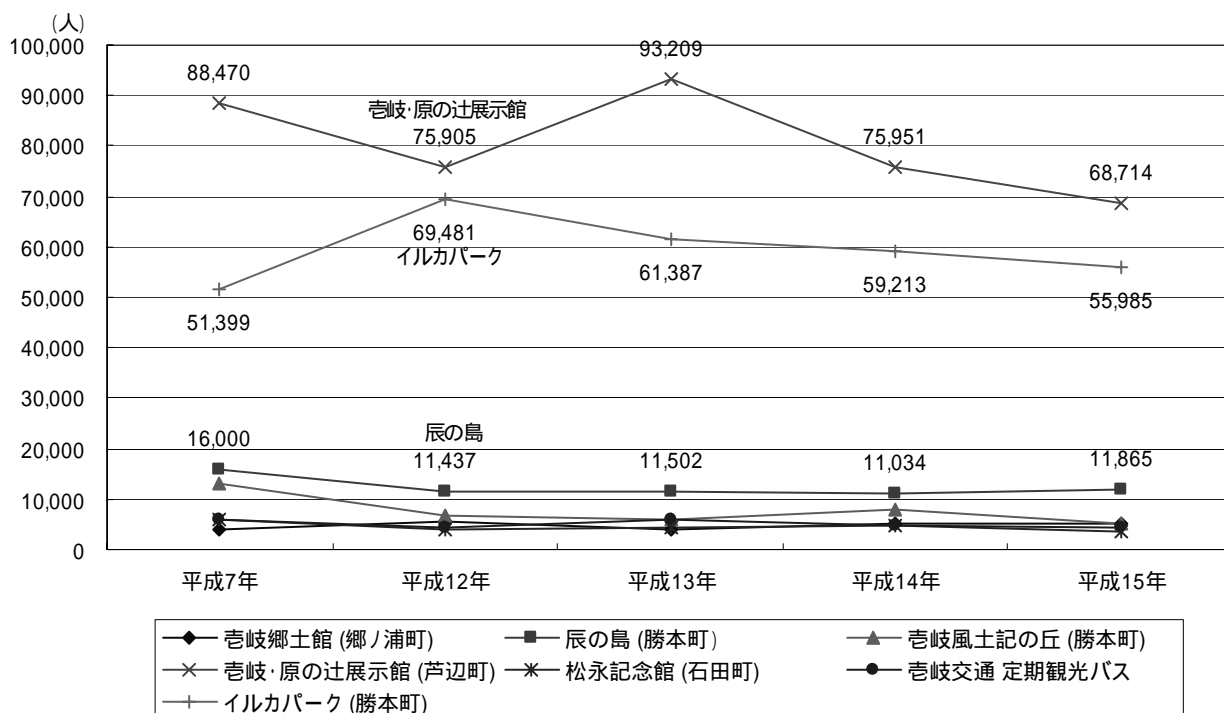
勝本町の観光客実数・延数・観光消費額の内訳(平成15年度)

資料：長崎県観光統計



壱岐市の主要観光地の年間利用者数の推移

資料：支庁地域振興課



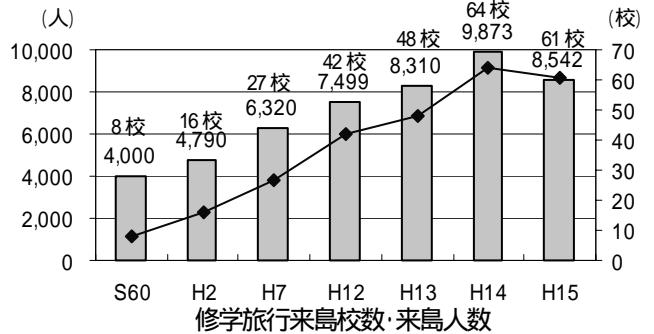
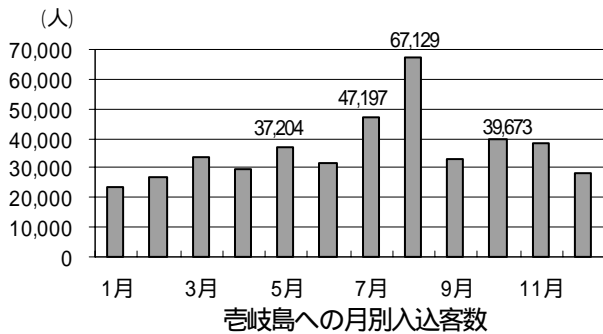
2003(平成15)年の入込客数を月別にみると、8月の海水浴シーズンが突出しており、5月の連休時期と10・11月の行楽シーズンがつづいている。

修学旅行来島校数・人数の推移をみると、好調を維持しているといえる。

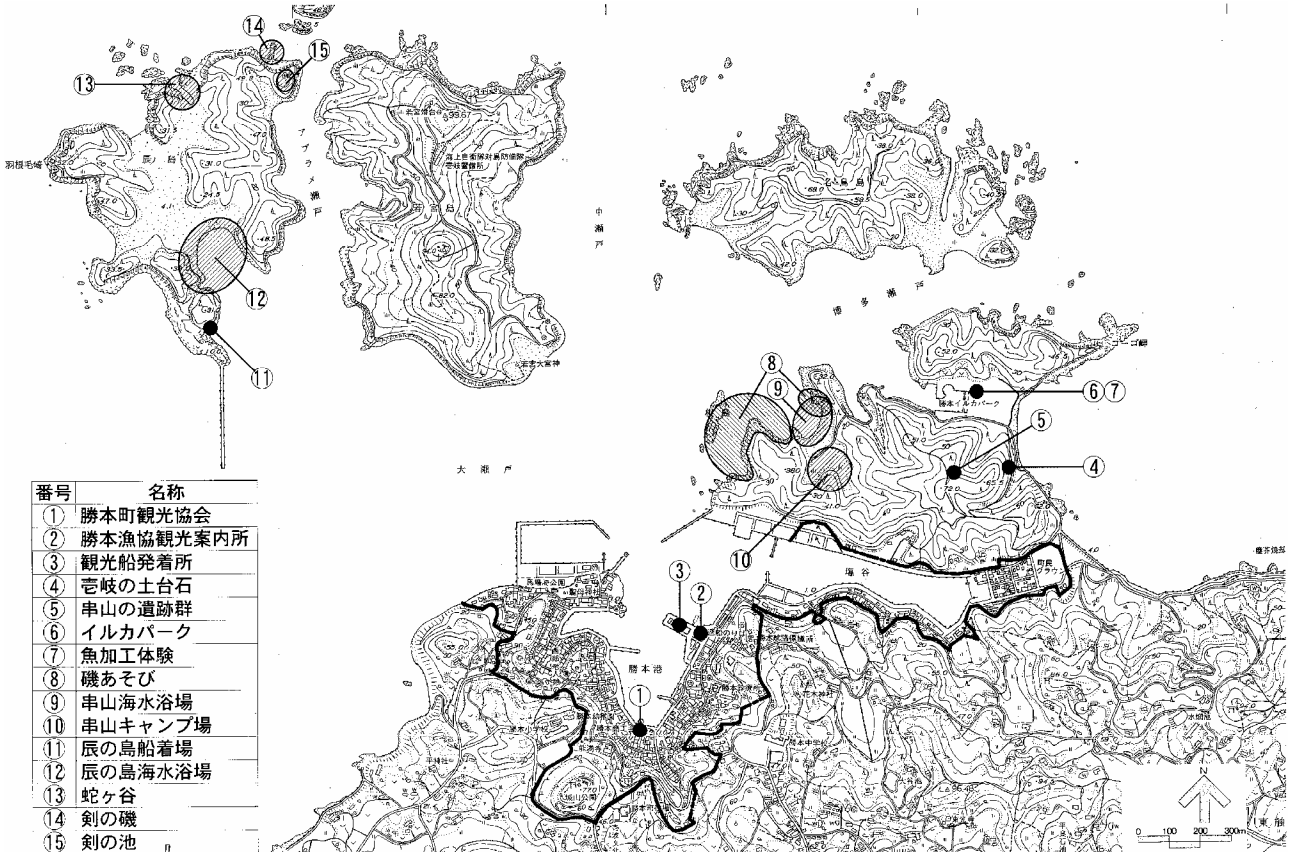
1995(平成7)年に開園した、イルカに直接触れたり餌付けができる「イルカパーク」や、2001(平成13)年以降に始まった「磯あそび」や「魚加工」の他、「シーカヤック」「グラスボート遊覧」等の体験型観光は個人客・修学旅行客ともに好評であり、今後も体験型観光の促進・新規メニューの展開等が期待されている。

吉岐島への月別入込客数(平成15年)と修学旅行来島校数・来島人数の推移

資料：支庁地域振興課



勝本浦近傍の観光スポット



9. 土地利用

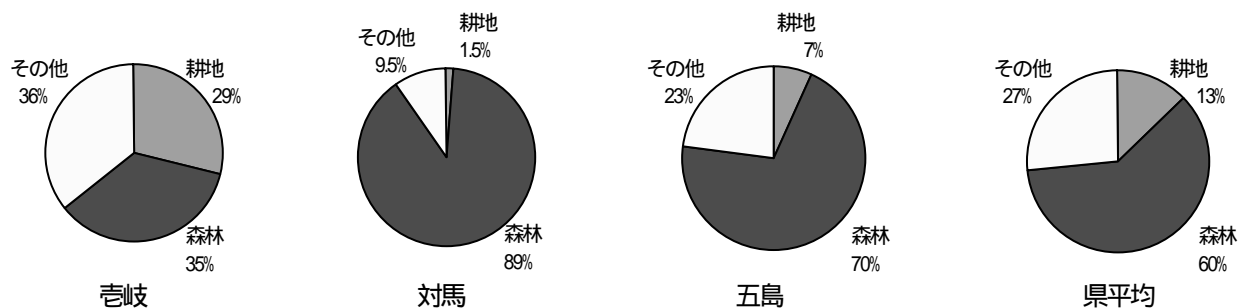
壱岐市の土地利用の構成は、耕地が29%、森林が35%、その他が36%となっている。

県内の主要な離島と比較すると、耕地・その他の割合がかなり高く、森林が少ない。県平均と比較しても同様である。

勝本浦は、都市計画区域外である。

壱岐市の土地利用構成(平成14年)

資料：支庁農林課



勝本浦



10. 都市施設

(1) 道路

他地区からのメインアクセス道となる国道382号が、地区の南側より北側の勝本港に至っている。地区内の主な道路としては、路線バスが通行する道路（国道・港湾道路・町道）が勝本港沿いに走っており、それにほぼ平行した形で山側の方に、古くからの生活道路であり、1994（平成6）年以降順次レンガ色のブロックで舗装整備されている町道がある。

(2) 公園・広場

地区の東端には天ヶ原グラウンド、西端には馬場崎公園・グラウンドがあり、南側には国指定史跡である勝本城跡を中心に整備された城山公園がある。

(3) 公共施設

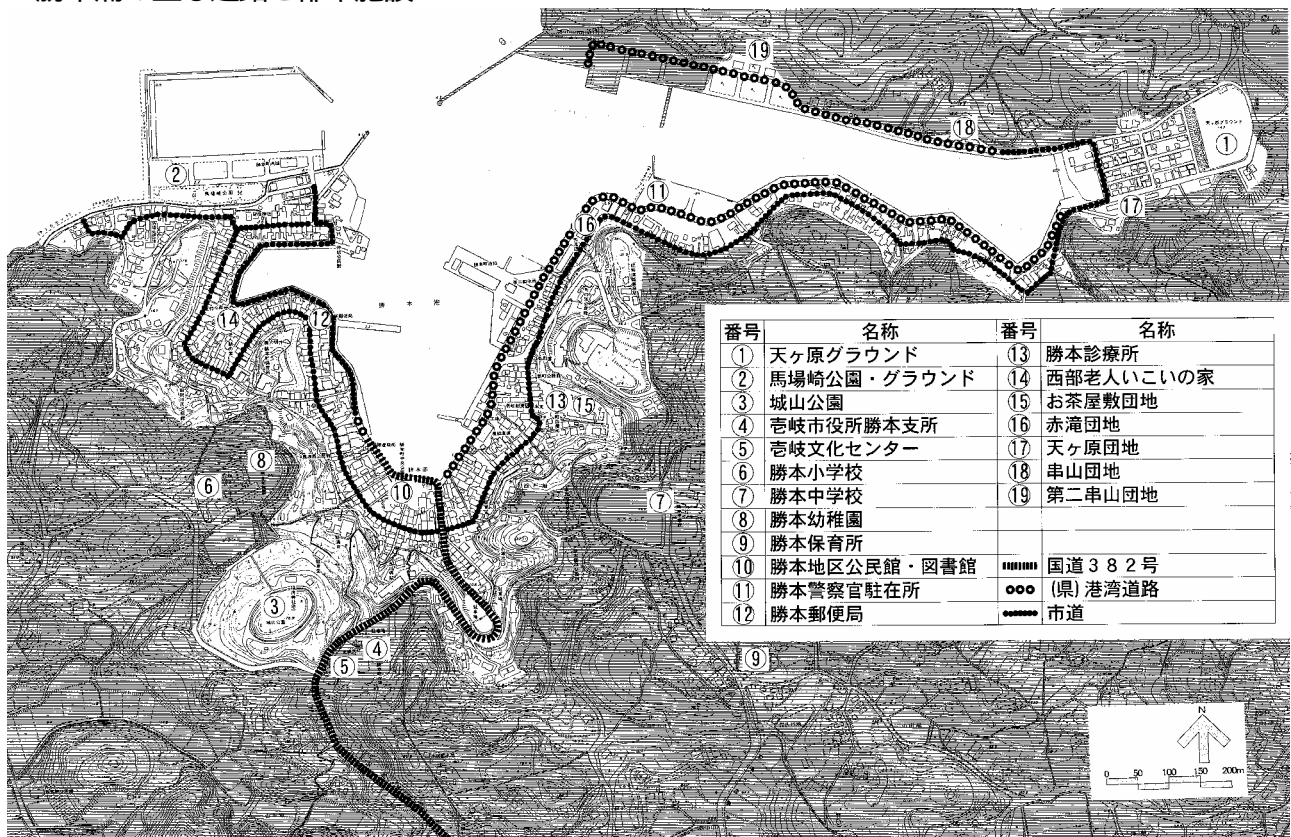
地区の南側を囲むように隣接して、壱岐市役所勝本支所・壱岐西部開発総合センター・文化センターや、小・中学校、幼稚園・保育所がある。

地区内には、勝本地区公民館・図書館を中心として、ほぼ集落毎に公民館が点在している。

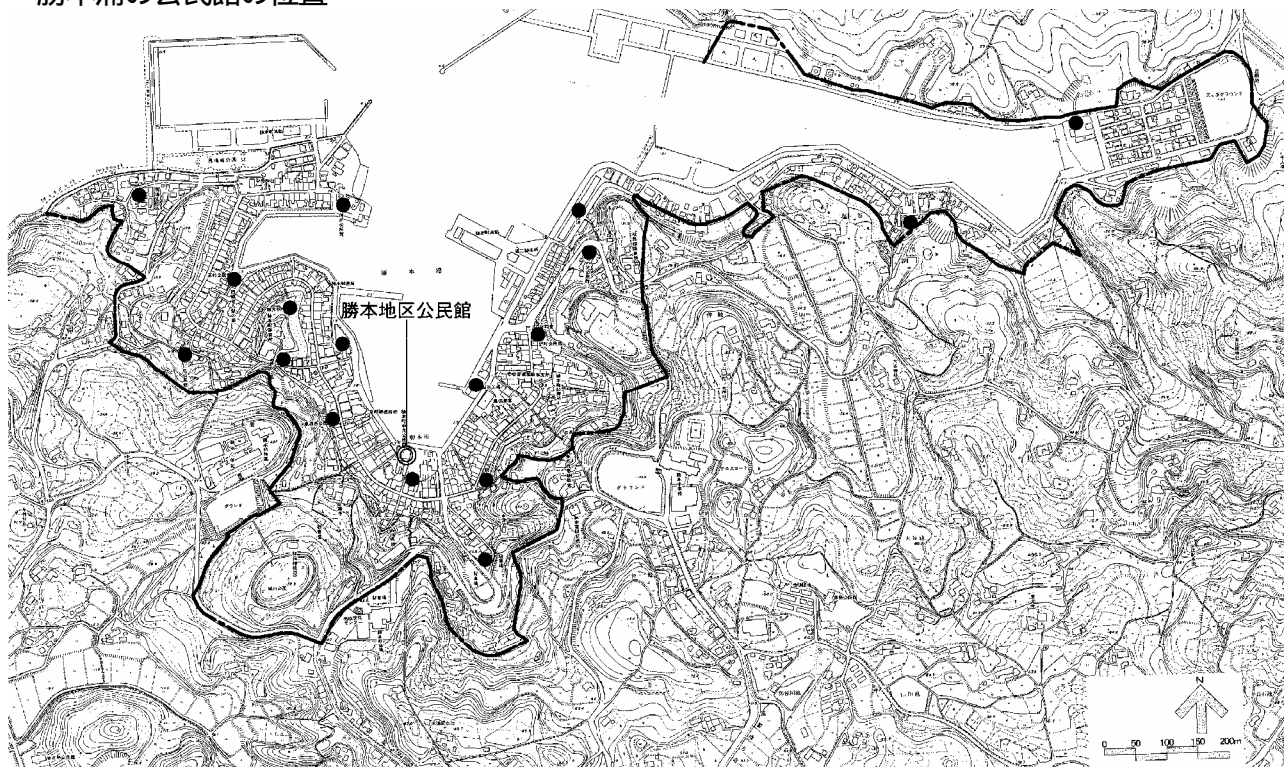
警察官駐在所・郵便局・診療所・老人いこいの家が各1ヶ所、消防格納庫が4ヶ所の他、市営住宅が5ヶ所（お茶屋敷団地・赤滝団地・天ヶ原団地・串山団地・第二串山団地）ある。

公共施設ではないが、神社が多いことも勝本浦の特徴である。

勝本浦の主な道路と都市施設



勝本浦の公民館の位置



印鑰神社



金比羅神社



志賀神社



巖島神社



第3章 まちづくりの資源と課題

1. 歴史

勝本浦には、200(仲哀天皇9)年の神功皇后による三韓出兵に由来するといわれる聖母宮をはじめ、豊臣秀吉の命を受け構築された勝本城の城跡、朝鮮との関わりを伝える朝鮮通信使迎在所跡、勝本押役所址等や、江戸時代に隆盛を極めた捕鯨業・鯨組の名残を留める田ノ浦納屋場址、土肥家御茶屋敷址、明治から昭和にかけての地場産業の様子が偲ばれる壱岐焼酎の旧酒造家、今でも大切に守られている河合曾良の墓や句碑、そのことがきっかけとなり河合曾良生誕の地である長野県諏訪市から寄贈された諏訪大社祭の「御柱」等、古くからの朝鮮との関わり合いや生業の歴史、住む人々の温かさが感じられる史跡・文化財や歴史的建造物が多く点在している。

また、海岸線に平行した道路に面して奥行き長い短冊型の敷地に、建物が軒を接して建ち並び典型的な漁村集落としての空間構造、そしてそれを基盤として発展した漁港集落と一部は商店街化したまちなみがよく残されている。漁業という古くから現在に至るまでの勝本浦の生業を空間化したまちなみそのものが、歴史を伝えている。

勝本浦地区内に残る史跡・文化財や歴史的建造物と、それらを結び、今に伝えているまちなみ自体を、もう一度見直して、後世に伝えられるように磨き上げることが課題となる。

藤嶋家住宅



旧松本薬局



旧酒造家の原田酒店



吉本家住宅



2.文化

江戸時代、壱岐は平戸藩により8つの浦（漁村）と24の触（農村）に区分され統治された。浦には浦の、触には触の、固有の生活文化が育まれてきた。その時代の呼称を今なお受け継いでいる勝本浦には、独特な生活文化がある。

御神輿を載せた2隻の御神幸船による海上渡御や、大漁・豊作を占う2隻の船による競漕（船ぐる）等、10月10～14日にわたり港を舞台に繰り広げられる「聖母宮例大祭」。この時、各家々では早朝より囃子が奏でられたり、御神輿の御還幸を迎えるために家の門々にお米とお賽銭を入れた一升ますが置かれる等、「浦」固有の行事が行われている。

こうした、いわば「浦」の文化は、祭り等の非日常的で特別な場面に限ったものではなく、注意深く見てみると、例えば1本の軸となる道の両側に2階建て平入りの家が軒を連ねている様や、個性を競い合ったかのようにそれぞれに異なった造形を見せる窓手摺や繰形のある腕木、「バツタリ」と呼ばれる折りたたみ式の縁台、町屋のとおりにわを思わせる細長い「にわ」とそれにつづく「なかにわ」といった土間空間などは、「浦」の文化を具現化したものとして、今なおまちの中にもいくつが残っている。

近年、壱岐の観光は「海」を題材とした活動的な体験型メニューを展開し、一定の成果を上げているが、その性格上、季節や天候に左右されたり、対象が比較的若い世代に限られたりするきらいがある。体験型を「非日常的行為を体験する」と広義に捉えるとするならば、いかにも漁村集落らしい勝本浦の生活文化そのものが、そこに住む人以外から見れば興味深い非日常的なものであり、新しい観光資源になり得る可能性を備えている。

まちの中に点在する、「浦」固有の生活文化を支えている要素や空間を再発掘・再評価し、漁業のまちらしさを大切にしながら整え、活用していくことが課題となる。

聖母宮



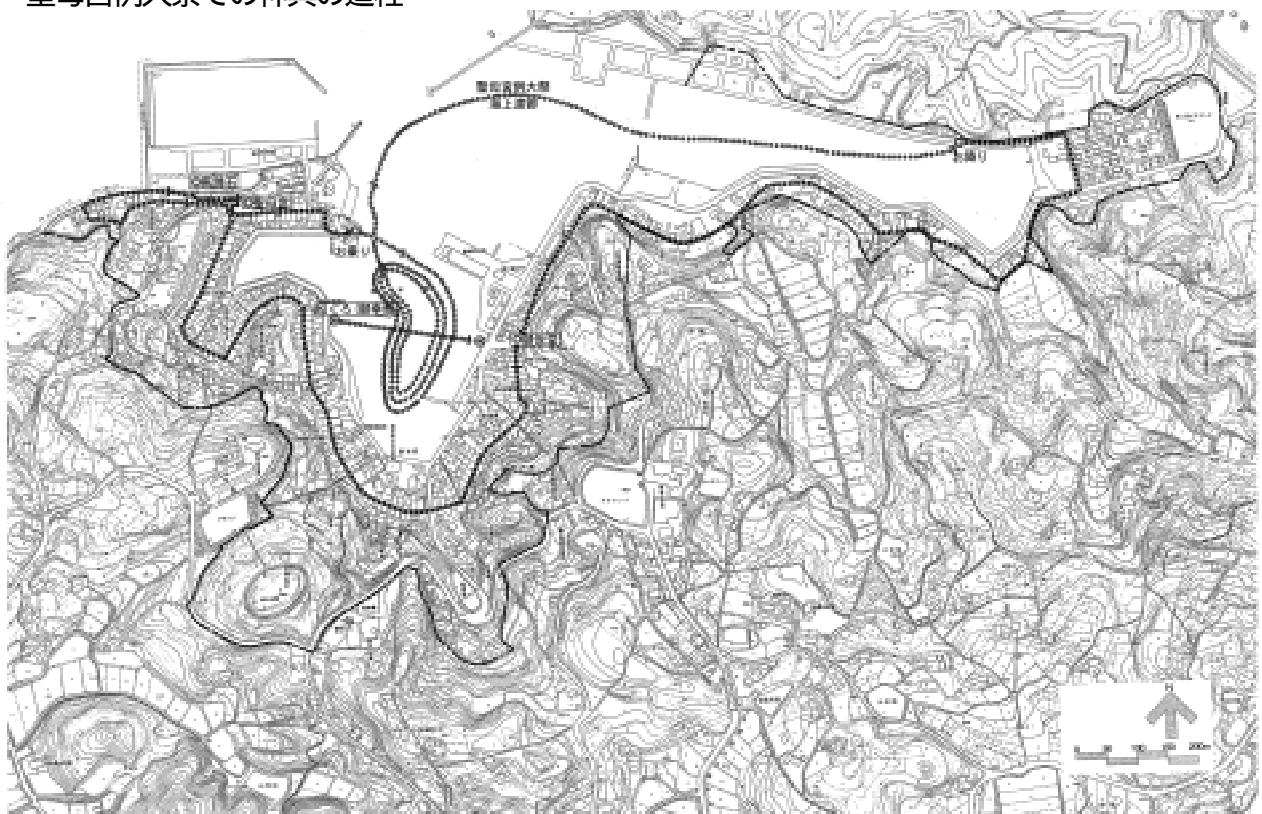
御神輿の仮の御座所・御仮堂



聖母宮例大祭の様子



聖母宮例大祭での神輿の道程



3. 産業

(1) 漁業のまち

勝本浦は600隻余りの漁船を有する、県下でも屈指の漁業基地である。その昔、勝本浦で営まれていた水揚げや加工等の作業には、独特の臭いや音、風景が伴い、その場に行けば自然と耳目にし鼻をくすぐったそれら全てのものが、漁業のまちらしい雰囲気醸し出していたことであろう。

しかし近年は、「訪れる観光客の中には、勝本浦に来ているにも関わらず、地元の人に『漁業のまち・勝本はどの辺ですか?』と尋ねられる方もいる」といわれている。たくさんの漁船が係留している景観は圧巻ではあるものの、そこで営まれている行為が訪れただけでは伝わってこなくなっているためであろう。

訪れた人々の五感をくすぐる場面や風景・要素を、現在の就業体制やまちなみの中に取り込み、本物の漁業のまちらしい雰囲気を醸成していくことが課題となる。

(2) 酒造りのまち

吉岐市は、明治時代までは酒造家約50軒を擁し、「麦焼酎発祥の地」としての地位を確立した。その後、統廃合により酒造家は減少したが、現在「吉岐焼酎」はWTOのトリプス協定により麦焼酎の原産地として国際的に保護されており、また近年の焼酎ブームもあって、製造量は伸びてきている。

勝本浦の原田酒店は、1984(昭和59)年に醸造を停止し、その後は「吉岐焼酎協同組合」に参加し協業体制で製造販売しているが、店内には2台の「大釜」が残されており、当時の面影を伝えている。

「吉岐焼酎」の本場ならではの要素・空間を保存・活用していくことが課題となる。

イカの天日干し風景



原田酒店の蔵の内部



(3) 朝市のまち

「かつもと朝市」は、江戸時代の在部と浦部の相互交流・地産地消が原点であり、以来地元の購買層に支えられてきたが、近年は黒瀬商店街自体の集客力低下や朝市出店者の高齢化・後継者難等により、賑わいや品揃えに乏しくなり、衰退傾向にある。

これまでの歴史と実績により、この地区のひとつの代名詞となっている「かつもと朝市」を、これからも勝本浦の魅力を伝える重要な要素として、守り育て続けていくことが課題となる。

4. 自然

勝本浦の北側には壱岐対馬国定公園・特別保護地区である辰の島や若宮島・名烏島、東側には串山半島があり、また、近海をイルカやマグロが回遊する等、その豊かで美しい自然に誘われて毎年多くの観光客や海水浴客が訪れる重要な観光資源となっている。

勝本浦の自然の代名詞である海は、そこに住む人々にとっては日常生活や産業の基盤であり、海から最大限の恩恵を享受している。しかしながら、日々慣れ親しみまた生活に直結しているだけに、ややもすれば海の大切さ・海への心遣いが薄れ、何気ない行為で汚したりしがちである。

勝本浦の財産である海と海が見える景観をいつまでも守り続け、自然を汚したり乱したりすることなく、共生を図りながらまちづくりを進めることが課題となる。

かつもと朝市



勝本港



5. ワークショップによる資源と課題の掘り起こし

第1回ワークショップでは、対象地区の主要部分を西・中・東の3地区に分け、参加者が6グループに分かれて各地区を自由に歩き回り、まちづくりの資源と課題を探った。第2回は、まちの中で実際に見たものや感じたことを、率直かつ具体的に表現しやすいように、「魅力」を「良いところや残したいもの・こと」、「課題」を「変えたいところや加えたいもの・こと」と置き換え、以下の7つの部門に分類整理する作業を行った。

まちづくりの資源(良いところ、残したいもの・こと 抜粋)

まちの骨格に関するもの・こと その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・曲がった道路(先が見えずにおもしろい) ・密集した住宅(横のつながりが見え、感じられる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・金比羅神社からの港の眺め ・深山荘からの眺め
街路に関するもの・こと	
<ul style="list-style-type: none"> ・金比羅～鹿神社の坂道 ・参道 	<ul style="list-style-type: none"> ・木製の消火栓カバー
小広場・駐車場に関するもの・こと	
町屋(住宅・店舗等)に関するもの・こと	
<ul style="list-style-type: none"> ・尾形家 ・藤嶋家 ・3階建の家 ・たくさんの古い建物 ・浜町・丘町で異なる家の造り ・急で細長い屋根の連なり ・古い建物の造り ・石や木・土等の自然素材の家 ・石の土台・基礎 ・玄関の踏石 ・レンガ積や石積の外壁 	<ul style="list-style-type: none"> ・格子 ・腕木 ・手すり ・ばんこ(ベンチ) ・家の装飾 ・軒下の飾り ・魔除け・百手講のまと ・古い神棚 ・レンガの煙突 ・門
拠点施設に関するもの・こと	
<ul style="list-style-type: none"> ・原田酒店 ・石橋酒店 ・吉田酒店 ・古い酒屋・酒蔵 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧つたや旅館 ・旧松本薬局 ・昔の銭湯の建物
史跡・文化財等に関するもの・こと	
<ul style="list-style-type: none"> ・押役所址 ・小柱 ・聖母宮 ・金比羅神社 ・巖島神社 ・御仮堂 ・印にゃく神社 ・たくさんの小さな神社 ・弥勒堂 ・能満寺 ・地命寺 ・田間・川尻一帯の石造物 ・金比羅神社の石造物 	<ul style="list-style-type: none"> ・海に向かった鳥居 ・たくさんのほこら ・鹿神社奥の稲荷神社のお面 ・河合曾良の墓 ・長四郎の墓 ・たくさんの古いお墓 ・聖母宮廻りの石垣 ・金比羅神社奥の石垣 ・対馬屋敷跡の石塀 ・アホウ塀 ・豆腐屋さんの隣の石垣 ・あちこちにある昔からの石積 地元の石を使った石垣
ソフトに関するもの・こと	
<ul style="list-style-type: none"> ・家の前を飾る花 ・石井さん宅の写真等の資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・石井さんのガイド ・百手講

まちづくりの課題(変えたいところ、加えたいもの・こと 抜粋)

<p>まちの骨格に関するもの・こと その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まち」としてのテーマ設定 ・まち全体を回れる散歩道・目印・案内板の整備 ・建物を誰もが自由に見学できる環境(案内板等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・神社までの急な坂道 ・延焼の危険(家が密集している)
<p>街路に関するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石畳の舗装に ・カラー舗装を落ち着いた色に ・階段や荒れた舗装 ・階段の手すり ・海岸道路に遊歩道を ・観光案内板 	<ul style="list-style-type: none"> ・地名・地番の表示 ・ゴミステーション ・電話ボックス ・道路上の万国旗 ・電線・電柱
<p>小広場・駐車場に関するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きの休憩場所(ベンチ等) ・休憩するための公園 ・散策時に休めるベンチやポケットパーク ・金比羅神社の相撲場の復活を ・遊園地 ・Mマート横の雑草で荒れた空地 ・古井戸のある空地 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を育てるスペース ・ブロック積の花壇をレンガや自然石積に ・新町公民館横の空地の危なそうなもの ・押役所址の入口に駐車場を ・駐車場の整備 ・路上駐車 ・公衆トイレ
<p>町屋(住宅・店舗等)に関するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔のデザインで活かせるものは何かを話し合う ・できれば外観の統一を ・朝市通りはタイル貼りの現代的な通りをめざすのか ・特徴のある部分を新しい家にも取り入れる ・土間のある風景を外部に表出 ・古い建築物で破損したところの修理・修復 ・空家が目立つ ・朝市が暗い(通路の屋根) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板・広告物の統一 ・エアコンの室外機 ・ガスボンベ ・旧つたや旅館のエアコンや錆びたもの ・自動販売機の横にゴミ箱がない ・店先や玄関先に置かれている箱や生活用品
<p>拠点施設に関するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨宿りができる場所 ・観光客の休憩場所 ・案内所・荷物預かり所 ・飲食店 ・特産が食べられるお店 ・空家の活用(休憩所等) ・古い家・空家見学 ・原田酒店の中庭での試飲 ・原田酒店の土蔵を喫茶店・ギャラリー・休憩所等に ・旧警察署の活用 ・旧警察署を休憩所に ・旧警察署を歴史資料館に 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧つたや旅館を補修・改修して活用 ・旧つたや旅館をまち歩きの案内所に ・旧つたや旅館を資料館に ・旧松本薬局の活用 ・旧松本薬局で古い漁具・石井写真資料の展示 ・石橋酒店の古い道具類を表にディスプレイ ・造り酒屋の再現 ・深山荘の再開・活用 ・深山荘で古美術資料館・コーヒーショップを ・公民館等の既存建物での資料展示 ・漁協倉庫の活用 ・鯨組納屋跡の復元
<p>史跡・文化財等に関するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石仏を隠すブロック塀 ・対馬屋敷跡の石垣の見せ方 ・坂口公民館下の石積は危険かも ・使われていない危険な井戸 ・井戸の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・名称やいわれ等を紹介する説明板 (志賀神社・さいの祠・朝鮮通信使迎撃所跡・河合曾良終焉の地・御飯堂・井戸の汲み河・アハウ塀・長四郎の墓・海に向かった鳥居など)
<p>ソフトに関するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きマップづくり ・神社等を絡めた大人の散策コースの設定 ・歩きながら食べられる特産品 ・漁業の生活・暮らしぶりの展示 ・鯨組・朝鮮通信使・元寇資料等の収集・展示 ・印にやく神社の掘り起こし(神功皇后との物語等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・島外の人にもわかりやすいイベント案内掲示板 ・ゴミ拾い ・タバコの投げ捨て禁止 ・海に浮かんだゴミの清掃 ・ゴミの投げ捨て禁止の看板やポスターづくり

また、第3・4回ワークショップでは、まちなみの写真を見ながら、特に建物外観の「良いところ・残したいところ」と、「変えたいところ」について、より具体的に以下の9項目に分類整理した。

まちなみ・建物外観について（抜粋）

良いところ・残したいところ	変えたいところ
建物の仕様・構造・規模・高さ・階数について	
<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の屋根の高さを一定にして、背景の緑(山)が見える景観を保っていききたい ・藤嶋さん宅は古い様式や建築材料がそのまま残されていて良い ・原田酒店さんは全体的に残すべき ・旧つたや旅館は3階建てでめずらしいので残したい ・古い建物のもつ雰囲気を残していききたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい建物の高さを昔からの建物に揃えられればよいのでは ・公共施設は大きい建物が多く影響も大きいので、改修する時にはまちなみになじむようにして欲しい
屋根について	
<ul style="list-style-type: none"> ・瓦屋根がつづいている景観は美しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根の色を統一した方が良いのではないか ・四角い建物があると、屋根のラインが途切れてしまう ・軒の高さを揃えられないか
外壁について	
<ul style="list-style-type: none"> ・1階と2階の色が違うが、並んでいる家のつくりが似ているので落ち着いて見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階と2階の色・デザイン・材質を統一してはどうか ・壁の色を統一した方が良いと思う ・トタンの壁を板張りなどに直したい ・隣が空地になったために見えてきた大きな妻壁を、きれいに改修するための助成ができないか ・昔ながらの建物の隣に近代的な建物があり、アンバランス ・新建材でなく、自然のものに近いものにして欲しい ・コンクリートや新建材の大きな壁面が何とかならないか ・コンクリートの壁は合わない ・傷んだ外壁は修理し、大切にしているという雰囲気にしないと、たださびれただけという感じに見えてしまう
玄関・出入口・窓について	
<ul style="list-style-type: none"> ・玄関や窓が木製なのが良い ・アルミサッシの色がまちなみに合っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関のアルミドアや2階のアルミサッシを木製にしたい ・シルバーのサッシの色を変えられないか
細部意匠（庇・手すり・持ち送り・ばんこ等）について	
<ul style="list-style-type: none"> ・馬場先や中折からの買物客はお年寄りが多く、よく休憩している人を見るので、ばんこを残したい ・ばんこのある風景は大切にしたい ・木製の凝った手すりを残したい ・持ち送りはぜひ残したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階の庇は瓦の方が良い ・窓の内側にある手すりを外から見えるようにしたい ・外壁が2階までまっすぐ立ち上がった新しい建物でも、下屋庇を付ければもう少しまちなみとして揃って見えるのではないか
設備類（エアコン室外機・プロパンボンベ・自動販売機等）について	
<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの室外機が木柵で目隠しされているのが良い ・自動販売機が建物内部に設置され、側面が目立たないので良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・立派な持ち送りの横にガスメーターが付いている ・エアコンの室外機が目につくので、隠すようなカバーができないか ・自動販売機の色が目につきすぎる
看板・テント・広告物・ディスプレイ等について	
<ul style="list-style-type: none"> ・酒屋さんの看板の色合い・ロゴの大きさが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・テントの統一化を図ってはどうか ・テントと店名表示の機能を分けてはどうか ・看板の色をカラフルにするのではなく、まちなみに合うように工夫できないか
道路との境界部（塀・門・柵・生垣等）について	
<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先や軒下にプランターの花や植木が飾ってあるのが良い ・路地沿いの家々を含め、全体的に壁面が揃っているのが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀よりも生垣の方が良い ・コンクリート造の大きな建物の前にはプランターを置くなどして、いどりを与えてはどうか
その他（道路やその付属物・広場・駐車場等）について	
<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみがカーブしているところが、港町らしくて良い ・家と家の間の路地がずっと奥まで続いている景観が良い ・朝市や、近代化していない昔の八百屋さんのような雰囲気の店を残したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の入口に勝本らしさがない ・通りの入り口にある空家なので、その通りの顔となるものに改修できないか ・旧松本薬局は時代を感じさせる雰囲気が素晴らしいので、開放・活用できるように変えたい ・石橋・吉田酒店は、中の古き良き建物の風情が外観にも伝わってくればもっと素敵になるのでは

ワークショップの様子



「資源」としては、

- ・まちの骨格に関すること
 - ・本通りの湾曲した道路線形
 - ・住宅が軒を連ねて建ち並ぶ様子
 - ・路地が奥まで続く景観
 - ・まちなみの背景として緑(山)が見える景観
 - ・金比羅神社や深山荘から見下ろす港や家並み
- ・街路に関すること
 - ・坂道や神社の参道などの小路
 - ・自然素材でつくられた道路に付属する石垣や木製の消火ホース格納庫
- ・町屋(住宅・店舗等)に関すること
 - ・尾形家・藤嶋家等の歴史的建造物群
 - ・本通りの海側・山側で異なっていた昔の家の造り
 - ・古い家に使われている石・木・土等の自然素材
 - ・古い家に見られる格子・腕木・手すり・ばんこ等の建築要素
- ・拠点施設に関すること
 - ・以前は酒造場だった酒屋・酒蔵(原田・石橋・吉田酒店等)
 - ・現在使用されていない歴史的建造物(旧つたや旅館・旧松本薬局・旧警察署等)
 - ・古い空家
 - ・公民館・漁協倉庫
- ・史跡・文化財等に関すること
 - ・押役所址等の史跡・文化財
 - ・大小たくさんの神社
 - ・点在するほこら・井戸・石造物
 - ・古くからの石垣・石塀
 - ・今でも大切に守られているお墓
- ・ソフトに関すること
 - ・伝統ある朝市
 - ・玄関先を飾る花や植木
 - ・石井氏所蔵の写真等の資料

などが上げられた。

湾曲した本通りの道路線形や路地の風景、軒を連ねた家並み等、漁業集落らしいまちの作り自体が評価されている。また、歴史的建造物とその建築要素や、史跡・神社・石造物等、古くから伝わるものや自然素材を使い人の手でつくられたものを大切にしたいという住民の意識がうかがえる。

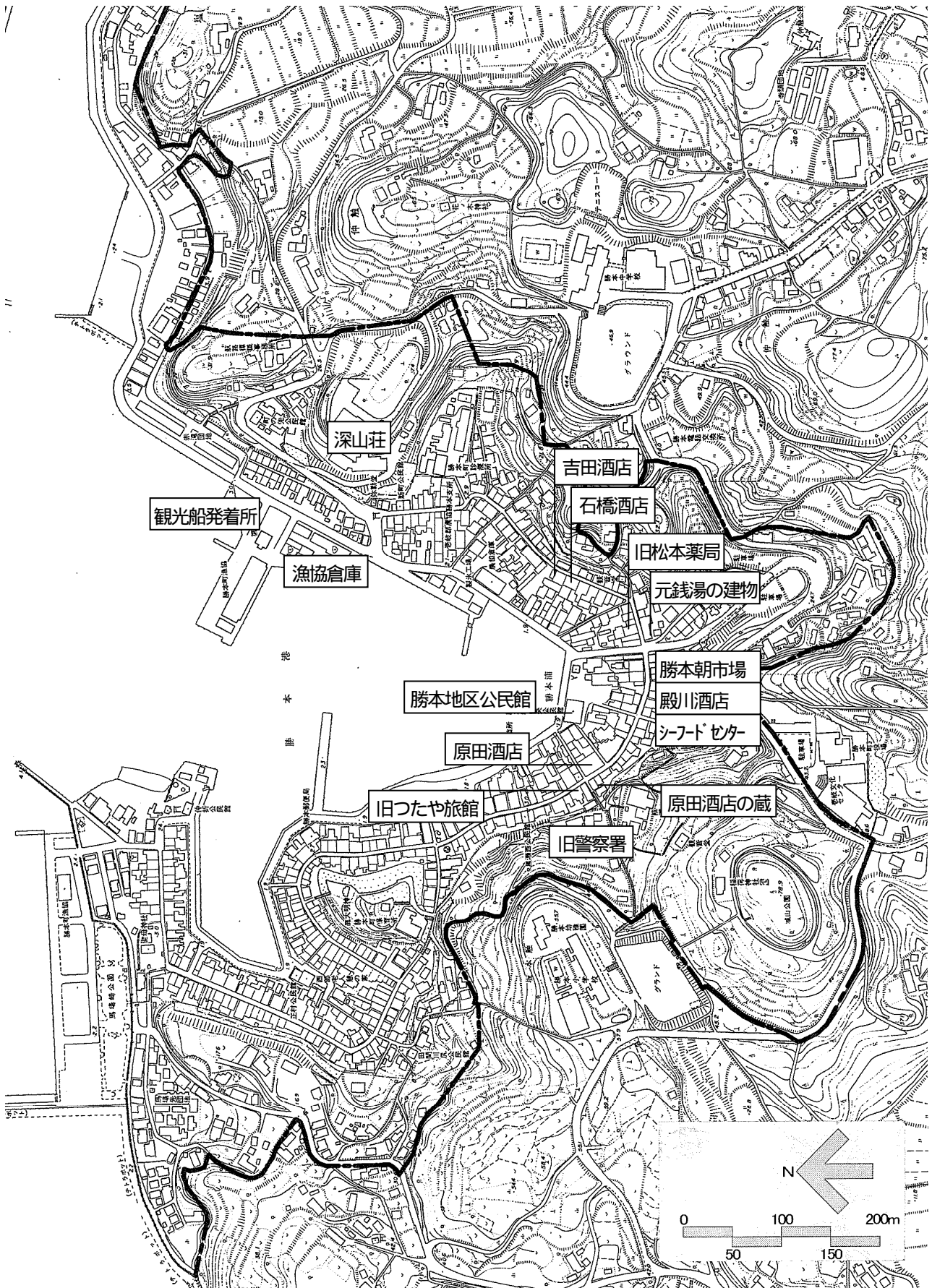
「課題」としては、

- ・まちの骨格に関すること
 - ・「まち」としてのテーマの設定
 - ・まち全体を回れる散策路と案内標識の整備
 - ・建物を自由に見学できる環境整備
- ・街路に関すること
 - ・舗装の材質・色の見直し
 - ・海岸道路の歩きにくさの解消
 - ・観光案内板の設置や地名地番の表示
 - ・ゴミステーション等を景観になじむデザインに
 - ・電線・電柱の整理・埋設化
- ・小広場・駐車場に関すること
 - ・まち歩きの休憩場所(公園・ベンチ等)の設置
 - ・荒れた空地や井戸のある空地の整備
 - ・路上駐車禁止の徹底と駐車場の整備
 - ・公衆トイレの整備
- ・町屋(住宅・店舗等)に関すること
 - ・特徴あるデザインの見直しと新しい建物への採用
 - ・新建材より自然素材で
 - ・古い建物の修理・修復と空家の解消
 - ・建物外観やテント・看板等に統一感を
 - ・沿道の店舗陳列やエアコン室外機・生活用品等の見せ方・隠し方の工夫
- ・拠点施設に関すること
 - ・観光客の案内所・休憩所・荷物預り所の設置
 - ・特産品が食べられる店の出店
 - ・酒屋や現在使用されていない建物の利活用
 - ・公共施設等の大きな建物の見せ方の工夫
- ・史跡・文化財等に関すること
 - ・史跡・文化財廻りの整備と見せ方の工夫
 - ・名称やいわれ等を紹介する説明板の設置
- ・ソフトに関すること
 - ・勝本らしさの演出
 - ・まち歩きコースの設定とマップづくり
 - ・歩きながら食べられる特産品の開発
 - ・島外の人々へのイベントPR
 - ・鯨組・朝鮮通信使・元寇等資料の収集・展示
 - ・漁業の生活・暮らしぶりの展示
 - ・ゴミ捨てマナーの徹底と清掃活動

などが上げられた。

歴史を後世に伝えていきたい、歴史を活かし伝統にならいたい、まちをきれいにし整えて住み心地を良くしたい、観光客にまちの良さを伝えてもてなしたい等の住民の意向が表れているといえる。

ワークショップで拠点施設候補にあげられたところ



ワークショップで拠点施設候補にあげられたところ

旧つたや旅館



原田酒店



原田酒店の蔵の内部



旧警察署



殿川酒店



殿川酒店の内部



元銭湯の建物



石橋酒店



石橋酒店の内部



漁協倉庫



吉田酒店



吉田酒店の内部



深山荘



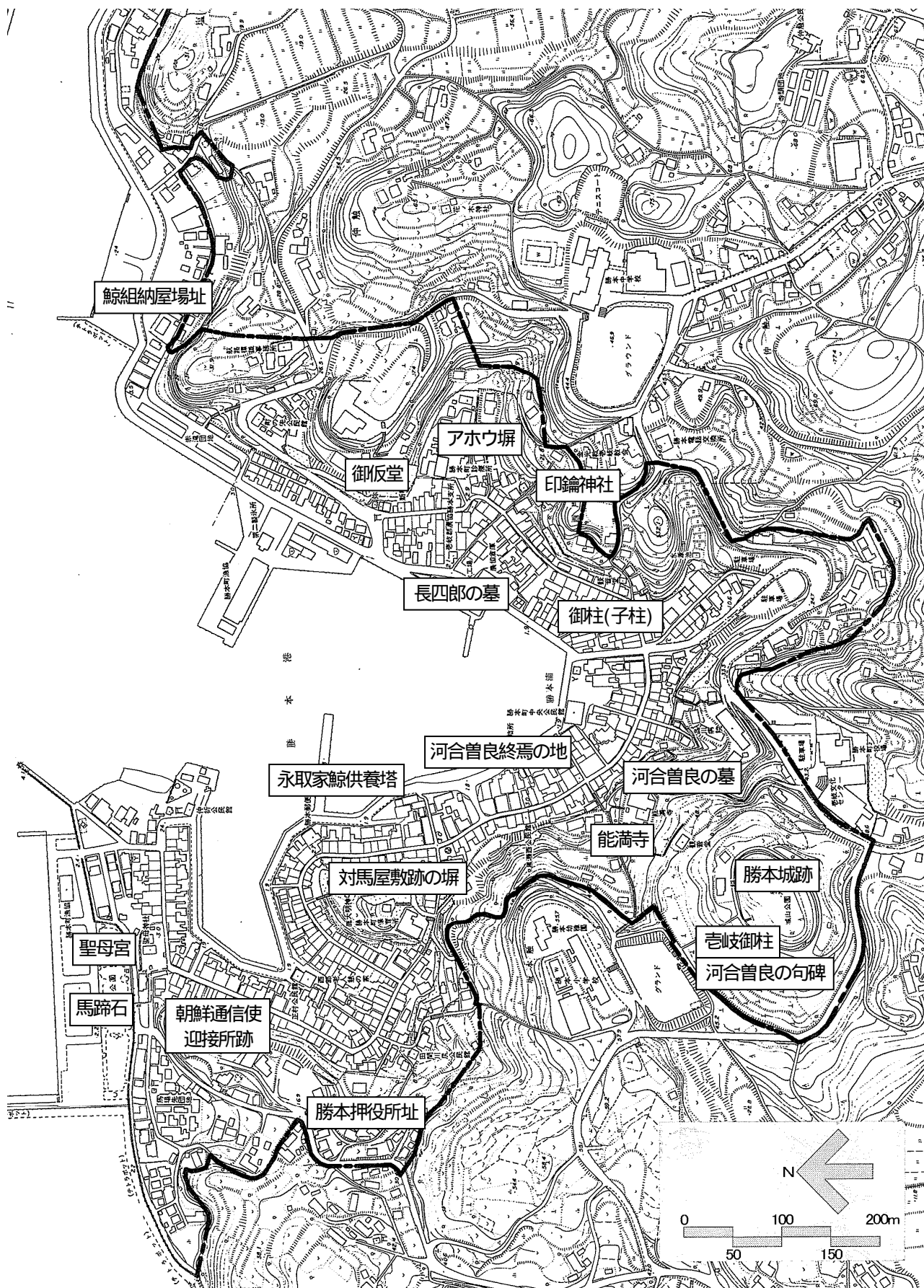
旧松本薬局



旧松本薬局の内部



主な史跡・文化財等の位置



主な史跡・文化財等

ばていせき
馬蹄石



しょうもくぐう
聖母宮



ちょうせんつうしんしげいせつしよあと
朝鮮通信使迎撃所跡



かつもとおさえやくしよあと
勝本 押 役所址



つしまやしきあと
対馬屋敷跡の堀



ながとりけくじらくようとう
永取家 鯨 供養塔



かわいそらしゅうえん
河合曾良終焉の地



のうまんじ
能満寺



かわいそら
河合曾良の墓



おんばしら こばしら
御柱 (子柱)



ちょうしろう
長四郎の墓



いんにやくじんじや
印鑰神社



べい
アハウ堀



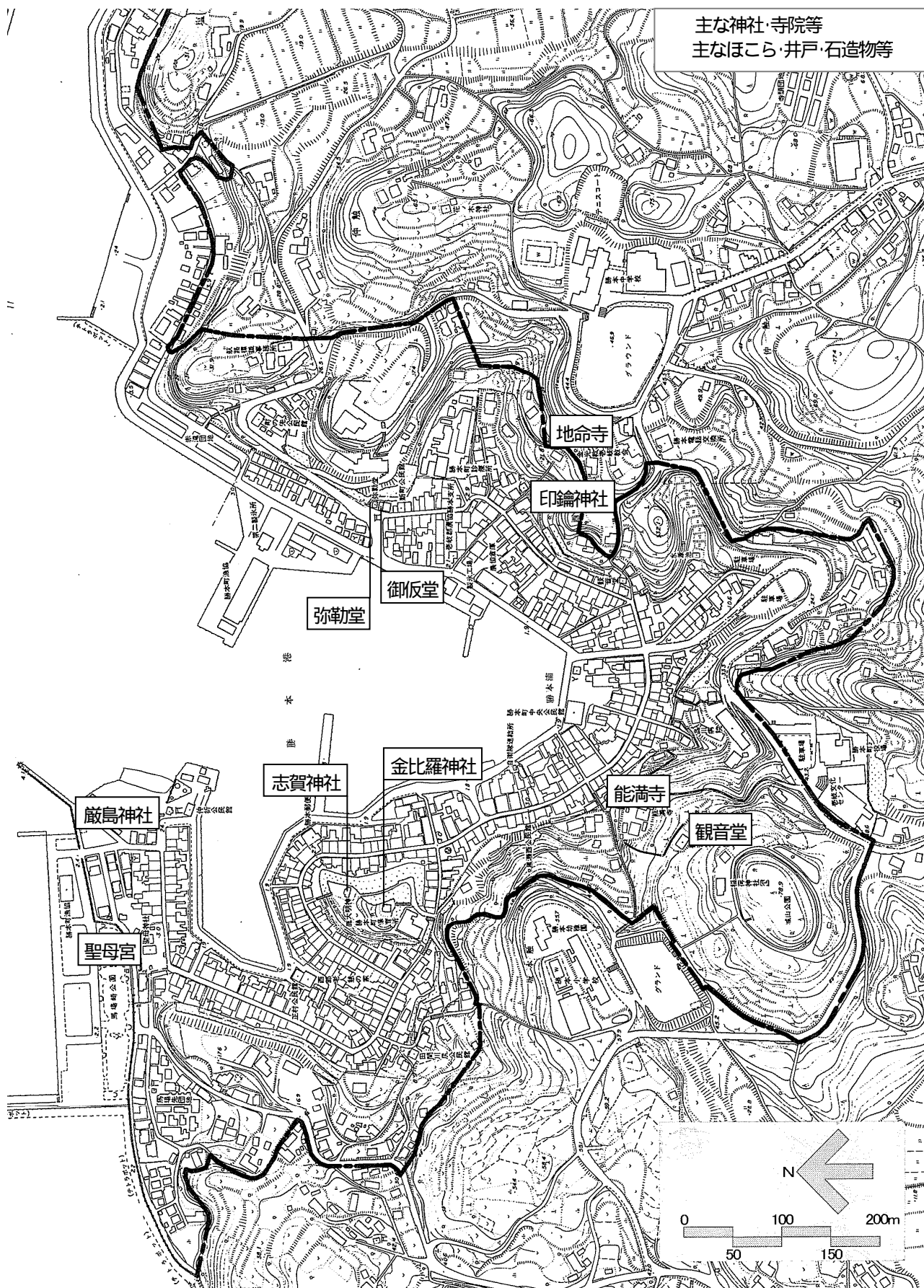
おかりどう
御仮堂



くじらくみなやばあと
鯨組納屋場址



主な神社・寺院・石造物等の位置



主な神社・寺院・石造物等

いつくしまじんじゃ
巖島神社



しかじんじゃ
志賀神社



金比羅神社



能満寺の観音堂



ちめいじ
地命寺



みるくどう
弥勒堂



聖母宮廻りの石積



正村地区のほこら



川尻地区の石造物



志賀神社奥のほこら



金比羅神社廻りの石積



能満寺の羅漢像



地命寺の手水鉢



新町の井戸



新町の鳥居



6. まちなみ調査にみる建物の特色

本計画の検討作業と同時期に、神奈川大学建築史研究室による「まちなみ(歴史的建造物群)の実態調査」が実施されており、その結果、昭和戦前～大正時代に建てられた建物が約130件、明治～江戸時代に建てられた建物が約40件であることが明らかとなった。また、建物の特色として以下の7つが上げられ、それらが全て揃っているのが勝本浦固有の特徴であること、その他、鳥居・ほこら・石塀・井戸などの石造物が多く残っていることなどが評価されている。

切妻平入り	: 屋根が切妻屋根で、玄関(出入口)が軒先側(平側)にある
平面構成	: 家の中に「通りニワ(土間)」や中庭がある
腕木・持ち送り	: 庇や梁を支えるもので、立派に彫刻されたものもある
2階の手すり	: 手すりの姿かたちがそれぞれの家で違っている
1階の格子	: 格子の間隔や長さなど、家ごとに違っている
ばんこ	: 折りたたみ式のばんこ(縁台)をつくり付けた家もある
レンガ	: 家や倉の外壁、造り酒屋の煙突などに使われている

第3回ワークショップで行われた、神奈川大学建築史研究室による「まちなみの実態調査」中間報告会では、神奈川大学・西教授より、まちなみ調査を踏まえた今後のまちづくりの課題や方向性等について、以下のようなご提言をいただいた。

課題としては、

- ・建物が古いかどうかよりも、それらを大切にしているかどうか重要
- ・建物だけでなくその周辺の環境整備も重要であり、地域の文化を大切にすべき

方向性としては、

- ・専門的調査だけでなく、まずは住民が自分たちのまちに対する認識を深めること
- ・理念だけを議論するのではなく、登録文化財制度の活用等、目に見える行動をおこすこと
- ・建物だけではなく、石造物や海・緑などの周辺環境への視野を広げること

また、まちづくりに対する心得として、

- ・電線の地中化や駐車場の確保など、実現が難しそうなことに対しても、声を出し続けることが重要。
- ・一斉清掃やマップづくりなど、自分たちができることを考える。その時に、まちなみのキーワードである「統一デザイン」を大切にする。
- ・まちづくりは長い目で見てゆっくりでも確実に進めていくことが大切。例えば、自宅を改修する機会にちょっと工夫するなどをみんなで積み重ねていく。

「まちなみの実態調査」と中間報告会の様子



屋根種別分布（「まちなみの実態調査」中間報告会より）



- : 瓦葺
- : 鉄板葺
- : その他

江戸～明治時代の建物の位置



勝本浦の建物の特色

腕木・持ち送り



2階の手すり



1階の格子



ばんこ



レンガ



第4章 計画の基本方針

昨年度の「壱岐勝本浦まちづくり基本構想」では、まちづくり資源の「キー・ワード」として、

- ・典型的な漁港集落の骨格と表情を残す「町並み」
- ・神功皇后に由来し、加藤清正も表門を造営寄進した「聖母宮」
- ・豊臣秀吉の命を受け構築された「勝本城跡」
- ・日本と朝鮮・アジアを結んだ「朝鮮通信使」
- ・異国警護の要となった「勝本押役所」
- ・三井・鴻池と並ぶ日本三大富豪の鯨王・勝本の「土肥鯨組」
- ・松尾芭蕉の高弟「河合曾良」終焉の地
- ・友好都市・諏訪市からの贈り物「壱岐御柱」
- ・生業に打ち込む人々の姿を今に伝える、西日本を代表する船競漕「船ぐる」
- ・「イカ釣漁船」係留数日本一
- ・国際的な原産地保護認定を受けた「壱岐焼酎」
- ・江戸時代から続く伝統ある「かつもと朝市」
- ・国指定天然記念物(海浜植物)混生地、国定公園・特別保護地区の「辰の島」
- ・「イルカ」と「マグロ」が回遊する豊かな海

等が上げられている。

また、4回にわたって行われたワークショップでは、より具体的な「キー・ワード」として、

- 「湾曲した本通り」「町屋の軒の連なり」「奥まで続く路地」
- 「まちなみの背景となる緑」「坂道から見下ろす港の眺め」
- 「歴史的建造物」「昔の家の造り」「石・木・土等の自然素材」
- 「腕木・持ち送り」「2階の手すり」「格子」「ばんこ」「レンガ」
- 「酒屋・酒蔵」「未活用の建物」
- 「史跡・文化財」「神社・寺院」「ほこら・井戸・石造物」「石垣・石塀」
- 「伝統ある朝市」「玄関先の花や植木」「未収集・未公開の歴史的資料」

等が上げられた。

ワークショップを通じて、『古くからのまちのつくりやそれらを伝える人の努力を大切にし、港町・勝本浦らしさが感じられるような、住民にも観光客にも居心地のよいまちをめざしたい』という住民の意向が示された。

そこで、「港と歴史を楽しむ居心地のよい勝本浦づくり」を本計画の基本理念とし、以下の8つの基本方針を設定する。

1. 空間構成や地区特性に合わせたゾーンとルートを設定する……………まちの骨格計画
2. まちなみに調和した落ち着きと港町らしさをあらわす……………街路整備計画
3. 小広場等を適所へ配置し、利便性と潤いを付加する……………小広場・駐車場整備計画
4. 改修・新築時には伝統的町屋にならう……………町屋(住宅・店舗等)整備計画
5. 既存の建物を活用し勝本らしさを演出する……………拠点施設整備計画
6. 地域の歴史や文化に親しみやすくする……………史跡・文化財等周辺整備計画
7. 観光客がまちの魅力を満喫できるようにする……………おもてなし計画
8. 住民の意思と意欲を尊重し柔軟に対応する……………住民発意の計画とその推進

第5章 まちづくり基本計画

1. まちの骨格計画……………空間構成や地区特性に合わせたゾーンとルートを設定する

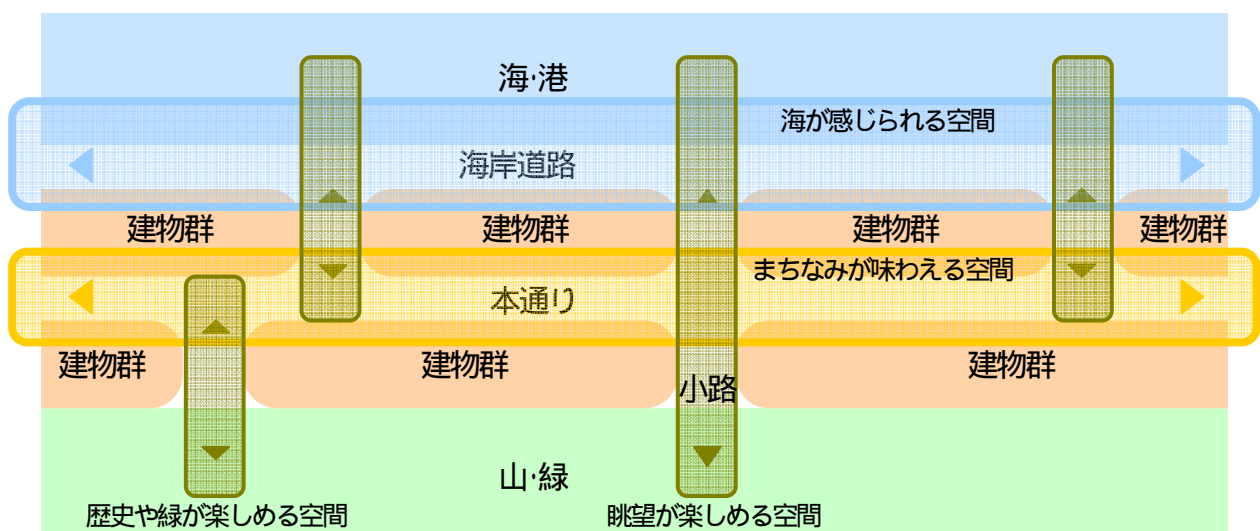
(1) まちの空間構成を尊重した整備

勝本浦は、前面に海、後背に山があり、その間に海沿いの海岸道路、住宅・店舗群、本通り、住宅・店舗群が、湾曲しながらも線上に連続している。そして、海と山を結ぶ方向に細い路地がある。

幅員が広い海岸道路からは、多くの漁船が係留された港町としての勝本浦らしい風景を望むことができる。古くからの生活道路である本通り沿いは、その両側に建物が軒を接して建ち並ぶという典型的な漁業集落の景観があり、江戸～明治時代の歴史的建造物も多い。また、路地や坂道などの小路に入ると、史跡・文化財や神社・寺院・石造物等が点在していたり、山や海、まちなみの眺めを楽しむことができる。

こうした、海が感じられる空間、まちなみが味わえる空間、歴史・緑や眺望が楽しめる空間は、どれもが勝本浦らしい特徴的な空間であり、今後とも大切にすべきものである。本計画では、これらの空間構成を尊重し、それぞれの特徴をより際立たせるよう整備する。例えば、将来的には、住民が往時のように安全・安心に生活でき、観光客がゆっくりとまち歩きを楽しめるように、本通りや本通りと海岸道路を結ぶ道に対する車両通行制限（一方通行化等）を行うことなども、今後の状況をみながら検討する。

勝本浦の空間構成の概念図



(2) 5つのゾーン設定

計画の対象地区を、歴史的・空間的なつながりや建物の主要用途等の特徴を踏まえ、大きく5つのゾーンに区分し、それぞれの特性を踏まえた整備を行う。

西部ゾーン : 住宅がほとんどを占めており、古くから「西部八町」と呼ばれている地区
(馬場先・仲折・正村・川尻・田間・鹿ノ下西・鹿ノ下仲・鹿ノ下東)
住宅地としての落ち着きと伝統が感じられるような整備

中部ゾーン : 朝市が催される商店街があり、勝本浦の中心に位置する地区および城山公園
(琴平・黒瀬西・黒瀬仲・黒瀬東・上方・蔵谷・城山公園)
賑わいがあり、勝本浦の顔となるような整備

東部ゾーン : 住宅が多いが店舗や倉庫等も混在する地区
(田ノ中・坂口・湯田・町ノ先・新町・築出・赤滝)
住宅地としての整備と共に、勝本浦の新しい顔となるような整備

塩谷ゾーン : 以前はかしあみ等の漁具をつくっていた家が多い地区(塩谷)
昔の漁家の様子が感じられるような整備

天ヶ原ゾーン : 比較的新しく宅地化されている地区(天ヶ原)
勝本浦らしさが感じられるような新しい住宅地としての整備

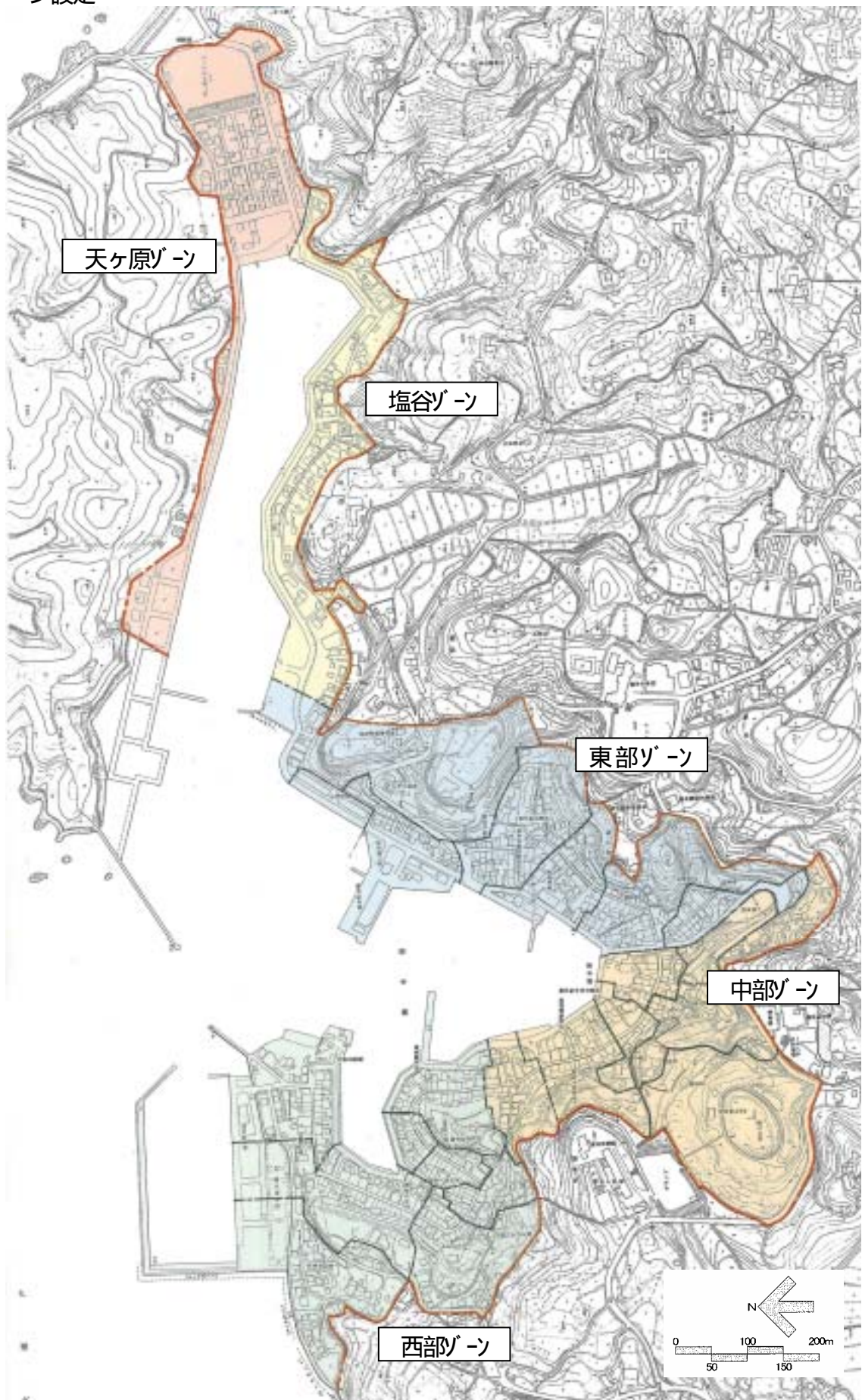
塩谷ゾーンの民家



天ヶ原ゾーンの市営住宅



5つのゾーン設定



(3) まち歩きルートの設定

西・中・東部ゾーンにおいては、魅力的なポイントをもった、住民も観光客も歩いて楽しい「まち歩きルート」を設定する。

「まち歩きルート」は、本通りと海岸道路を主とした「メインルート」と、それを短縮したり、逆に延長して路地や坂道等の小路の魅力も楽しめる「サブルート」を設定する。

西部ゾーン

メインルート：馬蹄石 聖母宮廻りの石垣 聖母宮 朝鮮通信使迎在所跡
正村・川尻のまちなみ 勝本押役所址 田間・川尻の石造物群
鹿ノ下のまちなみ 対馬屋敷跡の塀 永取家鯨供養塔
漁船の係留風景

周回距離：約1.5 km

所要時間：徒歩 約25分

サブルート：巖島神社、中折のまちなみ、馬場先のまちなみ、志賀神社とほこら、
のポイント 金比羅神社と石積、金比羅神社からの眺めなど

駐車場：馬場先公園前、巖島神社横、琴平黒瀬地区埋立地

中部ゾーン

メインルート：黒瀬商店街のまちなみと朝市 殿川酒店 原田酒店と酒蔵
旧つたや旅館 河合曾良終焉の地 漁船の係留風景
勝本地区公民館

周回距離：約0.6 km

所要時間：徒歩 約15分

サブルート：旧警察署、能満寺、河合曾良の墓、観音堂と羅漢像、壱岐御柱、
のポイント 河合曾良の句碑、勝本城跡、能満寺、勝本城跡からの眺めなど

駐車場：琴平黒瀬地区埋立地、勝本地区公民館横、上方地区駐車場

東部ゾーン

メインルート：観光船発着所 漁協倉庫と漁港の活動風景 新町の鳥居
弥勒堂・御飯堂 新町のまちなみ アホウ塀と井戸 印鑰神社
湯田のまちなみ 吉田酒店 石橋酒店 旧松本薬局
元銭湯の建物 御柱(子柱) 漁船の係留風景 長四郎の墓

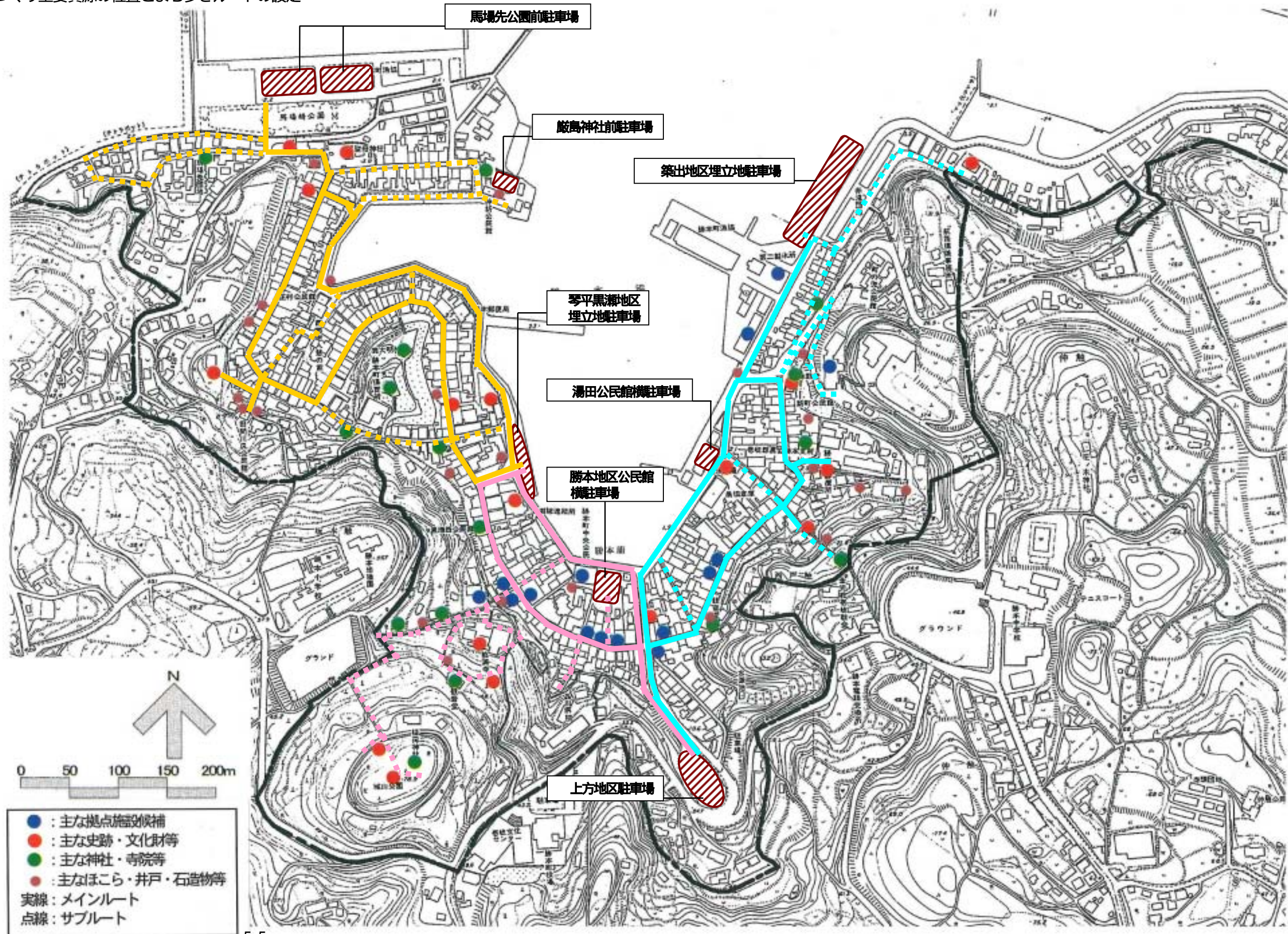
周回距離：約1.1 km

所要時間：徒歩 約20分

サブルート：地命寺と手水鉢、深山荘とそこからの眺め、築出のまちなみ、
のポイント 鯨組納屋場址など

駐車場：勝本地区公民館横、上方地区駐車場、湯田公民館横、築出地区埋立地

まちづくり主要資源の位置とまち歩きルートの設定



2. 街路整備計画……………まちなみに調和した落ち着きと港町らしさをあらわす

(1) まちなみに合わせた舗装の整備

- ・本通り、海岸道路、路地や坂道など、それぞれの空間に調和する舗装材料や色を選定する。
- ・できるだけ自然素材を採用するよう検討する。
- ・例えば同じ本通りでも、商店街のある中部ゾーンと住宅が多い東部ゾーンでは、統一感をもたせつつも、材料や色・パターン等に変化をつけて趣きを変える等、それぞれの地区特性も考慮する。

(2) まちを演出する街路灯・サイン等の整備

- ・街路灯やサイン(現在地表示・目的地表示・イベント案内等)の設置場所を再検討する。
- ・本通りや小路では歩く人にとって、海岸道路では車を運転する人にとってもわかりやすいサインとする。
- ・まちなみ景観になじみやすい質感を備えたものとなるよう検討する。
- ・例えば街路灯には地名やその由来を記すなど、まちを演出する小道具としてデザインする。
- ・本通りのカーブミラーや道路標識等についても、機能を損なわない範囲でまちなみになじむよう着色する等の工夫を施す。

(3) 景観を損なう電線の地下埋設・移設の推進

- ・本通りでは地中埋設化を推進する。
- ・海岸道路や小路等でも、できるだけ電線が目立たない位置への電柱の移設を推進する。

(4) 海や緑を楽しむ遊歩道の整備

- ・幅員が広く交通量が比較的多い海岸道路では、連続する安全な歩行者スペースを確保し、ベンチ・植栽等を備えた休憩スペースを設けたり、「たな」を復元するなど、海を感じる憩いの空間としての整備を進める。
- ・志賀神社・金比羅神社や能満寺・勝本城跡への道筋では、自然に溶け込むような素材・デザインの手すりやベンチを設けるなど、緑に親しむ散策路として整備する。

現況



(中部ゾーン・原田酒店横)

整備イメージ



3. 小広場・駐車場整備計画……………小広場等を適所へ配置し、利便性と潤いを付加する

(1) まちなみにめりはりをつける小広場の整備

- ・未整備・未利用の空地は、適所を選定しポケットパークとして整備し、住民や観光客の快適な憩いと触れ合いの場となることをめざす。

(2) 既存の公園や身近な空地の見直しと再整備

- ・鹿ノ下東公民館横の公園は荒れた状態になっており、フェンスやガードパイプで囲われているため利用しにくい。こうした既存の公園等についても、快適で利用しやすくなるよう整備を図る。
- ・既存施設の見直しにあたっては、住民がより愛着をもって利用し管理し続けられるように、例えば、ワークショップ方式で整備内容についての意見を掘り起こしたり、自分たちで掃除したり、花壇をつくるなどの方法も検討する。
- ・また、コンクリートブロックでつくられている花壇を自然石やレンガに変えたり、ちょっとした空スペースに花壇やベンチを設けるなど、比較的取組みやすい小広場整備を積極的に押し進める。

(3) 利用しやすくまちなみに調和した公衆トイレの整備

- ・観光客がまちを歩いて回る際に利用しやすい位置に、誰もが快適に利用できる公衆トイレを整備する。
- ・公衆トイレの外観は、まちなみに調和したものとする。
- ・また、商店街の各店舗のトイレなども、観光客が気持ち良く利用できるための整備をするよう誘導する。

現況



(中部ゾーン・エムマート前)

整備イメージ



(4) わかりやすく利用しやすい駐車場の整備

- ・初めて訪れる観光客にとってもわかりやすく運転しやすい海岸道路沿いで、まち歩きルートに近接し、車を置いて歩いて回るのに便利な位置に、観光客が利用できる駐車場を整備する。
- ・特に、中・東部ゾーンの海岸道路沿いは、観光客にとって利便性が高いので、空地进行を観光客の駐車場用地として積極的に借り上げるなどにより、整備を推進する。
- ・本通りへの観光車両の乗入れを抑制することで、本通りのまち歩き空間の安全性を高める。
- ・駐車場は床面が露出し、広い面積になりがちなので、その舗装材はアスファルトのみではなく、しっとりとした落ち着きのあるものとし、所々に植栽を施すなど、味気なく殺風景な印象を与えないよう工夫する。

(5) まちなみ景観を損なわない駐車場の整備

- ・地区内に点在する小規模の駐車場については、道路や隣地との境界に木や石、レンガ等でつくられた落ち着きのある塀を設けて、まちなみの連続性を保持したり、山側のコンクリート擁壁が目立たないように、奥の方に樹木を植えるなど、まちなみ景観を損なわないよう工夫する。
- ・地区内は建物が密集しており、自家用車を身近に駐車できる場所を確保することが難しいためか、路上駐車も見られる。住民のマナー向上を呼びかけるとともに、今後予想される空地の駐車場化に際しても、まちなみ景観を損なわないような整備の徹底を図る。

現況



(中部ゾーン・勝本地区公民館横)

整備イメージ



4. 町屋(住宅・店舗等)整備計画……………改修・新築時には伝統的町屋にならう

(1) 伝統的町屋等の価値の周知

- ・神奈川大学建築史研究室による「まちなみの実態調査」で、建築時期や建物の特徴・由来等が確認された町屋等については、それらを記したプレートを作成し、各町屋に取付けるなど、誰もが理解しやすく、歩いて楽しい仕掛けを工夫し整備する。
- ・また、特に歴史的景観に寄与している建物については、登録文化財制度（文化庁）やまちづくり景観資産登録制度（長崎県）への登録を推進し、建物にわかりやすく表示し、建物の価値を広く周知させると共に、優遇措置を活用した保全・修景に取組む。

(2) 改修・新築時の参考となる手引き書の作成

- ・伝統的な建物には「腕木・持ち送り」「2階の手すり」「1階の格子」「ばんこ」「レンガ」などの外観的特徴や、「通りにわ」「なかにわ」「吹抜け」などの空間的特徴があることを紹介し、改修・新築時にそうした伝統的な様式をいかに取り入れ、現代生活に活かせるか、また、以前は存在しなかった車庫や空調室外機等をいかにまちなみと調和させるか、海岸道路沿いの建物の表情をどうすべきか等をガイドした、わかりやすい手引き書を作成し、まちなみに調和した建物づくりを誘導する。

(3) 建物外観についての協定づくり

- ・歴史的・伝統的な建物にならない、調和のとれた美しいまちなみとしていくために、地区を選定し、まちなみ整備の方針と、外観を構成する各要素についての整備基準をワークショップ形式で検討し、建物外観についての協定づくりを行う。この協定に基づき、街なみ環境整備事業（国土交通省）や美しいまちづくり住民協定制度（長崎県）を活用した整備を行う。

(4) 広告物についての基準づくり

- ・まちなみに調和する広告物について検討するワークショップを行う。色や素材、大きさ、設置場所等、整備の際に基準となるデザインの基準づくりを進め、その基準にもとづき、広告景観モデル地区制度（長崎県）の活用をはかりながら、まちなみに調和した広告物の整備を行う。

現況



(中部ゾーン・黒瀬商店街)

整備イメージ



5. 拠点施設整備計画……………既存の建物を活用し勝本らしさを演出する

(1) 魅力的な拠点施設の整備

- ・かつての造り酒屋であり歴史的に価値の高い酒屋・酒蔵などの建物や、地区の魅力を高める潜在力はあるが十分に整備・活用されていない建物を、住民や観光客が気軽に利用できる魅力的な地区の拠点施設と位置づけて整備する。
- ・ワークショップで具体的な拠点施設候補があげられなかった西部ゾーンについても、計画を推進していく中で、拠点施設として位置づけて整備する建物を吟味する。
- ・現時点での拠点施設の候補とその特徴・整備の方向性を以下に示す。

原田酒店と酒蔵 / 殿川酒店と酒蔵

石橋酒店 / 吉田酒店

- ・原田酒店と殿川酒店は明治時代、石橋酒店と吉田酒店は江戸時代に建てられた、歴史的に価値の高い建物で、かつては酒造場だった。
- ・中部ゾーン・黒瀬商店街の西端に原田酒店、東側入口近くに殿川酒店という立地は、商店街の魅力を高める好要素。
- ・黒瀬商店街から東に100m程度の距離に、石橋・吉田両酒店が並んでいるという立地は、東部ゾーンのまち歩きの魅力を高める好要素。
- ・建物外観をできるだけ建設当初の姿に復元すると共に、通り沿いや店舗内に古い道具類を陳列・展示したり、店舗内を開放して、伝統的な建物のもつ空間を体感しながら試飲が楽しめる休憩スペースを設ける等の整備や、資料展示やミニコンサート等のイベント会場としての活用が期待される。

旧つたや旅館 / 旧警察署

- ・旧つたや旅館は昭和戦前期に建てられており、旧警察署の建築時期は未調査である。
- ・共に現在使われておらず、老朽化が進んでいるが、特に旧つたや旅館は、3階建ての木造旅館だった建物で、歴史的価値が高い。
- ・中部ゾーン・原田酒店と近接した好位置にあり、建物外観の修復整備と合わせて、喫茶サービスのある休憩所や地区の歴史資料の展示・紹介など、まち歩きの中継点としての整備・活用が期待される。

勝本朝市場 / シーフードセンター

- ・中部ゾーン・黒瀬商店街の入口近くで殿川酒店の両側に立地し、北側は観光客が利用できる駐車場に隣接しており、朝市のメイン会場となる建物。
- ・まちなみと調和し、明るく開放的で、観光客に好印象を与えるような施設整備を行う。

勝本地区公民館

- ・中部ゾーンの海岸道路沿いにある鉄筋コンクリート2階建ての建物。
- ・地区の中心という好位置に立地しており、まちなみになじむ外観整備や、トイレや建物の一部を観光客の休憩スペースとして開放できるようにする等の整備・活用を行う。

元銭湯の建物

- ・ 東部ゾーンの西側入口・国道382号沿いという好位置にある、昭和戦前期に建てられた建物。老朽化が進んでおり、また、当時の面影は外観からは伝わってこない。
- ・ 建物の歴史的価値や老朽化の度合いを見極めると共に、立地条件の良さを活かした整備が期待される。

旧松本薬局

- ・ 明治時代に建てられた、勝本浦を代表する建物の一つ。
- ・ 東部ゾーンの西側入口近くという好位置に立地しており、現在は空家だが、建物の保存状態は良好。
- ・ 内部を開放して誰もが見学できるようにしたり、地区の歴史資料を展示・紹介したり、また、ギャラリー・喫茶・工芸ショップ等の店舗として運用するなど、石橋・吉田両酒店と共に、東部ゾーンの核としての活用が期待される。

深山荘

- ・ 港やまちなみが見下ろせる東部ゾーンの高台に位置する、かつては旅館だった建物。
- ・ 眺望を楽しみながら休憩できるコーヒーショップやギャラリー等への活用に向けた整備が期待される。

漁協倉庫 / 観光船発着所

- ・ 東部ゾーンの東側・海岸道路沿いで、辰の島への海水浴客には立ち寄り易い立地。
- ・ 海を感じながらの休憩や、魚市や小イカのつかみ捕り等のイベント、新鮮な活魚料理の提供等ができるスペースとしての転用や、魚の水揚げや天日干し等の作業風景が見学できるようにするなど、海や漁港らしさを感じる場として、また、海水浴客に勝本浦のまちの魅力を伝える場としての整備・活用が期待される。

(2) 空家の調査と活用

- ・ 地区内の空家状況を調査・吟味して、まち歩きの拠点となる休憩所・案内所や、改修のモデルとなる魅力的な店舗への転用を図る。

原田酒店（中部ゾーン）



石橋酒店・吉田酒店（東部ゾーン）



6. 史跡・文化財等周辺整備計画……………地域の歴史や文化に親しみやすくする

(1) 史跡・文化財等の価値の周知

- ・地区の大切な歴史的資源である史跡・文化財や、大小たくさんの神社、点在するほこら・井戸・石造物・石垣・石塀の名称や歴史、いわれ等を調査し、それらを記した説明板を設置して、住民や観光客にわかりやすく紹介する。
- ・また、子どもにもわかりやすい読本やミニ写真集、パンフレット等を作成し配布する等、地域の歴史や文化が身近に感じられるような方策を検討し実施する。

(2) 日常的に触れ合う環境の整備

- ・老朽化が進んでいる史跡・文化財等については修復整備を行うとともに、ベンチや植栽、街路灯、案内板等を併設・修景し、住民や観光客の憩いの場とするなど、史跡・文化財等と日常的に触れ合えるような環境整備を行う。

(3) 登録文化財制度等の活用

- ・特に歴史的景観に寄与している史跡・文化財等については、登録文化財制度（文化庁）やまちづくり景観資産登録制度（長崎県）に登録し、建物の価値を広く周知させると共に、優遇措置を活用した保全・修復整備を行う。

現況



(東部ゾーン・新町の井戸廻り)

整備イメージ



7. おもてなし計画……………観光客がまちの魅力を満喫できるようにする

(1) わかりやすい「まち歩きマップ」の作成

- ・観光客にまちを楽しみながら歩いてもらうために、地区の魅力をわかりやすく紹介したマップやガイド本を作成する。
- ・まちなみや拠点施設、主な史跡・文化財、駐車場、公衆トイレ等の他、名物店主やお勧めの品、隠れた名所、伝統行事の紹介等、地元の人しか分からないような情報こそが、まちを歩く観光客にも楽しめる情報となる。それらもまとめてマップにすると共に、まちなみの写真やイラストを絵はがきにして一緒に紹介・販売することも、観光客に喜ばれるおもてなしとなる。

(2) 「まち歩きガイド」の育成

- ・地元の人々がガイド役となり、観光客を案内するツアーを企画する。ガイド役となるためには事前の勉強会が必要となるが、まち歩きの本ルートに加え、地元の人しか歩かないような小路を通ったり、めずらしいお土産のあるお店を紹介すること等で、一般的な観光ツアーでは味わえない、地元ならではのおもてなしとなる。

(3) おもてなしにつながる継続的な日常活動の実践

- ・住民が協力して海やまちを清掃したり、玄関先にプランターを置いて沿道を花で飾ったり、ばんこを置いて買物客が一休みできる場をつくったり等、地元の人々がお互いに心地よく暮らすための心づかいやちょっとした活動は、観光客に対するおもてなしにそのまま通じるものである。こうした活動は「美しいまちづくり」への最初の一步であり、継続的に取組まれることが期待される。
しかし、そうした日常活動にあたって、プランターは伝統的まちなみに調和しているか、心地よい統一感はあるか、といった視点を忘れないようにしなければならない。
- ・また、専門家を招いて勉強会やシンポジウム等を行い、住民の「おもてなしの心」を醸成することも有効である。

(4) 地域の食材・食文化の活用

- ・まち歩きをしながら手軽に食べられる製品を開発したり、新鮮な魚介類や地元のお祭り料理を提供する場を整備する等、観光客の大きな楽しみとなる、地域の食材や食文化を活用したおもてなしを考案する。

「まち歩きマップ」の例（平戸市）



沿道を飾る緑（東部ゾーン）



8．住民発意の計画とその推進……………住民の意思と意欲を尊重し柔軟に対応する

本計画策定は、住民参加による4回にわたるワークショップにおいて活発に出された意見を丁寧に拾い、それらにもとづいて構成した。

各回のワークショップ後に行った自由筆記のアンケートでは、「自分たちでできることから取り組みたい」「ワークショップに参加できなかった若い世代をはじめ、より多くの住民の意見をまちづくりに反映させたい」との意見が多かった。

今後も、できる限り多くの地区住民の方々に参加して頂けるワークショップ等の参加方式を活用しながら、住民の意思を反映した計画づくりとその事業実施に努める。

歴史的建造物の所有者等との車座談義



車座談義で披露されたまちなみの連続写真



原田酒店の蔵での「まちなみミニコンサート」



第6章 計画の推進

1. 計画の事業化とスケジュール

本計画の事業化にあたっては、住民と行政が十分に意見交換をして各計画の整備内容を検討・決定し、共に連携・補完しながら事業を進める。

基本的には美しいまちづくり推進事業（長崎県）の各制度と街なみ環境整備事業（国土交通省）登録文化財制度（文化庁）を活用した事業展開を図るが、町屋のもつ文化財的な価値の高さや事業の持続性を考慮すると、重要伝統的建造物群保存地区の指定（文化庁）も視野に入れた取組みの検討も必要である。

平成18年度は、今後展開される各整備事業のベースとなる、

- ・「美しいまちづくり住民協定」の策定
- ・「広告景観形成基準」の策定
- ・「街なみ環境整備事業・事業計画」の策定

のほか、比較的取組みやすく目に見える効果・成果のある事業、住民のまちづくり意識を高める事業等に取組むこととする。

以下に、事業計画を示す。実施時期については、短期（1～3年内）、中期（3～5年内）、長期（5～10年内）で区分する。

事業計画

整備内容	事業主体	実施時期			実施区域
		短期	中期	長期	
1. まちの骨格計画					
まちの空間構成を尊重した整備	住民・行政				地区全域
5つのゾーンの特性を踏まえた整備	住民・行政				地区全域
2. 街路整備計画					
まちなみに合わせた舗装の整備	行政				西・中・東ゾーン
まちを演出する街路灯・サイン等の整備	行政				地区全域
景観を損なう電線・電柱の地下埋設・移設の推進	九電・行政				西・中・東ゾーン
海や緑を楽しむ遊歩道の整備	行政				西・中・東ゾーン
3. 小広場・駐車場整備計画					
まちなみにめりはりをつける小広場の整備	行政				地区全域
既存の公園や身近な空地の見直しと再整備	住民・行政				地区全域
利用しやすくまちなみに調和した公衆トイレの整備	行政				西・中・東ゾーン
わかりやすく利用しやすい駐車場の整備	行政				西・中・東ゾーン
まちなみ景観を損なわない駐車場の整備	住民				地区全域
4. 町屋(住宅・店舗等)整備計画					
伝統的町屋等の価値の周知	住民・行政				西・中・東ゾーン
改修・新築時の参考となる手引き書の作成	行政				西・中・東ゾーン
建物外観についての協定づくり	住民・行政				西・中・東ゾーン
広告物についての基準づくり	住民・行政				西・中・東ゾーン
協定にもとづく建物外観の改修	住民・行政				西・中・東ゾーン
基準にもとづく広告物の改修	住民・行政				西・中・東ゾーン
5. 拠点施設整備計画					
魅力的な拠点施設の整備	住民・行政				西・中・東ゾーン
空家の調査と活用	住民・行政				西・中・東ゾーン
6. 史跡・文化財等周辺整備計画					
史跡・文化財等の価値の周知	行政				地区全域
日常的に触れ合う環境の整備	行政				地区全域
登録文化財制度等の活用	住民・行政				地区全域
7. おもてなし計画					
わかりやすい「まち歩きマップ」の作成	行政				西・中・東ゾーン
「まち歩きガイド」の育成	住民				西・中・東ゾーン
おもてなしにつながる継続的な日常活動の実践	住民				地区全域
地域の食材・食文化の活用	住民				地区全域
8. 住民発意の計画とその推進					
住民参加ワークショップの継続	住民・行政				地区全域

2. 事業の推進体制

(1) 「彦岐勝本浦まちづくり推進委員会」の継続

「彦岐勝本浦まちづくり推進委員会」を継続し、「美しいまちづくり住民協定」や「広告景観形成基準」策定のためのワークショップの開催や、「街なみ環境整備事業・事業計画」の検討等、美しいまちづくりに向けた計画全体の調整・推進にあたる。

(2) 「彦岐勝本浦まちづくり相談室」(仮称)の開設

勝本浦は、元気があることや建物の老朽化が進行していることもあって、建て替えや改修、あるいは解体・駐車場化が現在も進行している。こうした、住民の建築更新に対する活力ある現状に対して、具体的にどこでどのような建築行為がなされようとしているのかを事前に知り、それらをこれからのまちづくりにつながるものに誘導していくことが、当面は重要である。

そこで、週1回、勝本地区公民館内に、住民が気軽に相談できる「彦岐勝本浦まちづくり相談室」(仮称)を設置して、「美しいまちづくり推進事業」の概要や進捗状況の説明、新築・改修時や駐車場整備の留意点、「美しいまちづくりアドバイザー派遣制度」の活用等、まちづくりに有効な情報を住民に提供すると共に、地元の動向や意見を聞き、住民と行政の情報交換の場・情報を一元化する場を設ける。

(3) 地元住民の組織的活動とネットワークづくり

各事業を推進する上で、基本となる各地区自治会のまとまりは不可欠であるが、例えば商工会や漁協、婦人会、老人会等の各団体でも、まちのあり方や自分たちでできることを検討・提案したり、まちなみを舞台としたイベントを開催したり、連携してまちの清掃活動をすることなどが望まれる。

また、これら既成団体とは別に、例えばご婦人たちの趣味を活かし、生花や粘土細工、パッチワーク等の作品を旧松本薬局に持ち寄って展示会を開催する等、小さい単位で、地区内に暮らすご婦人たちのネットワークを醸成させることも有効である。

各地区自治会を縦系とするならば、それらを横系で紡ぐような各団体でのこうした活動とネットワークづくりが、地区住民みんなで美しいまちづくりに取組もうという気運をより高めることにつながる。

(4) 関係各課の連携

美しいまちづくり推進事業(長崎県)の各制度や街なみ環境整備事業(国土交通省)登録文化財制度(文化庁)を活用した事業展開をスムーズに行うために、市観光商工企業課・建設課・教育委員会等で構成する「彦岐勝本浦まちづくり推進班」(仮称)を設置して、関係各課の連携を深める。

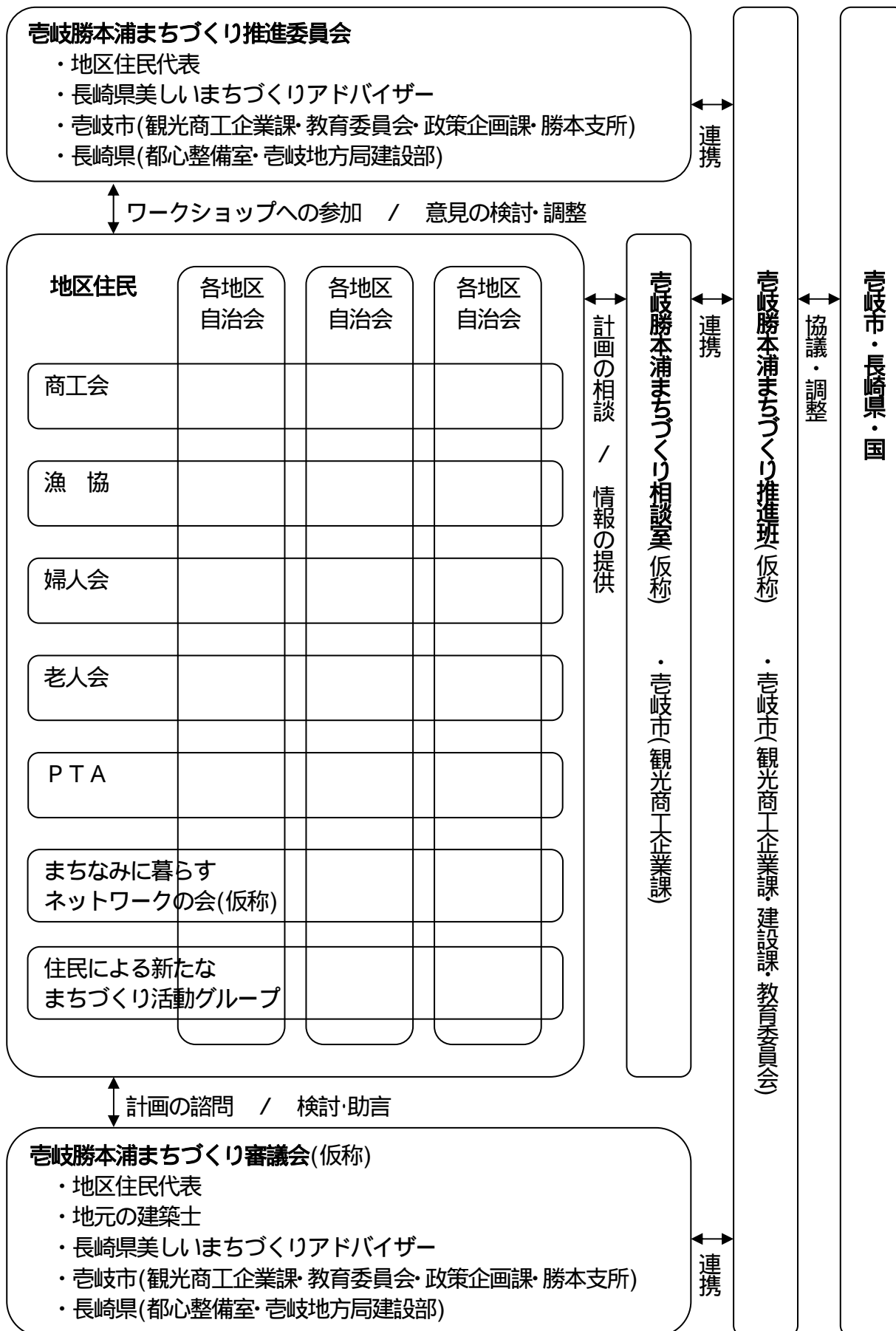
(5) 「彦岐勝本浦まちづくり審議会」(仮称)の設置

「美しいまちづくり住民協定」「広告景観形成基準」「街なみ環境整備事業・事業計画」の策定後、これらの基準に沿った整備・修景が確実に実行されるようにするために、住民や行政、建築設計に携わる地元の建築士、専門家などにより構成される「彦岐勝本浦まちづくり審議会」(仮称)を設置して、計画内容の検討や助言を行う。

(6) 表章制度の創設

こうした基準に沿って整備・修景された建物や広告物に対して、勝本浦らしいまちなみ景観に寄与する事例として積極的に評価する「彦岐勝本浦美しいまちなみ表章制度」(仮称)を創設し、良好なまちなみづくりを促す仕掛けとする。

事業の推進体制



資 料

沓岐勝本浦まちづくり推進委員会 委員名簿(敬称略・順不同)

委員

役 職	氏 名
県まちづくりアドバイザー(委員長)	林 一馬
"	清水 耕一郎
沓岐市教育委員会教育長	須藤 正人
沓岐市商工会副会長	末永 健次
" 青年部部長	下條 明博
" 女性部副部長	深山 彰子
勝本町漁協組合員	松岡 芳夫
" 女性部長	松尾 菅子
勝本浦公民館連合会長	藤島 光信
島の科学研究会	石井 敏夫
長崎県政策調整局都心整備室課長補佐	町田 博昭
長崎県政策調整局都心整備室	國廣 正彦
" 沓岐地方局管理部地域振興課長	山口 雄二
沓岐市勝本支所長	米本 実
" 企画課長	堀江 敬治
" 観光商工企業課長	西村 善明
" 企画係長	谷口 実
" 観光商工企業班係長	吉井 弘二

オブザーバー

役 職	氏 名
長崎県政策調整局都心整備室長	深堀 辰之介
長崎県土木部都市計画課計画調整班係長	植村 公彦
長崎県沓岐地方局建設部管理・用地課建築班係長	黒田 信司
長崎県沓岐地方局建設部管理・用地課建築班	永田 仁
長崎県沓岐地方局管理部地域振興課	佐藤 勲
沓岐市助役	澤木 満義
" 総務部長	松本 陽治
" 産業経済部長	喜多 丈美
" 建設部長	立石 勝治
" 市民生活部長兼福祉事務所長	山本 善勝
" 総務課長	米本 実
" 水産課長	今村 光一
" 農林畜産課長	白石 廣信
" 農村整備課長	中原 康壽
" 建築課長	酒村 泰治
" 土木課長	長山 栄
" 水道課長	松本 徳博
" 下水道課長	榊崎 精司
" 市民福祉課長	川畑 文隆
" 文化財課長	山内 義夫
" 観光商工企業課	山口 祐二
" 観光商工企業課	市山 恵

コンサルタント

アルセッド建築研究所	清水 耕一郎
"	古川 智博

勝本浦地区美しいまちづくり推進事業におけるワークショップ 開催実績表

参加人数

開催日	地元								一般					事務局				合計	
	大人	小学生	中学生	高校生	推進委員	商工会	吉岐市	観光協会	勝本町	小計	観光協会	吉岐	学校教諭	建築士会	その他	小計	長崎県		吉岐市
第1回 6月19日(日) 13:30~16:30	5	12	6	2	4	3	1		33	2	6	1	2	11	4	6	3	13	57
第2回 7月12日(火) 19:00~21:30	12	10	0	0	6	4	0		32	2	5	1	1	9	4	9	3	16	57
第3回 9月14日(水) 18:30~21:30	5	7	0	0	6	5	1		24	2	3	0	4	9	5	6	3	14	47
第4回 10月24日(月) 19:00~21:30	3	6	0	0	5	4	0		18	1	3	0	1	5	5	6	3	14	37
延べ人数	25	35	6	2	21	16	2		107	7	17	2	8	34	18	27	12	57	198
実人数	20	12	6	2	6	6	1		53	3	7	1	5	16	7	12	4	23	92

第1回ワークショップ かわら版

平成17年6月30日 発行

日時：平成17年6月19日(日) 13:30~16:30

場所：勝本地区公民館 2階ホール

主催：彦岐市・彦岐勝本浦まちづくり推進委員会

問い合わせ先：彦岐市観光商工企業課 TEL.48-1111

勝本浦地区美しいまちづくり推進事業の取組みを始めました。

彦岐市では、平成17年1月より、彦岐島らしい魅力あるまちなみの保全・整備を進め、地域の活性化に資するため、歴史的建造物が多く残る勝本浦地区を対象として、「勝本浦地区美しいまちづくり推進事業」への取組みを始めました。地区の住民代表の方々、長崎県の美しいまちづくりアドバイザー、関係行政職員による「彦岐勝本浦まちづくり推進委員会」を設立し、まずは、まちづくりを進めるためには今後どういったことを検討していく必要があるかについて議論を重ねました。そこでは、

「専門家によるまちなみ・歴史的建造物の調査を行う」

「住民と行政が協力して『まちづくり基本計画』を策定する」

「国・県の支援を大いに活用できるように進める」

等が話され、平成17年3月に「彦岐勝本浦まちづくり基本構想」としてまとめました。



まちなみ（歴史的建造物群）の調査が行われています。

基本構想に基づき、5月13日~16日に、神奈川大学・西教授のグループによる「まちなみ（歴史的建造物群）の実態調査」が行われました。5月15日の報告会では、西教授より「勝本浦はまちが元気なので住宅等の建替えが進んでいる。その時に、本当の勝本浦らしい特色を捉えて、家づくりに取り込んでいけば、他のどこにもない、勝本浦らしいまちなみにつながっていく。そのためにも、まちなみ（歴史的建造物群）の実態を明らかにしたい」というお話がありました。この実態調査およびその報告会は、今後も継続して行われます。



住民と行政の協働による『まちづくり基本計画』の策定へ向けて力を合わせましょう。

これからのまちづくりは、これまでの行政に「お任せ・お願い型」ではなく、住民の皆さんが「自分たちが住むまちだから、自分たちでどういうまちにしたいかを考え、その実現に向かって力を合わせていく」ことが大切です。

そこで、「まちづくり基本計画」を検討するにあたり、できるだけ多くの方々にお集まりいただき、色々な意見を出し合っていたくために、一般的な会議形式で話し合いを進めるのではなく、手や身体を使ってみんなで共同作業しながら考える「ワークショップ」と呼ばれる形式で進めていきます。

その第1回目が、「まち歩きでまちづくりの資源と課題を掘り起こそう！」をテーマとして、6月19日(日)に勝本地区公民館で開催されました。

勝本浦の将来を考える大切な会合ですので、今後とも多くの皆さんのご参加をお待ちしております。



国・県からの支援の活用をはかりましょう。

勝本浦の「まち」を形づくっているものは何でしょう。道路や建物、広場であったり、山や海であったり……。よく考えてみると、公共のものだけでなく、住宅や駐車場等、各個人のものの割合がとても多いことに気づきます。つまり、公共(行政)が行う道路や公共施設等の整備だけでは、まちづくり整備の効果は十分ではなく、これからめざすまちの姿に向かって、住民の皆さんの住宅や店舗などが少しずつでも整備されていくことが重要となります。

住民の皆さんが、今回のワークショップ形式による「まちづくり基本計画」の策定に参画されたり、今後自分たちで守るべき建物のルールを自分たちでつくったり等、地元の皆さんのまちづくりに対する意欲と行動を示せば、国・県から各個人に対して、その整備に必要な資金に対する補助を受けることが可能になります。



第1回ワークショップ 「まち歩きでまちづくりの資源と課題を掘り起こそう！」

お天気にも恵まれた6月19日、勝本地区公民館と勝本浦一帯で、第1回ワークショップが開催されました。

勝本浦地区を西・中・東の3地区に分け、それぞれの地区をA・Bの2グループずつ（各8～10名）で分担して、ゆっくりと見て回りました。

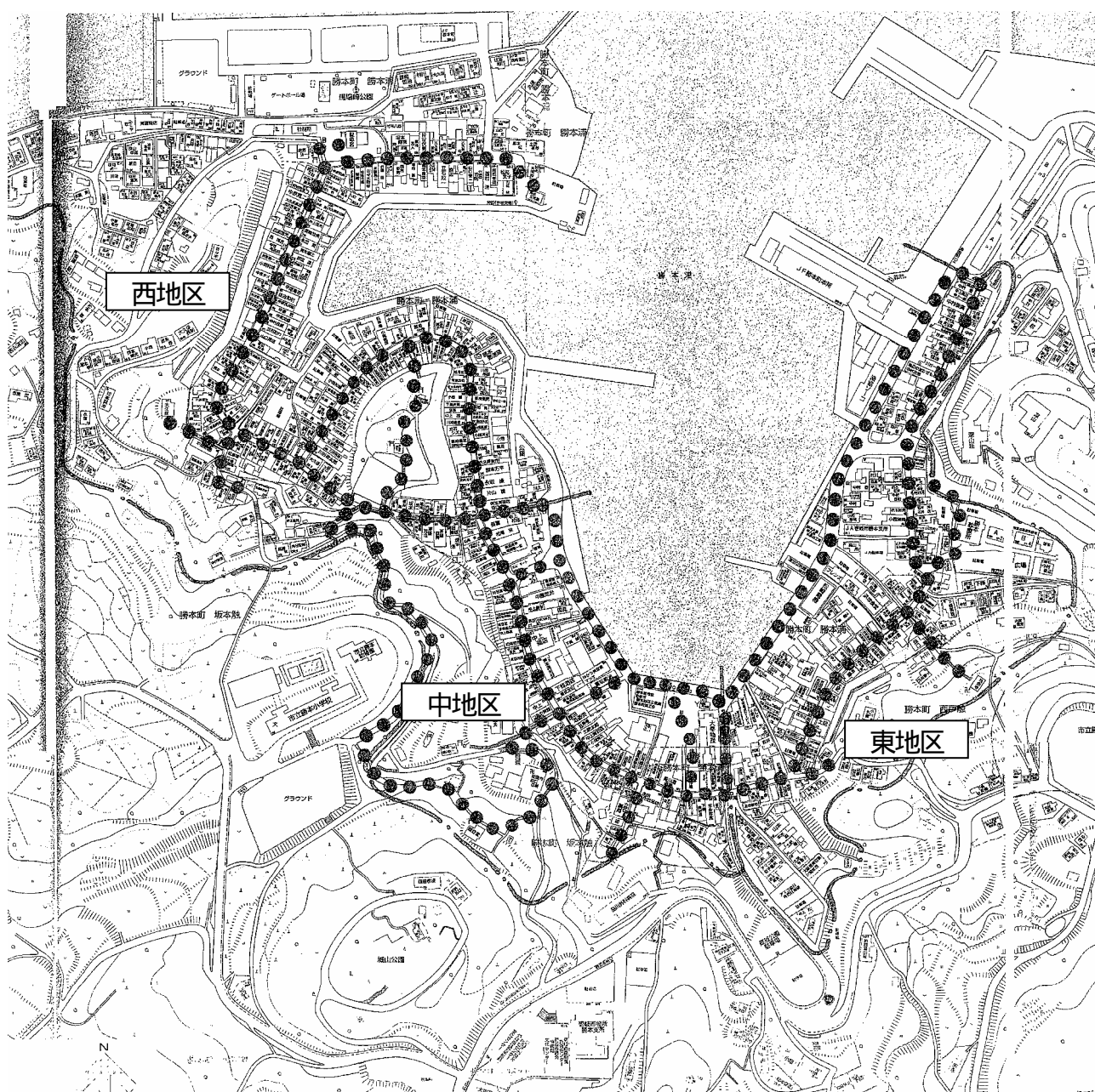
「古い建物や神社・ほこらがこんなにたくさんあるとは思わなかった」

「よく見ると立派なつくりの建物が多いことがわかった」

など、地元の皆さんや小中高校生の皆さんも、今まで気づかなかった勝本浦の魅力など、いくつもの発見があったようです。

参加者	地元住民	: 13名
	小中高校生	: 20名
	地元以外の方	: 11名
	事務局等	: 13名
	合計	: 57名

6グループによるまち歩きのルート



ワークショップの様子



最初に、美しいまちづくり推進事業への取組みや、今日のワークショップの進め方などについての説明がありました。



世代も立場も異なる皆さんが6つのグループに分かれて、まずは自己紹介。写真係や歩くルートも各グループ毎に決めました。



いよいよ、まち歩きスタート！地図を片手にみんなでワイワイ話しながら、勝本浦のまちの「お宝」を探します。



普段は見られないような酒屋さんの奥の方や蔵の中も見せていただきました。所有者の皆さん、ありがとうございました。



ポチポチお疲れモード(?)のおとなを引きずるようにして、元気な子どもたちがまたまた何かを発見！



公民館に戻って、気づいたことなどをそれぞれ付箋紙に書き出しました。青い紙が良かった点、赤い紙が問題点です。



それぞれに書き出した内容について、みんなで話し合い、意見交換しました。



大きな地図に、青い紙・赤い紙を貼り込みます。その地図にタイトルもつけました。



それぞれにグループ名も決めて作業終了！簡単ですが各グループ毎に発表しました。



推進委員長である長崎総合科学大学学長の林先生に、ご講評いただきました。

- ・出来上がった地図を見ると、西地区は青い紙、中地区は赤い紙の方が多く、東地区は半分ずつ位だった。それぞれの紙に書かれた内容を、次回のワークショップでまとめていきたい。
- ・神社・ほこら・酒屋・坂道など、いくつかのキーワードが浮かんできた。
- ・各地区で海や山が見えたり見えなかったりなどの特徴もある。
- ・空地・空家の活用など、いいアイデアを出し合って、みんなでまちをもっと磨いていきたい。

次回のワークショップは、7月12日(火) 19:00~21:30

テーマ：「魅力と課題からめざすまちの姿を考えよう！」

場所：勝本地区公民館 2階ホール です。

前回参加された、されなかったにかかわらず、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

ワークショップの成果発表



タイトル：古代ヘタイムスリップ（神々の住む浦）

グループ名：藤嶋とゆかいな仲間たち（西地区担当A）

- ・尾形家・原田家・藤嶋家等、すぐれた古建築が思いのほか多くある。
- ・川尻の毘沙門堂一带に、神様が無数に点在している。
- ・道が曲がっているのが、先が見えずにおもしろい。
- ・坂道がきついけど、下りの時の景色がいい。
- ・阿弥陀堂の石仏がブロック塀に隠されて見えにくい。



タイトル：大漁信仰のまち勝本!

グループ名：ピクत्रीー8（西地区担当B）

- ・リフォームをしつつも、昔の家の造りが残されていて良かった。
- ・軒下の飾りが家ごとに違っており、リフォームの際にも残して欲しい。
- ・ほこらが多かった。ちょっと歩いてただけでまたあるから驚いた。
- ・昔ながらの古い家や空き家の見学ができればいいと思う。
- ・花や植木を育てるスペースが少なかった。



タイトル：歴史を訪ねるまち歩き

グループ名：さまぁーず（中地区担当A）

- ・土蔵はギャラリー・喫茶店・休憩所等に活用できないか。
- ・船はアートになるので、海岸通りにそれを楽しむ遊歩道ができないか。
- ・朝市通りはタイル貼りの現代的な通りをめざしているように感じた。
- ・看板を統一して、何の店かわかりやすくすべきではないかと思う。
- ・エアコンの室外機やガスボンベ等を目隠した方がよくないか。



タイトル：歴史と生活が感じられる勝本浦

グループ名：勝本はま・おかドルフィンズ（中地区担当B）

- ・家屋の基礎部分が石垣でできており、かなり珍しく感じられた。
- ・レンガの壁や煙突跡は、情緒があって良かった。
- ・道路のインターロッキング舗装が、まちなみと合わない気がする。
- ・まちの中の電柱と電線を撤去できないか。
- ・道路上の万国旗がまちなみに合わない。



タイトル：スーパーひとし君もびっくり 勝本ふしぎ発見!

グループ名：きれいにし隊（東地区担当A）

- ・松本薬局の建物はすばらしいので、これからは是非残して欲しい。
- ・石橋・吉田両酒店の造りには驚いた。
- ・石井さん宅のコレクションはすごかった。多くの人に見てもらいたい。
- ・初めて来た人は入りにくい・歩きにくい感じを受ける。
- ・海にゴミが捨ててあり、よごれていた。



タイトル：石井写真館をつくる会

グループ名：チーム・イシイ（東地区担当B）

- ・神社や寺が狭いエリアに点在しており、大人の散歩コースによい。
- ・酒屋さんの建物自体の存在感がすごい。イベントなどもできそう。
- ・各所に案内板や説明版が欲しい。
- ・漁協倉庫は海際のいい場所にあり、住民や観光客が活用できればよい。
- ・各スポットは面白いが、まちとしてテーマを決める必要があるのでは。

ワークショップでの写真・アンケートコメント集(抜粋)

Q1. ゆっくりとまちを歩いてみた感想はいかがでしたか？



- ・近くに住んでいるのに新しい発見がたくさんあった。
- ・なにげなく歩いていた町だけど、あらためてゆっくり歩くといろいろな事が見えたりわかったりした。
- ・きつかったけど、この町のいい所やわるい所がよくわかった。
- ・勝本の町にこんなにたくさんの神社や井戸があると思いませんでした。いい勉強になりました。
- ・いつも歩いている道でも、ゆっくりと周りを見渡してみると、いつもは気付かないような家の造り・ほこら・街並みが見えた。
- ・空家が意外と多い。
- ・普段気付かない古い歴史が感じられる建築物の多さに驚いた。それが整備されないまま(歴史的価値が認識されないまま)放置されている。
- ・日頃なにげなく通っていた場所に古い建物がありびっくり。でも、新しい建物も多かった。
- ・久しぶりに中の通りを歩き、なつかしかった。
- ・静かで、のんびりした感じだった。



Q2. 他のまちにはない、勝本ならではの魅力は何だと思いますか。どんなことでも結構です。ご自由にお書き下さい。



- ・歴史がそのまま残っている、昔の生活が感じられるのは勝本浦の魅力ではないかと思います。
- ・朝市がある町。
- ・町の中に神社がいっぱいあった。(小さい道の間など色々)
- ・港町で漁がさかんだから船がたくさんある。
- ・海を中心とした生活の様子がうかがえ、信仰心が強く感じられた。
- ・街並みが広くて長い。
- ・漁業の町を感じさせる歴史的町並み。
- ・酒蔵場が多いと思いました。
- ・勝本には、信号があまりない。
- ・海と、海に生きるやさしい人の町ではないかと思います。
- ・密集地区であるため、隣近所とのコミュニケーションをずっととりつづけた様子が人々の人柄の良さにつながっているのでしょう。



ワークショップでの写真・アンケートコメント集(抜粋)

Q3. 今日のワークショップに参加してみた感想をご自由にお書き下さい。



- ・なかなか人の家へ上がって見学できないので、いい経験をさせていただいた。
- ・いろいろな発見があり楽しかったです。他の人の考え方も参考になりました。
- ・少しでも町が活性化していければいいと思う。いい企画だと思うので、是非工夫していければいい。
- ・正直いえばきつかったけど、いつもはわからない勝本の魅力などに気づけてよかった。
- ・地元を知らなかったこと。
- ・町なみの良さを再発見でき、この地がますます好きになりました。やはり、視点をもって歩いていくことがまちづくりの原点のようでした。
- ・自分たちの町がより良いものになっていくような気がして、とても良かった。
- ・もっと多くの住民の方に参加していただけたほうがよい。



Q4. その他、これからの勝本浦のまちなみ・まちづくりについてなど、ご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。



- ・古き良き所をいつまでも残すまちづくりをしたらよいと思います。特に海をきりはなさずに。
- ・何度訪れてもその度何か発見のある、景観的には統一された街になると良いです。
- ・海をもうちょっときれいにしたい。
- ・1人でも多くの住民のみなさんにこのまちづくりを理解してもらい、住民の結束ですばらしいまちづくりが出来ればと思います。
- ・地元の皆さんの盛り上がりが大切。
- ・できれば、ここに住んでいる人々の理解のもと(本日のワークショップも地区には広まっていませんでした)この良い景観が住む人のためにも残されることを望みます。
- ・20~40代の参加が少なかったため、今後参加するようにしたほうがよい。
- ・ワークショップでの活動をまちづくりに十分に反映させていただきたいと思います。住民の意見と外部の人々の意見をうまく融合させてほしい。



第2回ワークショップ かわら版

平成 17 年 9 月 1 日 発行

日時： 平成 17 年 7 月 12 日(火) 19:00~21:30

場所： 勝本地区公民館 2 階ホール

主催： 彦岐市・彦岐勝本浦まちづくり推進委員会

問い合わせ先： 彦岐市観光商工企業課 TEL.48-1111

第2回ワークショップ「魅力と課題からめざすまちの姿を考えよう！」が、去る7月12日に開催されました。

勝本浦の魅力と課題を、前回のまち歩きで作成した地図を使いながら整理して、その中から、早く取り組むべきものや特に重要だと思うものを3つ選んで、具体的に「何を」「どうするか」「自分ができること・したいことは何か」について、みんなで話し合いました。まちづくりのキャッチフレーズも考えて、最後にグループ毎に発表しました。

参加者	地元住民	: 22名
	小中高校生	: 10名
	地元以外の方	: 9名
	事務局等	: 16名
合 計		: 57名

ワークショップの成果発表



グループ名：

藤嶋とゆかいな仲間たち

できること・したいこと：

- ・清掃する(浜掃除の日のように定期的に各町単位で)
- ・違法駐車をしない
- ・路上駐車者に対する声掛け

キャッチフレーズ：【 歩いてみれば人情かよう人々をいつも神様見ててくれる 】

道路の景観を良くする

電柱を地中化して本来のまちの景観に / 景観に合うカーブミラーを / 花壇をつくる /

道は足にやさしい舗装材を使う(知覧の街のように) /

海側を低木で緑化し、休憩所をつくる

地域の駐車場をつくる(路上駐車禁止)

中折・田間・川尻が多い / 空家跡地の活用(空家は保全会社喫茶店等に) /

地域住民で地主と交渉する / 噴水のある公園をつくりそこに駐車

歴史的な建物・石垣・お堂・神社・伝統行事・聖母宮の祭等について

所有者に保存をお願いする / 所有者の理解を得て新建材を取り外し、元の使用材料で復元する /

歴史的建物に対する写真入りの説明板・案内板をつくる /

案内板も地域にあった素材を使う



グループ名：

ピクトリー8

できること・したいこと：

- ・お年寄りからの聞き取り調査
- ・まち歩きガイドをする
- ・空箱等でイスをつくる

キャッチフレーズ：【 残そう 知らせよう いかおう(憩おう) 勝本 】

古い建物のつくりを今後も受け継ぐ(保存する)

軒・庇や欄干など、古い建物の特徴をまず住民に知ってもらう /

リフォームの参考にするために、建物の特徴をまとめて示す(マニュアル化)

案内板や解説板を設置する

それぞれの場所の歴史やいわれを調査する /

マップをつくる(見やすく誰にでもわかりやすく) /

イベント案内等を張り出す / 現在地のわかるような案内板の設置

まち歩きの休憩所(スペース)をつくる

空家を利用した休憩所(建物の特徴を残すお手本として)



グループ名：
さまぁーず

できること・したいこと：

- ・食物をむだにしないように
- ・ポスターを書き、呼び掛ける
- ・ゴミの分別をキチンとする
- ・あいさつをする
- ・花や絵をかざる
- ・ボランティアによる維持・修繕・清掃等
- ・所有者の了解を得て自分の特技を教えられる教室を開く

キャッチフレーズ：【暮らしの身のまわり運動】

町をきれいにする

一人ひとりの意識を高める(地域・学校等での教育、ポスターをつくってのPR、捨てる人への声掛け等) / 各種団体への清掃活動の依頼 / 住民がまち歩きを楽しみながらクリーン作戦を展開する / 全世帯でフラワーポットを飾りつけ、色どりのある町並みにして、ゴミを捨てられない町としてPR

朝市について

拠点となる施設・家屋を利用してイベントをする(地域の伝承遊び体験・健康教室等) / スタッフを集めると参加できる、地域の物産が当たる抽選会の実施 / 土・日に小中学生に体験させる(継続的に) / すれ違った人たちに大きな声であいさつする / 花を置く

古民家(空家)の保存・活用について

貴重な建物は改修し、時間を決めて夜間にライトアップする / 休憩所に / 朝市に来た家族連れのための子供の遊び場 / プティック・喫茶店に利用 / 造り酒屋に気軽に立ち寄りお酒の試飲ができる場所をつくる / 広く公募して芸術家に提供する(空家はまず住んでもらった方がよい)



グループ名：
勝本はま・おかドルフィンズ

できること・したいこと：

- ・町の美化・ゴミ拾い
- ・あいさつをする
- ・花を植える

キャッチフレーズ：【勝本と魚ば守い! (訳: 勝本と魚を守る!)】

つたや旅館をはじめとした旧家屋について

町の歴史を伝える資料館・喫茶スペースとして立ち寄れる場所に / 石井さんのコレクションを展示 / 地域の中で集めた昔の道具を展示 / 老朽化した箇所を修復し、内部の造りも見られるように / 3階の見晴らしを活かした展望所に / 散策コースの中継点として

町外の人に対するおもてなしについて

駐車場の整備 / ボランティアのまち歩き案内役を募る / 案内板等の整備 / 散策できるようなルートづくり / 舗装の改修 / 魚のまちをアピール (魚が食べられる店・捕れる魚の展示) / 定期的なボランティア清掃

休憩やコミュニケーションができるスペースづくりについて

空地を利用したポットワークとそれに面した店舗の整備 / ベンチの設置





グループ名：
きれいにし隊

できること・したいこと：

- ・講演会をする
- ・建物の重要性を伝えていく
- ・地域で掃除する

キャッチフレーズ：【歴史じまんのまち 勝本】

まちの大事な資産について(神社・堀・石垣・井戸・文化財等)

保存して有効活用を図る /

パンフレットや看板等で歴史的な価値を知ってもらう

町の大事な建物について(吉田酒店・石橋酒店・松本薬局等)

建物の価値をまちの多くの人に知ってもらう

ばくらのまち全体について

ゴミをなくす(海のゴミも) / 古い建物・空家をきれいにし有効活用 /

まちなかに由来等の看板を立てる / まちと海(漁船)の関係を深める



グループ名：
チーム・イシイ

できること・したいこと：

- ・石井さん・山口さん(グループメンバー)が出展・出品を検討
- ・コンサートを見に行く
- ・掃除する

キャッチフレーズ：【海風のとおり町 路地裏散策】

松本薬局をお借りして

石井さんの写真を展示 / 陶器・ガラス・染物・漆等の工芸ショップも併設 /

島内の隠れた陶芸家を発掘する /

地区の中心に近いので、商店街への客の流れ込みも期待できる

石橋酒店・吉田酒店をお借りして

漁具を展示し、九州一の漁船集落をアピール / ミニコンサートを開催 /

酒造りの古い道具類を通りに向かってディスプレイ /

今の生活・商売との折り合いやどこをどう改修するかは今後の課題

上の3つの建物と、点在する神社・アハウ堀・井戸等を使って

散策コースの整備 / マップの作成 / 説明板の設置 / 舗装を変える /

休憩所の設置 / 井戸廻りを整備(住民の井戸端会議もできる) /

深山荘の活用(古美術・コーヒーショップ等)

まちなかのブロックでつくられた花壇を自然石やレンガづくりに



林推進委員長の講評：

- ・最初はどうかとハラハラしたが、各グループとも時間内にうまくまとまり、すぐにでもできそうな提案がたくさん出てきてとても良かった。

林推進委員長より …【まちづくりの試行イベント5つの提案】…

各グループの発表を盛り込んで、住民の皆さんが自分たちでできる5つのことを提案したい。

夏休みの宿題等で、「勝本浦の景色と生活」について小中学生に一枚の絵を描いてもらい、秋頃に、原田酒店の蔵や旧つたや旅館をお借りして、それらの絵の展覧会を催し、コンクール形式で表彰する。

11月の文化の日などに、松本薬局・石橋酒店・吉田酒店をお借りして、文化に関わるイベントを行う。

年に2回、はま組とおか組に分かれてゴミの一斉掃除をし、その翌日に、本通りで全自治会参加の「花みちコンクール」を開催する。

春夏秋冬の年に4回、朝市にフリーマーケットを組み合わせで行う。

お祭りの日に、仮設のポケットパークや「たな」「バッテリー」公衆トイレをつくる。

ワークショップでのアンケートコメント集(抜粋)

Q1.今日のワークショップに参加した感想は？

- ・具体的な話もでてきて、一歩ずつ前進と感じました。
- ・グループ内で意見を出し合い、多面的な見方で町を見ることで、魅力と本当の課題がさらに深まってきたようです。
- ・初めてですが、皆さんとても熱心でびっくりしました。地元にいながら知らない事が多くあった。我が町でない方々ががんばっておられる。地元の自分もがんばろう。
- ・1回目とはちがってむずかしかった。いろいろな意見がでました。



Q2.まちづくりのキャッチフレーズについて、他にご意見は？

海神と漁師のすむ街 / 夢の島・魚の町、みんなおいでよ！
 すばらしい歴史のまち 勝本 / まちなみ！ふるさと！朝市のまち
 ふれあい発見 勝本浦 / 行って見よう 北の町 勝本
 海とともにくらす人の街 / 古代の町 いろんなことがあり触れる
 文化と歴史のオモシロロード / 楽しいよ、街なみ探訪 in 勝本
 タイムスリップできる家並みの街 勝本



Q3.今後、ワークショップ形式で取組んでみたいテーマは？

- ・勝本町の文化遺産について、もっと勉強する機会をもちたい。
- ・「勝本美しい街並み100景」なるものを絵・写真で作成する。
- ・ゴミ拾いなどをしたい。
- ・公園の整備。朝市の活性化。
- ・3地区の共同テーマをつくり、ワークショップをしたい。
- ・折衷案から大きなテーマを決め、3つでも実行・実現していく事。



Q4.これからの勝本浦のまちなみ・まちづくりについてなど、ご自由に。

- ・地元への説明会が必要。新顔が頼もしい。新メンバーの参加を!!
- ・地元の勝本浦青年部等の参加を呼び掛けてみたら。浦部のまちなみなので、二代・三代の方の意見が必要と思う。
- ・勝本の古い歴史を大切にしていきたいという意見で全てのグループが共通したが、これもワークショップに参加してわかったこと。
- ・出来ることから実現していくことが大切。
- ・花が置いてあるのは感じがいいので、全部の家がやったらいいと思う。



次回のワークショップは、9月14日(水) 18:30~21:30
 テーマ:「くらしの中の宝物を探し、活かし方や整え方を考えよう!」
 場所: 勝本地区公民館 2階ホール です。

神奈川大学・西教授による「まちなみ(歴史的建造物群)の実態調査」報告会と、ワークショップの二本立てです。前回参加された、されなかったにかかわらず、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

第3回ワークショップ かわら版

平成 17 年 10 月 6 日 発行

日時： 平成 17 年 9 月 14 日(水) 18:30~21:30

場所： 勝本地区公民館 2 階ホール

主催： 彦岐市・彦岐勝本浦まちづくり推進委員会

問い合わせ先： 彦岐市観光商工企業課 TEL.48-1111

去る 9 月 14 日、「くらしの中の宝物を探し、活かし方や整え方を考えよう！」をテーマに、第 3 回ワークショップが開催されました。

最初に、今年 5 月より勝本浦のまちなみ（歴史的建造物群）の実態調査を行っている、神奈川大学の西先生と大学院生・学生の皆さんより、調査から見てきた勝本浦の建物やまちなみの特色と今後のまちづくりについて、スライドを使ってお話しいただきました。

その後のワークショップでは、前回取り上げなかったまちづくりの取組みについて、具体的に「どこを」「何のために」「どうするか」をグループ毎に話し合いながら、地図とシートに提案内容をまとめました。

参加者	地元住民	: 17 名
	小中高校生	: 7 名
	地元以外の方	: 9 名
	事務局等	: 14 名
合 計		: 47 名

「勝本浦の建物の特色と今後について」

西先生グループのお話



建物の特色について

- ・戦前～大正時代に建てられた建物が約 130 件、明治～江戸時代に建てられた建物が約 40 件、合計で約 170 件残っている。
- ・今年の 5・6・8・9 月の 4 回で、全体の 2 割弱にあたる 31 件・42 棟の建物の調査を行った。
- ・勝本浦の建物には、以下の 7 つの特色がある。

切妻平入 : 屋根が切妻屋根で、玄関(出入口)が軒先側(平側)にある

平面構成 : 家の中に「通りニワ(土間)」や中庭がある

腕木・持ち送り : 庇や梁を支えるもので、立派に彫刻されたものもある

2 階の手すり : 手すりの姿かたちがそれぞれの家で違っている

1 階の格子 : 格子の間隔や長さなど、家ごとに違っている

ばんこ : 折りたたみ式のばんこ(縁台)をつくり付けた家もある

レンガ : 家や倉の外壁、造り酒屋の煙突などに使われている

- ・それぞれの特色は他のまちにもあるし、住民にとっても見慣れているのでめずらしくないかもしれないが、7 つの特色が揃っているのは勝本浦しかない。
- ・その他、鳥居・ほころ・石塀・井戸などの石造物が多く残っている。



今後の課題について

- ・建物が古いかどうかよりも、それらを大切にしているかどうかが重要。
- ・まちづくりでは、建物だけでなくその周辺の環境整備も重要であり、石造物などに表われている地域の文化を大切にすべき。

今後の方向性について

調査の進展 : 専門的な調査だけでなく、住民が自分たちのまちに対する認識を深めることが重要。まちづくりは、まずまちの実態を知ること(調査)が基本。

登録文化財へ : まちづくりは理念だけを話していても進展しない。このワークショップのように行動をおこすことが重要で、目に見える行動の 1 つとして登録文化財制度を活用することが考えられる。

周辺環境も含めて大切に : 建物だけでなく石造物や周辺の海・緑など、視野を広げることが重要。



登録文化財制度：築後 50 年を経過している建造物で、歴史的景観に寄与しているものなどを文化財として国(文化庁)に登録することで、修理の設計監理費に対する補助や、改修費用が低利で融資されるなどの優遇措置が適用される制度。

ワークショップの成果

道路やその付属物に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)	グループ名
本通り	景観を良くする	・電柱を地中化して本来のまちの景観に ・景観に合うカーブミラーを検討する ・空きスペースに花壇をつくる ・舗装を改修する時には足にやさしい舗装材を使う	西 A
	まちなみにあわせる	・舗装の色を茶色系統にする	西 B
	まちなみに調和させる	・舗装を落ち着いた色調に変える ・通りの両側だけでも石畳にする (歩道っぽく見えるのでドライバーが注意する) (ばんこを出しても車の迷惑にならない「ばんこ道」) (その工事に合わせて電線を地中化する)	東 B
おか(仲)通り	町外の人をおもてなしする環境を整える	・カラー舗装を改修する ・電線を地中化する ・街路灯をデザイン良く改修する ・ばんこを復活させる	中 B
海岸道路	景観を良くする	・低木で緑化し、休憩スペースをつくる	西 A
	憩いや癒しの場として	・所々にベンチを設置する(休みながら・憩いの場)	東 A
	海が見やすくなるよう	・電線を地中化する	東 B
	漁港のまちをアピール	・今の街路灯の電球が切れたら、次からは同じ電球の色に統一する ・住民のウォーキングコースになる広い遊歩道をつくりオレンジ色の街路灯で演出する	東 B
本通りと海岸道路を結ぶ道	狭い道での安全を確保	・一方通行にできるかどうかを検討する	東 B
まちなか	景観を良くする	・電線を地中化したり、裏側の目立たない位置に移設する ・地名や地番も表示されたおしゃれな街灯を設置する	東 A
	勝本らしさを表わす	・ばんこをDIYでつくって設置する	東 A
	安心して歩く	・信号を増やす	東 A
聖母宮までの道	誰にでもわかりやすく	・矢印程度のちょっとした案内板(道しるべ)を設置する(「マップ」は詳しくなければわからない)	西 A
要所	誰にでもわかりやすく	・現在地がわかるような案内板を設置する ・観光案内板を設置する ・駐車場までの誘導サインを設置する	西 B 中 B 東 B
	景観を損なわないよう	・案内所までの誘導サインを設置し、余計なサインは設置しない	中 A
	行事等を知らせる	・イベント案内等を張り出す	西 B

まち全体のつくりやソフトに関するもの・こと その他

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)	グループ名
要所	伝統行事を親しみやすくする	・聖母宮の祭り等の説明板を、地域に合った素材でつくる	西 A
朝市	活性化させる	・スタンプを集めると参加できる、地域の物産が当たる抽選会の実施 ・土・日に小中学生に体験させる(継続的に) ・すれ違った人たちに大きな声であいさつする	中 A
地区全域	誰にでもわかりやすく	・見やすいマップをつくる	西 B 東 B
	まちをきれいにする	・一人ひとりの意識を高める(地域や学校での教育、ポスターをつくってのPR、捨てる人への声掛け等) ・各種団体への清掃活動の依頼 ・住民がまち歩きを楽しみながらクリーン作戦を展開 ・全世帯でフラワーポットを飾り、色どりのある町並にして、ゴミを捨てられない町としてPR	中 A
	町外の人をおもてなしする環境を整える	・ボランティアのまち歩き案内役を募る ・定期的なボランティア清掃をする ・散策できるようなルートをつくる(分コースなど)(特に黒瀬商店街を重点的に)	中 B 東 B
	歴史的建造物等の価値を多くの人に紹介	・まち歩きのコースをつくり、調べたり体験しながら見て回れるようにする(ウォークラリー、クイズラリー、ジグザグのコース等)	東 A

駐車場・広場・空地などに関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)	グル ープ名
仲折裏埋立地	路上駐車をなくす	・駐車場として再利用する (まちなかに大きくつくと景観的に良くない)	西 A
空家跡地		・地域住民で地主と交渉して、駐車場をつくる	西 A
押役所址への道		・噴水のある公園をつくり、そこに駐車する	西 B
黒瀬駐車場	町外の人をおもてなし する環境を整える	・駐車禁止にする	中 B
海岸道路沿いの 駐車場		・利用しやすいように整備する	
黒瀬地区	行きやすくする	・駐車場をつくる 切実!!	東 A
勝本保育所跡地	活用されていない	・広場として整備する	西 A
鹿神社	見晴らしが良い	・遊園地として整備する	西 B
鹿ノ下東公民館 前の公園	気持ち良く利用できる	・広場として再整備する	西 A
既存の公園	安全に遊べるよう	・草を切ったりゴミを拾ったりする	東 A
既存の花壇	まちなみに調和させる	・ブロック積を自然石やレンガ積に変える	東 B
金比羅神社		・相撲場を復活する	西 B
商店街入口付近	住民・買物客・観光客が ひと息つける	・ポケットパーク(小広場)をつくる	中 B
永田化粧品店跡			
エムマート近くの 空地			
黒瀬地区	あそび場がない	・公園でみんなと遊ぶ(釣り堀も良いかも) ・公園でイベントをする	東 A
能満寺周辺	町を一望する	・地区の展望スペースとして整備する	中 B
アホウ堀前の 井戸廻り	雰囲気を高める	・井戸端会議ができる小広場として整備する	東 B
石橋酒店前の緑地	更にホッとひと息つけ る場となるよう	・買物客も憩える場として整備する	東 B
仲折公民館の横	まち歩きにも便利	・公衆トイレをつくる	西 A
正村公民館の横			
黒瀬駐車場の横	気持ち良く利用できる	・公衆トイレを改修する	中 B
黒瀬地区	行きやすくする	・まちなみに合った公衆トイレをつくる (白壁・レンガ造)	東 A
	朝市・イベント時に買物 客が使いやすいよう	・各店舗と市が協力して、今あるトイレが更に利用しや すくなるよう工夫する	中 A

史跡・文化財・神社・寺院・鳥居・ほこら・石堀・井戸などに関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)	グル ープ名		
聖母宮	歴史的建造物等を 大切にす	・登録有形文化財の制度を利用する	西 A		
聖母宮周辺の 鳥居や石垣等					
馬蹄石	誰にでもわかりやすく	・地域に合った素材でつくった写真入りの説明板・案内 板を設置する	西 A		
稲荷大明神					
朝鮮通信使 迎在所跡	地域の歴史に親しむ	・それぞれの場所の歴史やいわれを調査する	西 B		
勝本押役所址		・物語風に伝説等を紹介した説明板を設置する			
田間川尻公民館					
鹿神社					
金比羅神社					
対馬屋敷跡の堀					
河合曾良終焉の地	誰にでもわかりやすく	・説明板を設置する	中 B		
アホウ堀	歴史的建造物等の価値 を多くの人に紹介	・パンフレットやミニマップをつくって紹介する	東 A 東 B		
地命寺		・手軽に見れるミニ写真集をつくる			
印にやく神社		・由来等を記した説明板を立てる			
おかりど神社		・勝本町で指定していた文化財の洗い直しをする			
弥勒堂					
八大龍王神社					
海に面した鳥居					
長四郎の墓					
小柱					
坂口公民館下の 石垣					
地藏堂					
各地区のスポット		回遊しやすくする		・他のスポットの情報がわかるようにガイドする	中 A

地区の拠点(目玉)となる施設に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)	グループ名
空家	建物の特徴を残す お手本にする	・まち歩き休憩所(スペース)をつくる	西B
	保存・活用を検討する	・どこにあるか・利用できるかどうか等の状況を調べる	東B
旧つたや旅館 原田酒造の蔵 旧警察署	保存・活用する	・改修し夜間にライトアップする ・休憩所にする ・朝市に来た家族連れのための子供の遊び場にする ・ブティックや喫茶店にする	中A
	気軽に立ち寄れる場に	・資料館・喫茶スペース・無料休憩所とし、散策コースの中継点とする	中B
	まちの歴史を多くの 人に紹介する	・石井さんのコレクションや地域の中で集めた昔の道具等を展示する ・老朽化した箇所を修復し、建物内部の造りも見られるようにする	中B
原田酒造 殿川酒造場	気軽に立ち寄れるよう 買物客の休憩や出会い があるよう	・お酒の試飲ができる場所をつくる ・店舗内に休憩スペースを設ける (ばんこ、イス、テーブル、フラワーポット等)	中A 中A
朝市通り	活性化させる	・拠点となる施設を利用してイベントをする ・花を置く	中A
勝本朝市場内		・魚が食べられる店や、捕れる魚の展示(活けず)スペースをつくる	中B
海岸道路沿いの 海ぎわ	町外の人をおもてなし する環境を整える	・浮き桟橋を海上レストランとし、磯あそびで捕ったものや朝市で買ったものが食べられる場をつくる ・旅行者のための散策路整備として「たな」を復元する	中B
旧松本薬局	歴史を伝える建造物等 を大切に	・ギャラリー(写真・絵)兼コーヒーショップにする	東A
	商店街への客の流れ 込みを促す	・石井さんの写真を展示する ・陶器・ガラス・染物・漆等の工芸ショップも併設する	東B
吉田酒店 石橋酒店	気軽に立ち寄れる場に	・試飲や酒造り体験ができるようにする	東A
	買物客が商店街から足 を延ばす雰囲気づくり	・酒造りの古い道具類を通りに向かってディスプレイ ・ミニコンサートを開催する ・漁具を展示し、九州一の漁船集落をアピールする ・今の生活・商売との折り合いや改修方法は今後の課題	東B
元銭湯の建物	まち歩き後の休憩に	・銭湯の復活または足湯でいやしの場をつくる	東A
	住民も観光客も憩える ように	・昔のように人が集まるたまり場につくり替える	東B
深山荘	町外の人をおもてなし する環境を整える	・古美術ギャラリーのあるコーヒーショップ兼休憩所に	東B
漁協倉庫	海に面する建物を住民や 観光客も活用する	・捕れたて魚市やフリーマーケットの会場として活用する	東B
鯨組助定納屋場址	歴史を後世に伝える	・復元を検討する	東B

住宅や店舗などの建物に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)	グループ名
尾形家住宅 原田彰夫家住宅 藤嶋家住宅 川村酒店 原田義博家住宅 香椎家住宅 篠崎家住宅	歴史的建造物等を 大切に	・所有者に保存をお願いする ・登録有形文化財の認定制度を住民に理解してもらう ・所有者の理解を得て新建材を取り外し、元の使用材料で復元する ・写真入りの説明板を、地域に合った素材でつくる	西A
歴史的な建物	建物の特徴を伝える 建物のつくりを受継ぐ リフォームの参考に	・建物の特徴をまとめて示す(マニュアル化)	西B
歴史的に貴重な 古民家(空家)	保存・活用する	・広く公募して芸術家に住んでもらう	中A
空家	まちなみの雰囲気を 損なわないよう	・「さびれた」感じでなく「風情がある」ように見せる工夫を考える	東B

西Aグループ：藤嶋とゆかいな仲間たち

西Bグループ：ピクトリー8

中Aグループ：さまあーず

中Bグループ：勝本はま・おかドルフィンズ

東Aグループ：きれいにし隊

東Bグループ：チーム・イシイ



「勝本浦の景色と生活」

勝本小学校 児童作品集（抜粋）

当日の会場には、林まちづくり推進委員長が前回のワークショップで提案した「まちづくり・5つの試行イベント」のうちの1つとして、小学生が夏休みの自由課題として取り組んだ「勝本浦の景色と生活」をテーマにした絵も展示されました。総数78枚にもおよぶこれらの絵は、どれもまちの特徴を捉えた、まちへの愛情にあふれたものでした。勝本浦で大切にしたいと思っている所やお気に入りの場所を絵に描くことで、こどもたちやその保護者の方々も、あらためてこの地域の良さを感じられたのではないのでしょうか。こうした住民自らによるイベントや活動が、今後も1つずつ積み重ねられることで、まちづくりの気運が高まっていくことが期待されます。



4年 中上健也君



1年 なかはらこうきくん



1年 よしもとたくみくん



2年 山下修治君



3年 篠崎史帆さん



6年 中上麻里さん



3年 中原有美さん



6年 平畑潤也君



6年 尾形実優さん



5年 中原悠太君



西先生より …【まちづくりの心得】…

電線の地中化や駐車場の確保などは予算的に無理という話になりがちだが、誰かが声を上げないと行政も人も動かない。「こんなことは難しいかな」と思っても、声を出し続けることが大切。一斉掃除をする、花を植える、案内板やマップをつくるなど、自分たちができることを考える。その時に、まちなみのキーワードである「統一デザイン」を大切にする。まちなみ まちづくりはすぐには前進しない。長い目で見、ゆっくりでも確実に進んでいくことが大切。例えば、自宅を改修する機会があったらその時にちょっと工夫する、などをみんなで積み重ねていく。

ワークショップでのアンケートコメント集(抜粋)

Q1. 今日の西先生のお話やワークショップに参加した感想は？

- ・専門家の目から見た勝本の魅力を知ることができ、まちづくりへの今後の取組みに向けた方向性がみえた。
- ・地道にあせらず取組むことの必要性を教えられました。
- ・第2回の時より内容のある意見が出て、深まりがあったように思います。
- ・今回は参加者が少なかったのが残念だった。
- ・いままでのワークショップよりも時間が長かったからつかれた。



Q2. これまでに提案されたまちづくりの取組みのうち「自分も参加できる」と思う活動は？(印を付ける)

印を付けた人の総数：29名

印の総数：119ヶ(1人平均4.1ヶ)

印が多い順位	まちづくりへの取組み内容	印を付けた人数	印を付けた人の割合
1	定期的なゴミの一斉掃除に参加する	15人	52%
2	見やすくわかりやすい散策マップをつくる	12人	41%
3	まちづくりに関する絵やポスター・標語のコンクールに出品する	11人	38%
4	どういう広場をつくれば良いかを考える	9人	31%
5	空地などに花壇をつくる	8人	28%
	朝市での販売を体験する		
7	自宅の廻りにフラワーポットを置き、花で飾る	7人	24%
	地区の歴史やいわれの聞き取り調査をする		
	拠点となる施設でのイベントの企画・運営に参加する		
10	イベント時に仮設の「たな」「ばんこ」づくりなどをする	6人	21%
	朝市にフリーマーケットを出店する		
12	まち歩きガイド役をする	5人	17%
	まちの資産を紹介するパンフレットをつくる		
	古い建物の特徴をまとめてマニュアルをつくる		
15	まちなみにあわせた自宅の改修方法を考える	3人	10%
16	展示品として昔の道具や美術品等を貸し出す	2人	7%
	空家を借りて出店する		
18	空家を借りて趣味の教室等を開く	1人	3%

Q3. これからの勝本浦のまちなみ・まちづくりについてなど、ご自由に。

- ・まちを良くするには、そこに住む人の心・全員が進んで参加する心を持つことだと思います。
- ・中・高生を誘っていただきたい。
- ・出来ることから始めることの大切さを思いました。
- ・なるべくお金のかからない取組みをどんどんやっていくべきだ。
- ・少しずつアイデアを絵におとすことで具体性が増した。これを元にみんなで意見交換できればと思います。



次回(最終回)のワークショップは、10月24日(月) 19:00~21:30

テーマ：「まちなみの整え方を考えよう！」

場所：勝本地区公民館 2階ホール です。

これまでに参加された、されなかったにかかわらず、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

第4回ワークショップ かわら版

平成 17 年 11 月 17 日 発行

日時： 平成 17 年 10 月 24 日(月) 19:00~21:30

場所： 勝本地区公民館 2 階ホール

主催： 彦岐市・彦岐勝本浦まちづくり推進委員会

問い合わせ先： 彦岐市観光商工企業課 TEL.48-1111

去る 10 月 24 日、「まちなみの整え方を考えよう！」をテーマに、第 4 回ワークショップが開催されました。

前半は、「まちなみ景観 ×ゲーム！」と題して、勝本浦地区内の色々な場所のスライドを見て、その景観がまちなみに合っているかどうかを、か×の旗を上げて答えるゲームをしながら、勝本浦のまちなみ景観の見方や捉え方について、意見交換しました。

後半のワークショップでは、西・中・東地区それぞれ約 120 枚ずつの勝本浦のまちなみ写真を見ながら、建物外観の「良いところ・残したいところ」や「変えたいところ」について、グループ毎に話し合いながら、シートにまとめて発表しました。

参加者	地元住民	: 12名
	小中高校生	: 6名
	地元以外の方	: 5名
	事務局等	: 14名
合計		: 37名

「まちなみ景観 ×ゲーム！」での意見（抜粋）

「個人所有の建物に対して×とは言にくい」という意見もありましたが、「×」は「 ×とは言いきれないもの」という意味で、か×の旗をみなさんに上げていただきました。（×）にした理由についてのコメントをいくつか紹介します。



聖母宮廻り

石垣が続いており、歴史ある勝本浦らしい景観
× 石垣に合った石畳の舗装の方が良さそう



2 階の手すり

色々な手すりが見えるのは勝本浦らしい
× 建替えられた家の手すりはアルミサッシの内側にあるので残念



御柱(小柱)廻り

朝市に来た観光客にもわかりやすい場所に設置されているのが良い
× 磯あそびの旗の方が目について、小柱がわかりにくい



原田酒造廻り

レンガと白壁の蔵のある風景で、大切にしたい
× 舗装の色に違和感があるので、建物に調和した舗装に変えると、もっと良くなるのではないかと



勝本地区公民館

白っぽい控え目な色なので、大きいけど目立ち過ぎなくて良い
× 大きい建物でも、何かまちなみになじませる工夫が必要ではないかと



石橋酒店・吉田酒店

伝統ある酒屋さんが並ぶ風景は勝本浦らしい
緑が飾られているので、歩いていてもホッといやされる
× 内部のつくりや置いてあるものが素晴らしいのに、外から感じられないのが残念

ワークショップの成果

まちなみ・建物外観についての意見（抜粋）

（良...良いところ・残したいところ 変..変えたいところ）

建物の仕様・構造・規模・高さ・階数について

- 良・商店街の屋根の高さを一定にして、背景の緑(山)が見える景観を保っていききたい(中A)
- 良・藤嶋さん宅は古い様式や建築材料がそのまま残されていて良い(西B)
- 良・原田酒造さんは全体的に残すべき(中B)
- 良・旧つたや旅館は3階建てでめずらしいので残したい(中A)
- 良・古い建物のもつ雰囲気を残していききたい(東A)
- 変・新しい建物の高さを昔からの建物にそろえられれば良いのでは(東A)
- 変・公共施設は大きい建物が多く影響も大きいので、改修する時にはまちなみになじむようにして欲しい(東B)



屋根について

- 良・瓦屋根がつづいている景観は美しい(中B)
- 変・屋根の色を統一した方が良いのではない(西A)
- 変・四角い建物があると、屋根のラインが途切れてしまう(東A・B)
- 変・軒の高さをそろえられない(東A)



外壁について

- 良・1階と2階の色が違うが、並んでいる家のつくりが似ているので落ち着いて見える(西A)
- 変・1階と2階の色・デザイン・材質を統一してはどうか(西A・中B)
- 変・壁の色を統一した方が良いと思う(西A・B・東A)
- 変・トタンの壁を板張りなどに直したい(西A・中A・B)
- 変・隣が空地になったために見えてきた大きな妻壁を、きれいに改修するための助成ができない(東B)
- 変・昔ながらの建物の隣に近代的な建物があり、アンバランス(西A・中B)
- 変・新建材でなく、自然のものに近いものにして欲しい(西B)
- 変・コンクリートや新建材の大きな壁面がなんとかならない(中B)
- 変・コンクリートの壁は合わない(西A・B)
- 変・傷んだ外壁は修理し、大切にしているという雰囲気にしないと、たださびれただけという感じに見えてしまう(東A・B)



玄関・出入口・窓について

- 良・玄関や窓が木製なのが良い(西A・B)
- 良・アルミサッシの色がまちなみに合っている(東A)
- 変・玄関のアルミドアや2階のアルミサッシを木製にしたい(西A・B・中A)
- 変・シルバーのサッシの色を変えられない(中B・東A)



細部意匠(庇・手すり・持ち送り・バンコ等)について

- 良・馬場先や中折からの買物客はお年寄りが多く、よく休憩している人を見るので、バンコを残したい(西A)
- 良・バンコのある風景は大切に残したい(東B)
- 良・木製の凝った手すりを残したい(西A・B)
- 良・持ち送りはぜひ残したい(西A・B)
- 変・1階の庇は瓦の方が良い(西B)
- 変・窓の内側にある手すりを外から見えるようにしたい(西B・中B・東A)
- 変・外壁が2階までまっすぐ立ち上がった新しい家でも、下屋庇を付けければもう少しまちなみとしてそろって見えるのではない(東B)



設備類(エアコン室外機・プロパンボンベ・自動販売機等)について

- 良・エアコンの室外機が木柵で目隠しされているのが良い(中A・B)
- 良・自動販売機が建物内部に設置され、側面が目立たないので良い(東B)
- 変・立派な持ち送りの横にガスメーターが付いている(西B)
- 変・エアコンの室外機が目につくので、隠すようなカバーができないか(西B・中A・B・東A・B)
- 変・自動販売機の色が目につきすぎる(中A・B)



看板・テント・広告物・ディスプレイ等について

- 良・酒屋さんの看板の色合い・ロゴの大きさが良い(西A)
- 変・テントの統一化を図ってはどうか(中A・B)
- 変・テントと店名表示の機能を分けてはどうか(中B)
- 変・看板の色をカラフルにするのではなく、まちなみに合うように工夫できないか(東A・B)



道路との境界部(塀・門・柵・生垣等)について

- 良・玄関先や軒下にプランターの花や植木が飾ってあるのが良い(西A・B)
- 良・路地沿いの家々を含め、全体的に壁面がそろっているのが良い(中B)
- 変・ブロック塀よりも生垣の方が良い(西B)
- 変・コンクリート造の大きな建物の前にはプランターを置くなどして、いどりを与えてはどうか(中B)



その他(道路やその付属物・広場・駐車場等)について

- 良・まちなみがカーブしているところが、港町らしくて良い(西A・B・中A)
- 良・家と家の間の路地がずっと奥まで続いている景観が良い(西A・東B)
- 良・朝市や、近代化していない昔の八百屋さんのような雰囲気のお店を残したい(中A)
- 変・町の入口に勝本らしさがない(中A)
- 変・通りの入口にある空家なので、その通りの顔となるものに改修し活用できないか(東B)
- 変・旧松本薬局は時代を感じさせる雰囲気が素晴らしいので、開放・活用できるように変えたい(東B)
- 変・石橋 吉田酒店は、中の古き良き建物の風情が外観にも伝わってくればもっと素敵になるのでは(東A・B)



林推進委員長より

各グループとも、良いところ・残したいところはほぼ一致してきた。

- ・古い建物や石垣などの歴史的なものや、自然素材でつくられた外壁・手すり・持ち送りなど
 - ・勝本らしさを感じる、ゆるくカーブした通りや家と家のすき間など
 - ・プランターを置き掃除をしたり、朝市を継続したりという、人々の努力
- また、変えたいところも一致してきた。
- ・近年加わってきたもの、例えば、トタン・ボード・コンクリート・新建材の外壁や、エアコン室外機・舗装・看板・電柱・電線・路上駐車など

まちづくりで大切な「発見」と「再活用」 傷んだ外壁を改修する、屋根や看板の色やつくり統一感を出す、ブロック塀を変えるなど、お金をかけずにどこから取り組むかを探っていけば、それほど難しいことではない。

それとは別に、元気が出ることもしていきたい。イベント等で、このまちの楽しさを味わいたい。



- ・ワークショップで「外から中がうかがえない」ことまで踏み込んで話されるのはまれ。
- ・「開放感」が勝本浦の特徴なので、今後さらにみんなで考えていけばもっと良くなる。

ワークショップでのアンケートコメント集(抜粋)

Q1.今日のワークショップに参加した感想は？

- ・xゲームは町全体のイメージにつながる感じで良かった。
- ・人の財産のことにももの申すのは大変むずかしい。
- ・勝本浦民総参加でのワークショップだったが、小中学生の参加でいろんな視点からの意見が入ったし、また、どの班も同じ意見が多かった。

Q2.ミニコンサートにふさわしい場所・ジャンル・雰囲気は？

- ・場所：原田酒造さんの蔵 / 石橋酒店さんの裏の庭 / 黒瀬駐車場などの広い場所
- ・ジャンル：クラシック / ジャズ / アコースティック系 / 軽音楽 / 童謡
- ・雰囲気：楽しくやさしい温かい / 酒・ワインを飲みながら / レトロな雰囲気

Q3.今後のまちづくり活動により多くの住民が参加されるようになるための工夫は？

公民館単位で / イベントの開催 / キーマンの選出 / 広報の徹底 / 各団体からの意見聴取

まちなみミニコンサートのお知らせ

ワークショップで多くのみなさんからご提案いただきました「まちづくりの試行イベント」として、「まちなみミニコンサート」を企画しています。

日時：12月16日(金) 夕方(予定)
場所：原田酒造さんの蔵 (予定)

これは、半年間にわたるワークショップの1つの成果として、勝本浦の歴史的な建物をイベントに活用する試みです。日時・場所は決定次第、あらためてご案内致します。ワークショップに参加された、されなかったにかかわらず、多くのみなさんにお越しいただき、一緒に心地良い空間でのひとときを楽しみましょう！

ワークショップに参加された方々(順不同・敬称略)

これまでのワークショップにご参加いただき、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。これからも、より多くの住民のみなさんとともに、勝本浦地区の美しいまちづくりを進めていきたいと思っております。

西A：藤嶋とゆかいな仲間たち

吉田 大倫	原田美知子
長谷川福和	松尾 彰夫
川久保瑠美	中原由美子
田口美代子	松崎 靖男
小畑 佳太	堀口 茜
山内 崇嗣	大川井寛子
藤嶋 光信	中原 康寿
須藤 正人	市山 恵

西B：ピクトリー8

下條早智子	山口 愛理
中原 正博	篠崎 嘉仁
平畑 直美	粕永 貴徳
横山 秀敏	中尾 昌弘
平田 恵	丸林 範子
松尾 営子	町田 博昭

中A：さまぁーず

下條 幸博	辻 継一郎
平畑 潤也	殿川 敏朗
川崎 智史	野中 剛
豊坂 守	納富 正臣
渡野 栄治	大坪 嘉彦
長池 一徳	末永 健次
後藤 満雄	米本 実
谷口 実	山口 祐二

東A：きれいにし隊

石橋 秀基	松尾 昌弥
辻 和秀	森山 浩
川久保龍之輔	吉田 祥郎
西川 弘成	高浜 錦哉
柏木 健太	深山 彰子
永田 仁	山本 善勝

東B：チーム・イシイ

兼田 もも	斉藤 光
辻 克之	石橋久美子
石橋 陽一	阿田 福子
阿田 紀子	斉藤喜代子
山下 寿一	永田 侖
永田チズ子	中田 康博
山口 裕子	山口まどか
重田 章	山口 恵子
石井 敏夫	古川 智博

中B：勝本はま・おかど・ルイズ

原田亜里沙	原田 穎一
中上 慶孝	中上 久子
阿田 大毅	下條 愛
山川 正毅	坂本華奈子
下條 明博	松本 陽治
黒田 信司	國廣 正彦
堀江 敬治	

アドバイザー・事務局

西 和夫	林 一馬
西村 善明	吉井 弘二
清水耕一郎	

勝本浦地区美しいまちづくり推進事業におけるワークショップ 取組み方の提案

まちの骨格に関するもの・こと その他

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)
要所	伝統行事を親しみやすくする	・ 聖母宮の祭り等の説明板を、地域に合った素材でつくる
地区全域	町外の人をおもてなしする環境を整える 歴史的建造物等の価値を多くの人に紹介	・ 散策できるようなルートをつくる(分コースなど) (特に黒瀬商店街を重点的に) ・ まち歩きのコースをつくり、調べたり体験しながら見て回れるようにする (ウォークラリー、クイズラリー、ジグザグのコース等)

街路に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)
本通り	景観を良くする	・ 電柱を地中化して本来のまちの景観に ・ 景観に合うカーブミラーを検討する ・ 空きスペースに花壇をつくる ・ 舗装を改修する時には足にやさしい舗装材を使う
	まちなみにあわせる まちなみに調和させる	・ 舗装の色を茶色系にする ・ 舗装を落ち着いた色調に変える ・ 通りの両側だけでも石畳にする (歩道っぽく見えるのでドライバーが注意する) (ばんこを出しても車の迷惑にならない「ばんこ道」) (その工事に合わせて電線を地中化する)
おか(仲)通り	町外の人をおもてなしする環境を整える	・ カラー舗装を改修する ・ 電線を地中化する ・ 街路灯をデザイン良く改修する ・ ばんこを復活させる
海岸道路	景観を良くする	・ 低木で緑化し、休憩スペースをつくる
	憩いや癒しの場として 海が見やすくなるよう 漁港のまちをアピール	・ 所々にベンチを設置する(休みながら・憩いの場) ・ 電線を地中化する ・ 今の街路灯の電球が切れたら、次からは同じ電球の色に統一する ・ 住民のウォーキングコースになる広い遊歩道をつくりオレンジ色の街路灯で演出する
本通りと海岸道路を結ぶ道	狭い道での安全を確保	・ 一方通行にできるかどうかを検討する
まちなか	景観を良くする	・ 電線を地中化したり、裏側の目立たない位置に移設する ・ 地名や地番も表示されたおしゃれな街灯を設置する
	勝本らしさを表わす 安心して歩く	・ ばんこをDIYでつくって設置する ・ 信号を増やす
聖母宮までの道	誰にでもわかりやすく	・ 矢印程度のちょっとした案内板(道しるべ)を設置する (「マップ」は詳しくなければわからない)
要所	誰にでもわかりやすく	・ 現在地がわかるような案内板を設置する ・ 観光案内板を設置する ・ 駐車場までの誘導サインを設置する
	景観を損なわないよう 行事等を知らせる	・ 案内所までの誘導サインを設置し、余計なサインは設置しない ・ イベント案内等を張り出す

小広場・駐車場に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)
仲折裏埋立地	路上駐車をなくす	・駐車場として再利用する (まちなかに大きくつくと景観的に良くない)
空家跡地		・地域住民で地主と交渉して、駐車場をつくる ・噴水のある公園をつくり、そこに駐車する
押役所址への道		・駐車禁止にする
黒瀬駐車場	町外の人をおもてなし する環境を整える	・利用しやすいように整備する
海岸道路沿いの 駐車場		
黒瀬地区	行きやすくする	・駐車場をつくる 切実!!
勝本保育所跡地	活用されていない	・広場として整備する
鹿神社	見晴らしが良い	・遊園地として整備する
鹿ノ下東公民館 前の公園	気持ち良く利用できる	・広場として再整備する
既存の公園	安全に遊べるよう	・草を切ったりゴミを拾ったりする
既存の花壇	まちなみに調和させる	・ブロック積を自然石やレンガ積に変える
金比羅神社		・相撲場を復活する
商店街入口付近	住民・買物客・観光客が ひと息つける	・ポケットパーク(小広場)をつくる
永田化粧品店跡		
エムマート近く の空地		
黒瀬地区	あそび場がない	・公園でみんなと遊ぶ(釣り堀も良いかも) ・公園でイベントをする
能満寺周辺	町を一望する	・地区の展望スペースとして整備する
アハウ堀前の 井戸廻り	雰囲気高めめる	・井戸端会議ができる小広場として整備する
石橋酒店前の緑地	更にホッとひと息つけ る場となるよう	・買物客も憩える場として整備する
仲折公民館の横	まち歩きにも便利	・公衆トイレをつくる
正村公民館の横		
黒瀬駐車場の横	気持ち良く利用できる	・公衆トイレを改修する
黒瀬地区	行きやすくする	・まちなみに合った公衆トイレをつくる (白壁・レンガ造)
	朝市・イベント時に買物 客が使いやすいよう	・各店舗と市が協力して、今あるトイレが更に利用しや すくなるよう工夫する

町屋(住宅・店舗等)に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)
尾形家住宅 原田彰夫家住宅 藤嶋家住宅 川村酒店 原田義博家住宅 香椎家住宅 篠崎家住宅	歴史的建造物等を 大切にす	・所有者に保存をお願いする ・登録有形文化財の認定制度を住民に理解してもらう ・所有者の理解を得て新建材を取り外し、元の使用材料 で復元する ・写真入りの説明板を、地域に合った素材でつくる
歴史的な建物	建物の特徴を伝える 建物のつくりを受継ぐ リフォームの参考に	・建物の特徴をまとめて示す(マニュアル化)
歴史的に貴重な 古民家(空家)	保存・活用する	・広く公募して芸術家に住んでもらう
空家	まちなみの雰囲気を 損なわないよう	・「さびれた」感でなく「風情がある」ように見せる工夫 を考える

拠点施設に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)
空家	建物の特徴を残す お手本にする 保存・活用を検討する	・まち歩きのリゾート(スペース)をつくる ・どこにあるか・利用できるかどうか等の状況を調べる
旧つたや旅館 原田酒造の蔵 旧警察署	保存・活用する 気軽に立ち寄れる場に まちの歴史を多くの 人に紹介する	・改修し夜間にライトアップする ・リゾートにする ・朝市に来た家族連れのための子供の遊び場にする ・ブティックや喫茶店にする ・資料館・喫茶スペース・無料リゾートとし、散策コースの 中継点とする ・石井さんのコレクションや地域の中で集めた昔の道具 等を展示する ・老朽化した箇所を修復し、建物内部の造りも見られる ようにする
原田酒造 殿川酒造場	気軽に立ち寄れるよう 買物客のリゾートや出会い があるよう	・お酒の試飲ができる場所をつくる ・店舗内にリゾートスペースを設ける (ばんこ、イス、テーブル、フラワーポット等)
朝市通り	活性化させる	・拠点となる施設を利用してイベントをする ・花を置く
勝本朝市場内		・魚が食べられる店や、捕れる魚の展示(活けず)スパー スをつくる
海岸道路沿いの 海ぎわ	町外の人をおもてなし する環境を整える	・浮き桟橋を海上レストランとし、磯あそびで捕ったも のや朝市で買ったものが食べられる場をつくる ・旅行者のための散策路整備として「たな」を復元する
旧松本薬局	歴史を伝える建造物等 を大切に 商店街への客の流れ 込みを促す	・ギャラリー(写真・絵)兼コーヒーショップにする ・石井さんの写真を展示する ・陶器・ガラス・染物・漆等の工芸ショップも併設する
吉田酒店 石橋酒店	気軽に立ち寄れる場に 買物客が商店街から足 を延ばす雰囲気づくり	・試飲や酒造り体験ができるようにする ・酒造りの古い道具類を通りに向かってディスプレイ ・ミニコンサートを開催する ・漁具を展示し、九州一の漁船集落をアピールする ・今の生活・商売との折り合いや改修方法は今後の課題
元銭湯の建物	まち歩き後のリゾートに 住民も観光客も憩える ように	・銭湯の復活または足湯でいやしの場をつくる ・昔のように人が集まるたまり場につくり替える
深山荘	町外の人をおもてなし する環境を整える	・古美術ギャラリーのあるコーヒーショップ兼リゾートに
漁協倉庫	海に面する建物を住民や 観光客も活用する	・捕れたて魚市やフリーマーケットの会場として活用する
鯨組勘定納屋場址	歴史を後世に伝える	・復元を検討する

史跡・文化財等に関するもの・こと

どこを (場所・範囲)	何のために (目的・効果)	どうするか (具体的な取組み方や整備内容の提案)
聖母宮 聖母宮周辺の 鳥居や石垣等	歴史的建造物等を 大切に	・登録有形文化財の制度を利用する
馬蹄石 稲荷大明神 朝鮮通信使 迎在所跡	誰にでもわかりやすく	・地域に合った素材でつくった写真入りの説明板・案内 板を設置する
勝本押役所址 田間川尻公民館 鹿神社 金比羅神社 対馬屋敷跡の堀	地域の歴史に親しむ	・それぞれの場所の歴史やいわれを調査する ・物語風に伝説等を紹介した説明板を設置する
河合曾良終焉の地	誰にでもわかりやすく	・説明板を設置する
アハウ堀 地命寺 印にやく神社 おかりど神社 弥勒堂 八大龍王神社 海に面した鳥居 長四郎の墓 小柱 坂口公民館下の 石垣 地藏堂	歴史的建造物等の価値 を多くの人に紹介	・パンフレットやミニマップをつくって紹介する ・手軽に見れるミニ写真集をつくる ・由来等を記した説明板を立てる ・勝本町で指定していた文化財の洗い直しをする
各地区のスポット	回遊しやすくする	・他のスポットの情報がわかるようにガイドする

ソフトに関するもの・こと

朝市	活性化させる	・スタンプを集めると参加できる、地域の物産が当たる 抽選会の実施 ・土・日に小中学生に体験させる(継続的に) ・すれ違った人たちに大きな声であいさつする
地区全域	誰にでもわかりやすく まちをきれいにする	・見やすいマップをつくる ・一人ひとりの意識を高める (地域や学校での教育、ポスターをつくってのPR、 捨てる人への声掛け等) ・各種団体への清掃活動の依頼 ・住民がまち歩きを楽しみながらクリーン作戦を展開 ・全世帯でフラワーポットを飾り、色どりのある町並に して、ゴミを捨てられない町としてPR
	町外の人をおもてなし する環境を整える	・ボランティアのまち歩き案内役を募る ・定期的なボランティア清掃をする

勝本浦地区美しいまちづくり基本計画

平成18年1月発行

発行：吉岐市

編集：(株)アルセッド建築研究所
